

教育テック大学院大学

2025年度

シラバス

## シラバス目次

教育テック総論 .....	2
教育データ・アナリティクス論（Ⅰ） .....	7
教育データ・アナリティクス論（Ⅱ） .....	11
教育デジタルエコシステム概論 .....	15
教育テック事例研究（Ⅰ） .....	19
教育テック事例研究（Ⅱ） .....	23
教育学特殊講義 .....	27
教育国際論 .....	31
教育効果論 .....	34
教育国際交流演習 .....	38
持続可能な開発のための教育 .....	41
教育デジタルエコシステム演習 .....	45
教育テックの倫理的・法的・社会的な課題(ELSI) .....	48
教育テックのためのICT基礎 .....	52
プログラミング特論 .....	55
カリキュラム・マネジメント .....	59
ICTを活用した就学前教育 .....	63
ICTを活用した初等中等教育 .....	67
ICTを活用した高等教育 .....	71
ICTを活用した特別支援教育 .....	75
XRの教育応用 .....	79
教育政策論 .....	84
ソーシャル・アントレプレナーシップ論 .....	88
教育マーケティング・広報ブランディング .....	92
教育機関と経営戦略論 .....	97
教育マネジメント論 .....	101
教育人材マネジメント論 .....	106
教育ファイナンス論 .....	111
教育経済学 .....	115
教育構想演習（Ⅰ） .....	119
教育構想演習（Ⅱ） .....	157
教育構想研究（Ⅰ） .....	194
教育構想研究（Ⅱ） .....	231

## 教育テック総論

講義名	教育テック総論
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義（オムニバス）
担当教員名	秋田次郎、大和田茂、大和田順子、河崎雷太、木岡一明、柴山慎一、妹尾昌俊、竹村治雄、根岸正州、藤本典裕、松田孝、山田恒夫、山本淳子

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を実装または実践することができる。 (構想の実装・実践能力)	●

履修条件	特になし
授業の概要	<p>本授業は、研究科の修了成果物となっている「教育構想実践書」の完成に向けた教育指導を行う。</p> <p>【教育テック総論】では、教育をテクノロジーや経営学の知見で進化させる「教育テック」とは何かを理解し、教育的課題や社会課題に対して、なぜ教育テックが必要なのかを理解する。研究指導科目の担当者それぞれの専門分野を知り、「教育構想実践書」の完成に基礎となる考え方に関する講義を行う。</p>

<b>授業のテーマ 及び到達目標</b>	<p>現在の教育的課題や社会課題の要因を知り、テクノロジーや経営学の活用を理解する</p> <p>○教育テックの研究で必要となる基礎的な考え方を身につける</p>		
<b>授業計画 (1回90分)</b>		<b>授業外の学習</b>	
<b>第1講</b>	<p>(第1回) 特別講義 (講義) 根岸教授 教育界の課題を含む社会課題を科学的に分析し、工学・情報科学または経済・経営学の方法論や知見から社会変革を目指す</p>	<b>事前</b>	シラバス内容閲覧
		<b>事後</b>	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (2h)
<b>第2講</b>	<p>(第2回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 竹村教授 ICTの教育応用について、各種利用状況の変遷を理解し、教育支援情報システムの変遷、VRやARの教育応用の現状と課題について学ぶ。 (第3回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 山田恒夫教授 情報学・教育工学を背景とした、デジタルエコシステムによる教育情報システム設計の現状と課題について学ぶ</p>	<b>事前</b>	授業資料の確認 (2h)
		<b>事後</b>	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (4h)
<b>第3講</b>	<p>(第4回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 柴山教授 教育機関経営について、そのベースになる組織論を通じて組織のあり方やマネジメントの理論を学び、マーケティングや広報・ブランディングの理論を通じて、教育機関の成長に向けた戦略・施策の考え方を学ぶ。 (第5回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 秋田教授 近代経済学・計量経済学を背景とする教育テック</p>	<b>事前</b>	授業資料の確認 (2h)
		<b>事後</b>	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (4h)
<b>第4講</b>	<p>(第6回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 松田教授 新しい社会 (Society5.0) に求められる資質・能力</p>	<b>事前</b>	授業資料の確認 (2h)
		<b>事後</b>	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (4h)

	<p>を真に育む ICT 等を活用した教育実践の在り方を、教育現場での実践知をもとに次の3点から問題点を提起し、「教育構想実践書」の作成に向かう動機を喚起する。</p> <p>①非認知能力の育成と学習評価 ②コンピュータサイエンスの入り口としてのプログラミング教育 ③学校経営と ICT 教育の推進</p> <p>(第7回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 大和田茂教授 保育テックに関する研究を行い、論文発表を重ねてきた経験をもとに、研究活動とはどのようなものかについて概要説明した上で、具体的に論文執筆から学会発表・論文誌掲載までのプロセスについて解説します。</p>		
第5講	<p>(第8回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 木岡教授 【学校組織開発の考え方と促進手法】閉塞した学校を活性化するために学校組織開発をいかに進めていくといいのかについて理論的・実践的に講述し、学校組織開発の視点から教育構想を描くことに繋げていく。</p> <p>(第9回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 妹尾教授 教職員の人材マネジメント、働き方改革、学校改善</p>	事前	授業資料の確認 (2h)
		事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (4h)
第6講	<p>(第10回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 藤本教授 現代の学校教育制度をめぐる諸課題について、特に学校教職員の役割とその変化などに着目しながら検討する。</p> <p>(第11回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 山本教授</p>	事前	授業資料の確認 (2h)
		事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (4h)

	幼児教育における幼児の主体的な活動と保育者の関わり、保育・幼児教育と ICT の導入の現状と課題		
第7講	(第12回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 大和田順子教授 SDGs、ESD とソーシャルイノベーション (第13回) 専門および教育テック研究紹介 (講義) 河崎教授 ゲームライクな教育方法の構想。やりたい気持ちを作る仕組みの宝庫であるゲームの教育への応用やテクノロジー活用を考える。	事前	授業資料の確認 (2h)
		事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (4h)
第8講	(第14回) 研究領域のまとめ (講義) 河崎教授 各回の内容と教育情報コースおよび教育経営コースの学びの目標を再確認し、自身の学びの目標を見直す (第15回) 専門選択に向けたディスカッション (演習) 河崎教授 小グループでそれぞれの目標を共有する	事前	授業資料の確認 (2h)
		事後	指定された文献の精読 (3h) まとめレポート (3h)
定期試験	定期試験はおこなわない。		
使用テキスト	必要な場合、LMS に資料を掲載する		
参考文献	必要な場合、別途指示する		
受講生に対する評価	各回にそれぞれ課されたコメントペーパーまたは課題レポートに対して、それぞれの教員による評価の累積で行う (100%)		
授業・課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問や問い合わせは、各教員担当に向けたメール等で受け対応する。</li> <li>・毎回の授業ごとにコメントペーパーまたは課題レポートを課す。</li> <li>・小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</li> </ul>		
オフィスアワー (オンライン曜日・	授業の前後時間、もしくは授業時間内で担当教員と相談の上、個別に設定してください。		

時間)	
受講生へのメッセージ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育データ・アナリティクス論（I）

講義名	教育データ・アナリティクス論（I）
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	秋田次郎・日引聡

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	学部入門レベルの統計学の準備があることが望ましいが必須ではない。		
授業の概要	教科書；「データ分析の力 因果関係に迫る思考法」（伊藤）および「「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法」（中室・津川）に沿って、データ・アナリティクスの主要課題を概観する。		
授業のテーマ及び到達目標	各種の統計手法、教育データの分析方法、社会調査法を理解し、教育データを取得し解析するスキルを身につけること。		
授業計画（授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある）		授業外の学習（60時間）	
第1講	（第1回）講義 はじめに 授業の全容を概説する。様々な手法が共通して企図する実証研究における因果推論の在り方についての基本的な問題意識、反事実等の基礎概念を学ぶ。	事前	シラバス・教材下検討（3h）
		事後	学習内容の復習・確認（1h）

第2講	(第2回) 講義 因果推論 伊藤第1章・中室津川第1章 なぜデータから因果関係を導くのが無づかしいのか、因果関係と相関関係との違い、見せかけの相関、逆相関等について学ぶ。	事前	教材予習 (6h)
	(第3回) 講義 ランダム化比較試験 (RCT) 1 伊藤第2章・中室津川第2章 因果推論の理想形としての「ランダム化比較試験」の発想を学ぶ。介入グループと比較グループの概念、自己選抜問題について学ぶ。	事後	学習内容の復習・確認 (2h)
第3講	(第4回) 講義 ランダム化比較試験 (RCT) 2 伊藤第2章・中室津川第2章 因果推論の理想形としての「ランダム化比較試験」の手法を学ぶ。グループ分けの無作為性、サンプル数バランスの重要性について学ぶ。	事前	教材予習 (6h)
	(第5回) 講義 自然実験 伊藤第3章・中室津川第3章 偶さか生じる実験のような状況を活用する自然実験について学ぶ。介入グループと比較グループが自然に分かれる状況とその利用について学ぶ。	事後	学習内容の復習・確認 (2h)
第4講	(第6回) 講義 回帰不連続デザイン 伊藤第3章・中室津川第6章 自然実験状況を活かす方法の一つとして、不連続的なジャンプから情報を読み取る回帰不連続 (RD) デザインについて学ぶ。	事前	教材予習 (6h)
	(第7回) 講義 集積分析 伊藤第4章 自然実験状況を活かす方法の一つとして、階段状の変化から情報を読み取る集積分析 (bunching analysis) について学ぶ。	事後	学習内容の復習・確認 (2h)
第5講	(第8回) 講義 パネル・データ分析と差の差分析 1 伊藤第5章・中室津川第4章 複数グループの複数期間に渡るデータを活かすパネルデータ分析、トレンドを除去するための差の差 (DID) 分析の発想を学ぶ。	事前	教材予習 (6h)
		事後	学習内容の復習・確認 (2h)

	<p>(第9回) 講義  パネル・データ分析と差の差分析2 伊藤第5章・中室津川第4章  複数グループの複数期間に渡るデータを活かすパネルデータ分析、トレンドを除去するための差の差(DID)分析の技法を学ぶ。</p>		
第6講	<p>(第10回) 講義  操作変数法 中室・津川第5章  原因に影響し結果には直接に影響しない第三の変数を因果推論に活用する操作変数法について学ぶ。</p> <p>(第11回) 講義  マッチング法 中室・津川第7章  介入グループと類似した比較対象を対象グループから選び出すマッチング法、プロペンシティ・スコア・マッチング法について学ぶ。</p>	事前	教材予習(6h)
		事後	学習内容の復習・確認(2h)
第7講	<p>(第12回) 講義  回帰分析 中室・津川第8章  回帰分析の基本的考え方、重回帰分析と因果推論との関係、変数の制御/コントロールの概念等について学ぶ。</p> <p>(第13回) 演習  データ分析とビジネス・政策形成 伊藤第6章  エビデンス(証拠)に基づく政策形成とその事例、留意点について学び、Excelを用いたデータ解析を実習する。</p>	事前	教材予習(6h)
		事後	学習内容の復習・確認(2h)
第8講	<p>(第14回) 講義  データ分析の不完全性と限界 伊藤第7章・中室津川補論1  因果推論とその理想形としてのランダム化比較試験の限界、分析結果の内的妥当性および外的妥当性の概念について学ぶ。</p> <p>(第15回) 演習  総括  実証研究における因果推論の在り方についての諸技法の議論を総括しつつ、Excelを用いたデータ解析を実習する。</p>	事前	教材予習(6h)
		事後	学習内容の復習・確認(2h)
定期試験	学期末に理解度確認をLMSにて行う。		
使用テキスト	○データ分析の力 因果関係に迫る思考法(光文社新書) 伊藤 公一朗		

	<p>(著) 光文社 (2017) ISBN-10 :4334039863 ISBN-13 :978-4334039868</p> <p>○「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法 中室牧子 (著), 津川友介 (著) ダイヤモンド社 (2017) ISBN-10 : 447803947X ISBN-13 : 978-4478039472</p>
参考文献	<p>○RCT 大全 アンドリュー・リー (著), 上原 裕美子 (翻訳) みすず書房 (2020) ISBN-10 : 4622089335 ISBN-13 : 978-4622089339</p> <p>○統計学が最強の学問である 西内 啓 (著) ダイヤモンド社 (2013) ISBN-10 : 9784478022214 ISBN-13 : 978-4478022214</p> <p>○計量経済学の第一歩 -- 実証分析のススメ (有斐閣ストゥディア) 田中 隆一 (著) 有斐閣 (2015) ISBN-10 : 4641150281 ISBN-13 : 978-4641150287</p>
受講生に対する評価	通常成績 (レポート等) (30%) と学期末の理解度確認 (70%) によって評価する。
授業・課題等に対する フィードバック	Google Classroom あるいは Microsoft Teams 経由で行う。
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	オンラインで行う。
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育データ・アナリティクス論（Ⅱ）

講義名	教育データ・アナリティクス論（Ⅱ）
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	秋田次郎・日引聡

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	学部入門レベルの統計学の準備があることが望ましいが必須ではない。		
授業の概要	教科書；「計量経済学の第一歩」（田中）に沿って、データ・アナリティクスの主要課題を概観する。		
授業のテーマ及び到達目標	各種の統計手法、教育データの分析方法、社会調査法を理解し、教育データを取得し解析するスキルを身につけること。		
授業計画（授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある）		授業外の学習（60時間）	
第1講	（第1回）講義 第1章：なぜ計量経済学が必要なのか 相関関係と因果関係の相違、証拠に基づく政策の概念、実験的アプローチと経計量経済学のアプローチの関係等について学ぶ。	事前	シラバス・教材下検討（3h）
		事後	学習内容の復習・確認（1h）
第2講	（第2回）演習	事前	教材予習（6h）
		事後	学習内容の復習・確認（2h）

	<p>第2章：データの扱い方 数字に隠された意味を読み取る 記述統計、母集団と標本、推測統計と統計量の概要、相関係数等について学び、Excelを用いたデータ解析で実習する。</p> <p>(第3回) 演習</p> <p>第3章：計量経済学のための確率論 不確かなことについて語る 確率、確率変数と確率分布、期待値、分散について学び、Excelを用いたデータ解析で実習する。</p>		
第3講	<p>(第4回) 講義</p> <p>第4章：統計学による推論 観察データの背後のメカニズムを探る 推測統計と統計量の詳細と仮説検討の概念を学ぶ。</p> <p>(第5回) 演習</p> <p>第5章：単回帰分析 2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる 最小二乗法の基本概念を単回帰分析において学び、Excelを用いたデータ解析で実習する。</p>	事前	教材予習 (6h)
		事後	学習内容の復習・確認 (2h)
第4講	<p>(第6回) 演習</p> <p>第6章：重回帰分析 外的条件を制御して本質に迫る 重回帰分析の基本と、変数の制御/コントロールの概念を学び、Excelを用いたデータ解析で実習する。</p> <p>(第7回) 講義</p> <p>第7章：重回帰分析の応用 本質に迫るためのいくつかのコツ 重回帰分析における二乗項、ダミー変数の利用について学ぶ。</p>	事前	教材予習 (6h)
		事後	学習内容の復習・確認 (2h)
第5講	<p>(第8回) 演習</p> <p>第7章：重回帰分析の応用 本質に迫るためのいくつかのコツ 重回帰分析における二乗項、ダミー変数の利用を、Excelを用いたデータ解析で実習する。</p> <p>(第9回) 講義</p> <p>第8章：操作変数法 政策変数を間接的に動かして本質に迫る</p>	事前	教材予習 (6h)
		事後	学習内容の復習・確認 (2h)

	回帰分析における変数の内生性問題および解決策としての操作変数法について学ぶ。		
第6講	(第10回) 演習 第8章：操作変数法 政策変数を間接的に動かして本質に迫る 操作変数法と二段階最小二乗法について学び、Excelを用いたデータ解析で実習する。 (第11回) 演習 第9章：パネル・データ分析 繰り返し観察することでわかること パネルデータ分析の固定効果(fixed effect)モデルと差の差(DID)分析について学び、Excelを用いたデータ解析で実習する。	事前	教材予習(6h)
		事後	学習内容の復習・確認(2h)
第7講	(第12回) 講義 第9章：パネル・データ分析 繰り返し観察することでわかること パネルデータ分析の変量効果(random effect)モデル、固定効果モデルといずれを用いるかについて学ぶ。 (第13回) 講義 第10章：マッチング法 似た人を探して比較するマッチング法、プロペンシティ・スコア・マッチング法について学ぶ。	事前	教材予習(6h)
		事後	学習内容の復習・確認(2h)
第8講	(第14回) 講義 第11章：回帰不連続デザイン 「事件」の前後を比較する 制度の特徴から自然実験機会を活用する回帰不連続(RD)デザインについて学ぶ。 (第15回) 演習 総括 総括 諸手法について総括し、Excelを用いたデータ解析で実習する。	事前	教材予習(6h)
		事後	学習内容の復習・確認(2h)
定期試験	学期末に理解度確認を行う。		
使用テキスト	計量経済学の第一歩 -- 実証分析のススメ(有斐閣ストゥディア) 田中隆一(著) 有斐閣(2015) ISBN-10 : 4641150281 ISBN-13 : 978-4641150287		
参考文献	○統計学改訂版(New Liberal Arts Selection) 森棟・照井他(著) 有斐閣(2015) ISBN-10 : 4641053804 ISBN-13 : 978-4641053809 ○データ分析の力 因果関係に迫る思考法(光文社新書) 伊藤 公一朗		

	<p>(著) 光文社 (2017) ISBN-10 :4334039863 ISBN-13 :978-4334039868</p> <p>○「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法 中室牧子 (著), 津川友介 (著) ダイヤモンド社 (2017) ISBN-10 : 447803947X ISBN-13 : 978-4478039472</p>
受講生に対する評価	通常成績 (レポート等) (30%) と学期末の理解度確認 (70%) によって評価する。
授業・課題等に対する フィードバック	Google Classroom あるいは Microsoft Teams 経由で行う。
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	オンラインで行う。
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育デジタルエコシステム概論

講義名	教育デジタルエコシステム概論
単位数	1
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分（講義・演習・実習）	講義
担当教員名	山田恒夫

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	生涯学習を見据えた次世代学習情報基盤という観点から、学習システムやツールの構成と連携、デジタルエコシステムとしての要件とその相互運用性を保証する国際技術標準、学習ログデータの収集と利用方法（学習解析）について学ぶ。大学等教育機関や企業の研修部門では、学習ログデータを活用する教育情報システムの導入が図られるが、その原理や機能を知ることはよりよい活用につながる。教育分野にとどまらず、システムエンジニアやデジタルコンテンツ開発者を志望する方にも知っておいていただきたい知識をまとめる。
授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育情報システム、特に教育デジタルエコシステムの設計・構築方法を知る。</li> <li>○教育情報システムの相互運用性と国際技術標準について理解する。</li> <li>○学習情報データの蓄積方法と解析方法について学ぶ。</li> </ul>

授業計画 (授業は1回を90分とする)		授業外の学習 (29時間)	
第1回	(講義) 次世代教育情報システム 次世代の教育や学習において、どのような目標が想定されるのか、その実現にどのようなシステムやツールが必要とされるのかを学ぶ。デジタルエコシステム、相互運用性と国際技術標準について知る。	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (0.5h)
		事後	電子掲示板でのディスカッションと振り返り (0.5h)
第2回	(講義) 学習管理システム {LMS} 学習管理システム (LMS) について理解する。LMS の基本機能および教師 (メンター、コーチ)、学習者、管理者がもつ機能を知り、LMS の課題を解決するデジタルエコシステムの必要性およびそれを形成するためのインターフェースの標準化を理解する。役割による LMS の操作の相違をビデオで確認し、さらにデモサイトにアクセスして、講師および学生が利用できる機能を体験する。	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	ハンズオン課題レポートの作成 (2h)
第3回	(講義) セキュリティと LTI {Learning Tool Interoperability} LMS とツール間のセキュアな通信を実現する方法について知る。また、LMS からツールを起動する LTI の概要および事例を学ぶ。さらに LTI に関する理解を深めるために、シミュレータを使用して LTI におけるデータ交換のふるまいを体験する。	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	ハンズオン課題レポートの作成 (2h)
第4回	(講義) 試験問題作成管理と教務情報システム 教育評価に不可欠な試験問題作成システム、問題管理システム (テストバンク)、試験監督システムの概要について知る。その技術標準である Question & Test Interoperability (QTI) の構成と利用について理解する。教務情報システム (SIS) および評価情報の管理方法 (OneRoster および LTI による連携) についても触れる。	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	ハンズオン課題レポートの作成 (2h)
第5回	(講義) カリキュラム標準と CASE リポジトリ カリキュラム標準やルーブリック、シラバスなど、学習目標やその評価基準を記述する方法とその技術標準 CASE について知る。CASE 準拠リポジトリ管理システムを使って、シラバスの作成を体験する。	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	ハンズオン課題レポートの作成 (2h)

第6回	(講義) 学習解析と LRS 学習解析 (Learning Analytics) に必要な学習履歴データの収集・分析方法について知る。また、その例としてデジタル教材配布システムとその分析ツールを含む学習分析システムを体験する。	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	ハンズオン課題レポートの作成 (2h)
第7回	(講義) デジタルクレデンシャルを支えるシステム連携 電子修了証や電子成績証明書などデジタルクレデンシャルの実践例とそれを支える、ブロックチェーンなどの技術について知る。デジタルバッジの検証 (Validation) を体験する。	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	ハンズオン課題レポートの作成 (2h)
第8回	(講義) 展望: 生涯学習 e ポートフォリオと AI パーソナルチュータ まとめに代えて、生涯学習 e ポートフォリオを例に、長期間運用可能で、複数機関の壁を越えて相互利用可能な AI 教育支援システムの在り方を考察する。1EdTech Consortium などの技術標準が教育情報システムのエコシステムにどう利用されているか理解する。	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	最終課題レポートの作成 (2h)
定期試験	定期試験はない		
使用テキスト	なし		
参考文献	開講後に提示		
受講生に対する評価	各回の確認テスト (40%)、オンラインハンズオン (WEB 上での実習) の出力結果 (3 回、40%)、最終課題レポート (20%) を総合的に判断して評価する。なお、オンラインハンズオン結果の提出方法など詳細は開講後に指示する。		
授業・課題等に対するフィードバック	・基本的には、授業の中で行う。		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)			
受講生へのメッセージ*任意項目			
備考*任意項目	授業内容から Python および JSON, JSON-LD の基礎知識を持っていることが望ましいが、その習得を本科目履修の前提条件とはしない。		

授業用 URL * 任意項目	
授業用 E-Mail * 任意項目	

## 教育テック事例研究（I）

講義名	教育テック事例研究（I）
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	鈴木健介、織田竜輔、原山青士

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

履修条件	該当なし
授業の概要	<p>教育構想は、グローバルかつ教育界に留まらない広く深い視点を持った上で、教育のビジョンを掲げ、その実現に向けた具体的な計画と実践を伴うものである必要がある。そのためには、既に確立された学術・実務の知識体系を学ぶだけでは不十分で、最前線で今起きている問題の本質を掴み、その解決に向けて取り組む各界の第一線で活躍する実務家や研究者の取組や背景にある考え方、哲学等を理解し、気づきを得ていく必要がある。</p> <p>本授業では、最前線で活躍するゲスト講師による講義だけでなく、質疑応答、議論をすることで、気づきを得て、自身の教育構想の研究に役立てる。とりあげる事例を、教育情報・教育経営の双方の観点から考察・分析し、議論を深め課題の改善・解決に繋げていく。</p>

<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	教育テックの最先端で取り組む第一線のキーパーソンを招聘する。到達目標は、自身の教育構想・課題解決のアイデア、気づきを得るために重要な示唆を得ることである。		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) 教育テック事例研究の狙い、学内教員による事例研究(講義)	事前	シラバス・資料の精読(2h)
		事後	レポートの提出(2h)
第2講	(第2回) ゲスト講義①(講義) 学校DX—学校の教育、校務の変革事例— (第3回) ディスカッション(演習) 事例の成功・失敗の要因の考察、院生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する	事前	ゲスト講師に関する資料の精読(4h)
		事後	レポートの提出(4h)
第3講	(第4回) ゲスト講義②(講義) 人生100年時代のキャリア教育—VUCAの時代における教育の変革— (第5回) ディスカッション(演習) 事例の成功・失敗の要因の考察、院生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する	事前	ゲスト講師に関する資料の精読(4h)
		事後	レポートの提出(4h)
第4講	(第6回) ゲスト講義③(講義) 探究学習・PBL —探究学習・PBLは教育テックによりどう変わるのか— (第7回) ディスカッション(演習) 事例の成功・失敗の要因の考察、院生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する	事前	ゲスト講師に関する資料の精読(4h)
		事後	レポートの提出(4h)
第5講	(第8回) ゲスト講義④(講義) 学校組織改革 —改革を成し遂げた学校の成功要因分析— (第9回) ディスカッション(演習) 事例の成功・失敗の要因の考察、院生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する	事前	ゲスト講師に関する資料の精読(4h)
		事後	レポートの提出(4h)
第6講	(第10回) ゲスト講義⑤(講義) 教育データ利活用とエビデンスに基づく変革—データ活用により継続的な改善サイクルの仕組みづくり— (第11回) ディスカッション(演習)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読(4h)
		事後	レポートの提出(4h)

	事例の成功・失敗の要因の考察、院生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する		
第7講	(第12回) ゲスト講義⑥ (講義) オンライン学習サービスによる変革 —新たなオンライン学習サービスを活用した教育はどう変革するか— (第13回) ディスカッション (演習) 事例の成功・失敗の要因の考察、院生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)
		事後	レポートの提出 (4h)
第8講	(第14回) ゲスト講義⑦ (講義) 教育政策の最前線 (文部科学省または政策関係者) —政策形成のプロセスと最新動向の把握の仕方— (第15回) ディスカッション (演習) 教育政策の社会的背景を理解した上で、院生自身の教育構想・経営にどのように活かすか考察する。	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)
		事後	レポートの提出 (4h)
定期試験	定期試験は実施しない。		
使用テキスト	なし。		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	ディスカッションレポート (50%) と課題レポート (50%) によって評価する。		
授業・課題等に対するフィードバック	事前学習において、ゲスト講師に関する資料を精読した上で、質問を LMS を通じて提出すること。質問に対するフィードバックは、個別には行わず、授業内で行う。各自の教育構想研究に生かすこと。		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	事前にアポイントメントをとること。		
受講生へのメッセージ*任意項目	1年生の必修科目とするが、2年生以降についても任意で聴講することができる。積極的な議論による貢献を期待する。  LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める		

備考 * 任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL * 任意項目	
授業用 E-Mail * 任意項目	

## 教育テック事例研究（Ⅱ）

講義名	教育テック事例研究（Ⅱ）
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	鈴木健介、織田竜輔、原山青士（共同）

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

履修条件	該当なし
授業の概要	<p>教育構想は、グローバルかつ教育界に留まらない広く深い視点を持った上で、教育のビジョンを掲げ、その実現に向けた具体的な計画と実践を伴うものである必要がある。そのためには、既に確立された学術・実務の知識体系を学ぶだけでは不十分で、最前線で今起きている問題の本質を掴み、その解決に向けて取り組む各界の第一線で活躍する実務家や研究者の取組や背景にある考え方、哲学等を理解し、気づきを得ていく必要がある。</p> <p>本授業では、最前線で活躍するゲスト講師による講義だけでなく、質疑応答、議論をすることで、気づきを得て、自身の教育構想の研究に役立てる。とりあげる事例を、教育情報・教育経営の双方の観点から考察・分析し、議論を深め課題の改善・解決に繋げていく。</p>

<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	教育テックの最先端で取り組む第一線のキーパーソンを招聘する。到達目標は、自身の教育構想・課題解決のアイデア、気づきを得るために重要な示唆を得ることである。		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) 教育テック事例研究の狙い、学内教員による事例研究 (講義)	事前	シラバス・資料の精読 (2h)
		事後	レポートの提出 (2h)
第2講	(第2回) ゲスト講義① (講義) 学校の破壊的イノベーション —今までに無かった新たな学校の実像に学び、自身の教育への応用を考察する— (第3回) ディスカッション (演習) 事例の成功・失敗の要因の考察、院生生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)
		事後	レポートの提出 (4h)
第3講	(第4回) ゲスト講義② (講義) 日本式教育の輸出 (教育のアウトバウンド) —海外での日本式教育の需要、それに応える新たな取組事例— (第5回) ディスカッション (演習) 事例の成功・失敗の要因の考察、院生生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)
		事後	レポートの提出 (4h)
第4講	(第6回) ゲスト講義③ (講義) 留学生教育 (教育のインバウンド) —留学生のニーズ、課題とそれに応えるイノベーション— (第7回) ディスカッション (演習) 事例の成功・失敗の要因の考察、院生生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)
		事後	レポートの提出 (4h)
第5講	(第8回) ゲスト講義④ (講義) 生涯教育のイノベーション —教育テックの登場により、今までにはできなかった新たな教育— (第9回) ディスカッション (演習) 事例の成功・失敗の要因の考察、院生生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)
		事後	レポートの提出 (4h)

第6講	<p>(第10回) ゲスト講義⑤ (講義)            専門職教育のイノベーション            —多様化・高度化する専門職教育ニーズに応える教育機関—            (第11回) ディスカッション (演習)            事例の成功・失敗の要因の考察、院生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する</p>	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)
		事後	レポートの提出 (4h)
第7講	<p>(第12回) ゲスト講義⑥ (講義)            オンライン学習サービスによるイノベーション            —テクノロジーの発展による革新的サービスの開発と今後の展望—            (第13回) ディスカッション (演習)            事例の成功・失敗の要因の考察、院生自身が関与する教育現場や教育構想・経営への応用を検討する</p>	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)
		事後	レポートの提出 (4h)
第8講	<p>(第14回) ゲスト講義⑦ (講義)            教育政策の最先端 (自治体)            —革新的な政策を次々に生み出し、実行する組織づくりと教職員の育成—            (第15回) ディスカッション (演習)            教育政策の社会的背景を理解した上で、院生自身の教育構想・経営にどのように活かすか考察する。</p>	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)
		事後	レポートの提出 (4h)
定期試験	定期試験は実施しない。		
使用テキスト	なし。		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	ディスカッションレポート (50%) と課題レポート (50%) によって評価する。		
授業・課題等に対するフィードバック	事前学習において、ゲスト講師に関する資料を精読した上で、質問を LMS を通じて提出すること。質問に対するフィードバックは、個別には行わず、授業内で行う。各自の教育構想研究に生かすこと。		

オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	事前にアポイントメントをとること。
受講生へのメッセージ*任意項目	1年生の必修科目とするが、2年生以降についても任意で聴講することができる。積極的な議論による貢献を期待する。  LMSのフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育学特殊講義

講義名	教育学特殊講義
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	藤本典裕

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし	
授業の概要	教育学の理論を、教育テック（テクノロジー・サイエンス）を含めた多角的な観点から捉え直し、新たな教育構想の立案や、教育機関の経営に役立てる知識を身につける。特に、教育学の理論体系の全体像を俯瞰し、自身の構想に必要な知識を適宜、使えるようにする。	
授業のテーマ及び到達目標	教育学の理論について多角的に検討するとともにこれに関する理解を深め、自身の教育に関する見解を構築することを目的とする。 到達目標 1. 教育に関する諸事象の意味、課題、解決策などについての見解を整理して述べることができる。 自身が実現をめざす教育のあり方を具体的に示すことができる。	
授業計画（授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある）		授業外の学習（60時間）

第1講	<p>(第1回) 講義 教育を考える多様な視点 受講生の教育イメージを確認し、その再構築を図る。そのため、これまでに提起された多様な教育イメージを紹介・検討する。</p>	事前	自身の「教育」イメージの文章化 (2h)
		事後	「教育」イメージの再構築 (2h)
第2講	<p>(第2回) 講義 子どもという存在—子どもの固有性をめぐる思想 大人とは異なる固有の存在としての子どもについての内外の思想を紹介・検討する。</p> <p>(第3回) 演習 子どもという存在—子どもの固有性をめぐる思想 第2回の学習を踏まえ、受講生自身の子どもイメージを再確認して発表し、双方向の学びを深める。</p>	事前	自身の「子ども」イメージの文章化 (4h)
		事後	子どもという存在の固有性に関する思想を整理する (4h)
第3講	<p>(第4回) 講義 社会事象としての教育—教育が成立する条件と「場」の特性 教育事象が存在する多様な「場」を確認するとともに、その成立条件について考察する。</p> <p>(第5回) 演習 社会事象としての教育—教育が成立する条件と「場」の特性 第4回の学習を踏まえ、教育現象が成立する条件について考察するとともに、その変容について意見交換を行い考察を深める。</p>	事前	教育が成立する条件について検討し文章化 (4h)
		事後	教育の持つ社会的性格と現代社会における実態についての見解を整理・文章化 (4h)
第4講	<p>(第6回) 講義 学校という制度の誕生と発展—近代公教育制度に関する歴史的検討 近代公教育制度成立の社会的背景と学校制度に期待された機能について確認・考察する。</p> <p>(第7回) 演習 学校という制度の誕生と発展—近代公教育制度に関する歴史的検討 第6回の学習を踏まえ、学校制度が果たしてきた役割、今後期待される役割などについて意見交換を行い、理解を深める。</p>	事前	学校に期待される役割・機能についてのメモ作成 (4h)
		事後	学校制度が果たすべき役割・機能について野見解を整理・文章化 (4h)
第5講	<p>(第8回) 講義 教員に求められる資質・能力 教員に求められてきた役割とその養成制度のあり</p>	事前	教員が果たすべき職務と必要な資質・能力についてのメモ作成 (4h)
		事後	これからの教員に求めら

	<p>方、求められる資質・能力について、歴史的視点を踏まえて整理・考察する。</p> <p>(第9回) 演習</p> <p>教員に求められる資質・能力</p> <p>第8回の学習を踏まえ、教員に期待される役割、資質・能力、養成のあり方などについて意見交換を行い、理解を深める。</p>		<p>れる資質・能力についての見解を文章化(4h)</p>
第6講	<p>(第10回) 講義</p> <p>学習・学修についての理解</p> <p>学校における授業形態とそこでの学びのあり方、課題・問題性などについて、受講者の体験を交えて検討する。</p> <p>(第11回) 演習</p> <p>学習・学修についての理解</p> <p>ICT 機器の活用など、今後の学校教育に求められる学習・学修のあり方と、それを実現する教員の役割について意見交換を行い、理解を深める。</p>	事前	<p>自身の授業体験から従来の学習・学習の問題点・課題を抽出(4h)</p>
		事後	<p>ICT 機器などを活用した学習・学修のあり方を模索する(4h)</p>
第7講	<p>(第12回) 講義</p> <p>教育を受ける権利と教育費負担</p> <p>教育を受ける権利を保障する法制度について整理・考察する。特に義務教育の無償制を取り上げ、実際の教育費負担のあり方と教育機会の不平等の問題性を検討する。</p> <p>(第13回) 演習</p> <p>教育を受ける権利と教育費負担</p> <p>教育機会の不平等に関する意見交換を行い、不平等解消に向けた制度改革の方向性について意見交換を行う。</p>	事前	<p>教育機会の不平等事象についてのメモ作成(4h)</p>
		事後	<p>教育を受ける権利の平等保障のあり方を模索する(4h)</p>
第8講	<p>(第14回) 講義</p> <p>教育事象の社会的性格—学校という制度の相対化</p> <p>教育を保障する多様な制度を検討し、学校教育制度を相対的視点から再検討する。</p> <p>(第15回) 演習</p> <p>教育事象の社会的性格—学校という制度の相対化</p> <p>第14回の学習を踏まえ、学校を含めた教育制度のあり方について意見交換を行い、求められる学びのあり方について考察する。</p>	事前	<p>多様な教育機会についてのメモ作成(4h)</p>
		事後	<p>学校という制度を相対化し、これからの学びのあり方を構想する(4h)</p>
定期試験		定期試験は実施せず学期末レポートの作成を求める。	

使用テキスト	テキストは使用せず必要な資料を LMS にて作成・配布する。
参考文献	授業時に適時紹介する。
受講生に対する評価	各回に作成を求める「小レポート」と学期末レポートを総合的に評価する。 小レポート 30% 学期末レポート 70%
授業・課題等に対する フィードバック	「小レポート」の内容について次回の授業時にコメントする。必要に応じ授業時に受講生による討論を行う。
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	開講時に連絡する。
受講生へのメッセージ*任意項目	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育国際論

講義名	教育国際論
単位数	1
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1年後期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	太田明・村知稔三

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	日本語によるオンライン・オンデマンド講義となる。		
授業の概要	教育という営みの本質について、教育哲学、教育史、子育て、保育、学校教育という観点から、多角的に考察する。比較教育の観点から日本の教育の成果と課題を検討して、人材育成のノウハウを世界に向けて発信するための方途を探る。		
授業のテーマ及び到達目標	留学生の受入（インバウンド）、日本の教育の海外進出（アウトバウンド）を中心に、日本の教育と世界各地の教育について、その歴史的・思想的成り立ちについて展望する。教育という営みのグローバルな展開について理解を深める。		
授業計画（授業は1回を90分とする）		授業外の学習（29時間）	
第1回	オリエンテーション（講義） 配布資料に基づいて、教育テックをめくり習得す	事前	資料講読（0.5h）
		事後	レポート作成（0.5h）

	べき学識や研究スキルへの課題意識を明確化する。		
第2回	「教育」という営みの基本的視座（演習） 学びを支えるテクノロジーについての意見交換を行い、教育テックに関する仮説的見解を共有する。	事前	資料講読（2h）
		事後	レポート作成（2h）
第3回	「子ども観」と「教育観」のパラダイム転換（演習） 子ども存在に対する意味づけや価値づけ、そこから醸成される教育的営為について見識を深める。	事前	資料講読（2h）
		事後	レポート作成（2h）
第4回	教育思想と実践の諸類型（演習） 近代教育思想の展開を教育テックの視点から検討して、声・文字・デジタル文化の変遷を理解する。	事前	資料講読（2h）
		事後	レポート作成（2h）
第5回	子育てと教育をめぐる国際動向（演習） グローバルな人口減少（少子社会化）を前に、子育てを支援する教育テックの可能性を探る。	事前	資料講読（2h）
		事後	レポート作成（2h）
第6回	日本教育の近代化と現代化（講義） 教育の近代化＝西洋化を成し遂げた日本の経験をグローバルな教育開発論に繋げる視座を探る。	事前	資料講読（2h）
		事後	レポート作成（2h）
第7回	日本型教育の不易と流行（講義） 日本における昨今の教育課題や教育問題を通じて、成果と課題の因果関係についての理解を深める。	事前	資料講読（2h）
		事後	レポート作成（2h）
第8回	日本型教育の海外進出（講義） 海外子女教育振興財団や JAICA 等の教育活動をヒントに、日本学教育の海外輸出の可能性を探る。	事前	資料講読（2h）
		事後	レポート作成（2h）
定期試験	定期試験に代わり、最終レポートを課す。		
使用テキスト	佐藤哲也他編著『子ども観のグローバルヒストリー』原書房、2018年、その他、資料をPDF化してLMSにて配付する。		
参考文献	『世界子ども学大事典』原書房、2016年		
受講生に対する評価	授業レポート40%（5%×8）、最終レポート60%。		

授業・課題等に対する フィードバック	受講生には授業内容に関わるレポートを課す。レポートを採点・コメント記載の上、受講生に返却する。
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	金曜日・18時00分～19時00分
受講生へのメッセージ*任意項目	LMS のフォーラム掲示板、受講生アンケート等で積極的な意見交換を求める
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育効果論

講義名	教育効果論
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	山田礼子 合田隆史

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	生徒や学生の成長を教育や教育機関を通じて可能にすることに関心を持っていること、理論や実践的な方法について学ぶ意欲があること。
授業の概要	1. 学生の成長を支える教育環境について、大学環境を中心にカレッジ・インパクトの理論と教育の効果の測定方法について学ぶ。学習のみならず教育機関全体との関係という枠組みからカレッジ・インパクト理論をとらえることができる目や視点を養うことを目標とする。2. 教育効果の測定の実践的についての IR についても、歴史、現在の動向、世界での広がりという比較の視点からアプローチをする。3. マルチ・ステージ型の人生設計という視点も組み入れ、生涯にわたる学習の効果についても検討する。予習するテキスト及び参考文献の章については、最初の授業で説明する。

<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>カレッジ・インパクト理論、学生の成長・教育の効果の測定、これらの実践としての IR、マルチ・ステージ型の生涯にわたる教育及びその効果と「ウェルビーイング」との関係</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学生の成果と教育機関とのレリバンスを理論的に把握することで、教育機関の機能について総合的に捉える視点を身につけることができる。</li> <li>2 教育の効果の測定の理論、実際について諸手法を学び、実際に学生調査等を作成し、調査を実施することで方法の効果と課題について把握することができる。</li> <li>3 教育の効果の実践としての IR の動向を知ること、IR がどのように機能し、教育の場での意味あるいは課題について考えることができるようになる。</li> </ol> <p>人生の各段階における教育の持つ意味を理解し、その費用、効果を分析し、個人と社会全体のウェルビーイングの観点から合理的な選択ができる。</p>		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2回連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) 講義 授業全体の説明と目標の説明と質疑応答	事前	教科書等の予習 (4h)
		事後	特になし
第2講	(第2回) 講義 カレッジ・インパクトに関する理論と学生の成長 (第3回) 演習 論点に基づいた討議と質疑	事前	教科書・参考文献の予習 (4h)
		事後	論点のまとめと課題の整理 (4h)
第3講	(第4回) 講義 教育効果の測定に関する理論と方法 (第5回) 演習 論点に基づいた討議と質疑	事前	テキストの予習 (4h)
		事後	論点のまとめと課題の整理 (4h)
第4講	(第6回) 講義 教育効果の測定方法と実際 (第7回) 演習 学生調査についての各自の論点についての発表	事前	各自発表の準備 (4h)
		事後	課題の整理 (4h)
第5講	(第8回) 講義 生涯学習・リカレント教育の費用対効果、私的リターン、社会的リターンの測定に関する理論と実践① (第9回) 演習 生涯学習・リカレント教育の費用対効果、私的リターン、社会的リターンの測定に関する理論と実践①	事前	テキストの予習 (4h)
		事後	論点のまとめと課題の整理 (4h)

第6講	(第10回) 講義 生涯学習・リカレント教育の費用対効果、私的リターン、社会的リターンの測定に関する理論と実践②	事前	テキストの予習 (4h)
	(第11回) 演習 生涯学習・リカレント教育の費用対効果、私的リターン、社会的リターンの測定に関する理論と実践②	事後	論点のまとめと課題の整理 (4h)
第7講	(第12回) 講義 IRについての動向：教学IRと学生調査	事前	テキストの予習 (4h)
	(第13回) 演習 IRと教育効果の測定についての討議と質疑	事後	論点のまとめと課題の整理 (4h)
第8講	(第14回) 講義 カレッジ・インパクトと教育効果、実践としての教学IRのレリバンス	事前	教科書・参考文献・課題の予習と発表準備 (4h)
	(第15回) 演習 カレッジ・インパクトと教育効果、実践としての教学IRのレリバンスについて課題発表	事後	レポート作成 (4h)
定期試験	授業の全体を通じての課題について記述式のレポートを最終週後に提出することで定期試験とする。		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山田礼子『学士課程教育の質保証へむけて－学生調査と初年次教育からみえてきたもの－』（東信堂，2012），ISBN:9784798901121</li> <li>・山田礼子・木村拓也（編著）『学習成果の可視化と内部質保証：日本型IRの課題』（玉川大学出版，2021），ISBN9784472406041</li> </ul>		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・矢野眞和『今にいける学生時代の学びとは：卒業生調査にみる大学教育の効果』（玉川大学出版部，2023），ISBN9784472406300</li> <li>・山田礼子『2040年 大学教育の展望－21世紀型学習成果をベースに－』（東信堂，2019），ISBN9784798915715-</li> </ul>		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容や討議内容、質問（口頭試問）等 40%</li> <li>・論理的に物事をまとめ、データをエビデンスとして活用できているかを評価する。レポート 60%</li> </ul>		
授業・課題等に対するフィードバック	<p>討議は発表内容については、授業中にフィードバックを行う。</p> <p>定期試験については、試験後にフィードバックを行う。</p>		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	月曜日 16時～17時		

受講生へのメッセージ*任意項目	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
備考*任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL*任意項目	
授業用 E-Mail*任意項目	

## 教育国際交流演習

講義名	教育国際交流演習
単位数	1
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1年後期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	戸田 有一

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	「教育国際論」を履修し単位取得済であることが望ましい。		
授業の概要	海外在住の外国人や日本人などをゲストに、諸外国の教育制度や教育方法、そしてその背景にある教育に対する考え方の違いについて、ディスカッションを通じて理解を深めていく。		
授業のテーマ及び到達目標	海外の教育やそれを支える教育テックの近年の動向について、海外在住経験のある日本人、海外に在住している日本人、海外在住の外国人などとの対話を通して、理解を深める。単に国際交流経験を豊かにするだけではなく、日本の教育のあり方を相対化し、教育制度や方法を改革する契機となることを目標とする。英語だけではなく、様々な言語や文化への開かれた態度をさらに涵養することも目指したい。		
授業計画（授業は1回を90分とする）		授業外の学習（29時間）	
第1回	（講義）授業の概要と評価方法の説明。受講者の問題意識の交流（特に、教育テックの活用動向に	事前	シラバスの熟読(0.5h)
		事後	問題意識の整理(0.5h)

	関して、意見をチャット等でだしあう)。講義者が奈良県教委と共同開発した、いじめ対策の「気付き見守りアプリ」を紹介する。		
第2回	(演習) 海外在住経験のある日本人との対話に向けての準備(主に教育テック 1.0 をめぐって、資料からの論点整理)をする。前回紹介のアプリに関するオンラインチャット等での議論も行う。	事前	関連資料の熟読と論点整理(2h)
		事後	追加の資料収集と質問準備(2h)
第3回	(演習) 海外在住経験のある日本人との Zoom 等による対話・チャットと振り返り(主に教育テック活用経験や多言語活用支援に関する内容)を行う。	事前	質問の受講者間での整理(2h)
		事後	振り返りのまとめ(2h)
第4回	(演習) 海外在住日本人との対話に向けての準備(海外での教育テック活用に関する最新事情の把握や論点整理をネット上のホワイトボード等を使って行う)をする。	事前	関連資料の熟読と論点整理(2h)
		事後	追加の資料収集と質問準備(2h)
第5回	(演習) 海外在住日本人との Zoom 等による対話と振り返り(フィンランドの学校と保護者をつなぐ教育テックの最新動向などをめぐって)を行う。	事前	質問の受講者間での整理(2h)
		事後	振り返りのまとめ(2h)
第6回	(演習) 海外に在住している外国人との Zoom 等による対話に向けての準備(英語での質問の準備や翻訳アプリ活用の練習も行う)をする。	事前	関連資料の熟読と論点整理(2h)
		事後	追加の資料収集と質問準備(2h)
第7回	(演習) 海外に在住している外国人との対話と振り返り(翻訳アプリや AI 翻訳を活用)を行う。	事前	質問の受講者間での整理(2h)
		事後	振り返りのまとめ(2h)
第8回	(講義) 3つの対話の最終まとめ(AI を活用する)と今後の課題の展望(オンラインのホワイトボードなどを用いる)を行う。	事前	対話の最終まとめの作成(2h)
		事後	展望のまとめ(2h)
定期試験	該当なし		
使用テキスト	テキストは使用せず必要な資料を LMS にて作成・配布する。		
参考文献	授業時に適時紹介する。 関連する論文を共有する。書籍の紹介もする。		
受講生に対する評価	各自が事前資料から準備した質問内容(20%)、グループ討議(30%)、まとめの内容(10%×3回)、最終まとめ(20%)を評価する。ゲストによる評価や相互評価も盛り込む。		

<b>授業・課題等に対する フィードバック</b>	<p>「小レポート」の内容について次回の授業時にコメントする。必要に応じ授業時に受講生による討論を行う。</p> <p>質問内容と参加度は、対話の振り返りの際に自己評価をしていただき、大きく私の評価とずれる場合にフィードバックを行います。各回のまとめと最終まとめは、ゲストからのフィードバックもいただくように努めます。相互評価もフィードバックの一環です。</p> <p>LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	<p>基本はメールでご相談いただき、日時を調整します。</p>
<b>受講生へのメッセージ*任意項目</b>	<p>英語でのやりとりをしますので、そのための準備も行っていたきたいと思っています。</p>
<b>備考 *任意項目</b>	<p>海外来客を迎える機会をご案内しますので、よろしければご参加ください。</p> <p>小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。</p>
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	<p>toda@cc.osaka-kyoiku.ac.jp</p>

## 持続可能な開発のための教育

講義名	持続可能な開発のための教育
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	大和田順子

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履 修 条 件	SDGs や ESD に関心を持ち、教育課程や教育経営で実践する意欲を有すること
授業の概要	<p>現在、世界が直面する課題の解決に向けて推進している「SDGs (Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」) は、持続可能な社会の創り手の育成が行われなければ実現しない。その人材育成を担うのが ESD (Education for Sustainable Development「持続可能な開発のための教育」) である。ESD は「身近なところから取り組む (think globally, act locally) ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動」(文部科学省) である。</p> <p>近年では、2019 年に「持続可能な開発のための教育：SDGs 実現に向けて (ESD for 2030)」が国連総会で承認されている。そのロードマップでは、5 つの優先行動分野 (1. 政策の推進、2. 学習環境の変革、3. 教育者の能力構築、4. ユースのエンパワーメントと動員、5. 地域</p>

	<p>レベルでの活動の促進) が示されている。</p> <p>また、SDGs 4 「質の高い教育をみんなに」のターゲット 4.7 では、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイルや、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育などが示されている。</p> <p>本科目では、SDGs に関連する社会課題や ESD を理解し、具体的に教育課程や教育経営で実践する理論や技法について学ぶ。</p>		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	SDGs および ESD を理解し、教育課程や教育経営で実践するための理論や技法を学び、自らの現場における実践企画を行い、学期内に試行する。		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)			
<b>授業外の学習</b> (60時間)			
第1講	(第1回) 講義 オリエンテーション、問題意識の共有 国内外のSDGsの動向を学ぶ	事前	授業の予習 (2h)
		事後	授業のフィードバック (2h)
第2講	(第2回) 講義 ESDの動向 国内外のESDの動向を学ぶ	事前	授業の予習 (4h)
	(第3回) 演習 ESDの動向 国内外のESDの動向に関するワークショップを行う	事後	授業の復習 (4h)
第3講	(第4回) 講義 教育課程における実践 SDGs、ESD に関する教育課程における実践事例研究	事前	授業の予習 (4h)
	(第5回) 演習 教育課程における実践 SDGs、ESD に関する教育課程における実践事例に関する討議	事後	授業の復習 (4h)
第4講	(第6回) 講義 教育経営における実践 SDGs、ESD に関する教育経営における実践事例研究	事前	授業の予習 (4h)
	(第7回) 演習 教育経営における実践 SDGs、ESD に関する教育経営における実践事例に関する討議	事後	授業の復習 (4h)
第5講	(第8回) 講義 先行研究レビュー	事前	授業の準備 (4h)
		事後	授業のフィードバック (4h)

	SDGs、ESD 教育に関する先行研究レビュー (第 9 回) 演習 先行研究レビュー SDGs、ESD 教育に関する先行研究レビューに関する討議		
第 6 講	(第 10 回) 講義 実践計画の立案 SDGs、ESD 教育に関する実践計画の立案 (第 11 回) 演習 実践計画の立案 SDGs、ESD 教育に関する実践計画の立案に関する討議	事前	授業の子習 (4h)
		事後	発表へのフィードバック (4h)
第 7 講	(第 12 回) 講義 実践計画の準備・試行 SDGs、ESD 教育に関する実践計画の準備 (第 13 回) 演習 実践計画の準備・試行 SDGs、ESD 教育に関する実践計画の準備に関する討議	事前	発表準備 (4h)
		事後	発表準備 (2h) / 発表へのフィードバック (2h)
第 8 講	(第 14 回) 講義 実践報告 SDGs、ESD 教育に関する実践計画の試行結果の報告および振り返り (発表) (第 15 回) 演習 実践報告 SDGs、ESD 教育に関する実践計画の試行結果に関するワークショップ	事前	発表準備 (4h)
		事後	発表へのフィードバック (2h) / ワークショップの振り返り (2h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	開講時に提示する		
参考文献	『SDGs 時代の教育:社会変革のための ESD』 (荻原 彰・小玉 敏也編著、2022 年、筑波書房) 『SDGs を活かす地域づくり』 (大和田順子ら編著、2022 年、晃洋書房) 『ソーシャル・イノベーションの理論と実践』 (今里滋編著、2022 年、明石書店) 『SDGs と環境教育』 (佐藤真久ら編著、2017 年、学文社)		
受講生に対する評価	・平常点 (小レポート) (50%) ・授業内発表 (25%)		

	・課題レポート（25%）
授業・課題等に対する フィードバック	・基本的には、授業の中で行う。 ・本授業は履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。SDGs や ESD の実践に関する検討など履修者各自が行い、授業の場にて発表する。履修者は、他者の発表に対して積極的にコメントをすること。
オフィスアワー （オンライン曜日・ 時間）	随時、個別にアポイントを取り実施
受講生へのメッセージ*任意項目	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育デジタルエコシステム演習

講義名	教育デジタルエコシステム演習
単位数	1
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	山田恒夫

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	「教育デジタルエコシステム概論」を履修していること
授業の概要	生涯学習を見据えた次世代学習情報基盤の社会実装という観点から、学習システムやツールの構成と連携、デジタルエコシステムとしての要件とその相互運用性を保証する国際技術標準、学習ログデータの収集と利用方法（学習解析）について学ぶ。本演習では、「教育デジタルエコシステム概論」で学んだ知識を活用して、さまざまな教育情報デジタルエコシステムの事例を分析し、その課題を明らかにするとともに、オンラインでのグループによるプロジェクト学習により、その解決策を検討する。
授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育デジタルエコシステムを分析するための知識とスキルを身に着ける</li> <li>○教育現場における課題を発見し、教育デジタルエコシステムによる解決策を導く知識とスキルを身に着ける</li> <li>○教育デジタルエコシステムの社会実装に必要な 21 世紀型スキル、社</li> </ul>

		会変革コンピテンシーとは何か、体験学習により理解する。	
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とする)		<b>授業外の学習</b> (29時間)	
第1回	(講義) さまざまな教育デジタルエコシステム 国内外の教育デジタルエコシステムの典型を知るとともに、本科目で用いる協同学習に関する学習理論及び技法の概観を得る。	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (0.5h)
		事後	電子掲示板でのディスカッションとグループ分け (0.5h)
第2回	(演習) 教育デジタルエコシステムの事例分析1 グループに分かれ、それぞれに与えられた分野(役割)に応じた調べ学習を行う。	事前	グループごとにアイスブレイキング (2h)
		事後	調べ学習 (2h)
第3回	(演習) 教育デジタルエコシステムの事例分析2 グループごとに成果をまとめ、1つのレポートにまとめる。	事前	調べ学習とディスカッション (2h)
		事後	グループレポートの作成 (2h)
第4回	(演習) 教育デジタルエコシステムの事例分析3 グループの成果を発表し、ピア評価 (相互評価) を行う。	事前	発表用PPTスライドの作成 (2h)
		事後	ピア評価 (相互評価) (2h)
第5回	(演習) 教育における課題の発見と教育デジタルエコシステムによる解決1 教育における諸課題をブレインストーミングにより列挙し、その結果をもとにグループ分けを行う。	事前	教育における諸課題に関するレポート作成 (2h)
		事後	グループごとにアイスブレイキング (2h)
第6回	(演習) 教育における課題の発見と教育デジタルエコシステムによる解決2 グループに分かれ、それぞれに与えられた分野(役割)に応じた調べ学習を行う。	事前	調べ学習とディスカッション (2h)
		事後	調べ学習とディスカッション (2h)
第7回	(演習) 教育における課題の発見と教育デジタルエコシステムによる解決3 グループごとに成果をまとめ、1つのレポートにまとめる。	事前	調べ学習とディスカッション (2h)
		事後	グループレポートの作成 (2h)
第8回	(演習) 教育における課題の発見と教育デジタルエコシステムによる解決4 グループの成果を発表し、ピア評価 (相互評価) を行う。	事前	発表用PPTスライドの作成 (2h)
		事後	ピア評価 (相互評価) (2h)
<b>定期試験</b>	定期試験はない		
<b>使用テキスト</b>	なし		
<b>参考文献</b>	開講後に提示		
<b>受講生に対する評価</b>	各回の学習活動・小レポート (50%)、ピア評価 (50%) を総合的に判断して評価する。なお、ピア評価の提出方法など詳細は開講後に指示する。		

授業・課題等に対する フィードバック	・基本的には、授業の中で行う。
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	
受講生へのメッセージ*任意項目	
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育テックの倫理的・法的・社会的な課題(ELSI)

講義名	教育テックの倫理的・法的・社会的な課題(ELSI)
単位数	2
単位区分 (必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年後期
講義区分 (講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	林 正幸

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履 修 条 件	該当なし
授業の概要	<p>教育テックの中でも、とりわけ技術面を指すEdTech (エドテック) の研究開発やその導入にあたって、技術的視点だけではなく ELSI(倫理・法的・社会的課題)の観点から考察することが求められる。EdTech 研究開発・導入推進のブレーキではなくステアリングとしての ELSI について議論を深めていく。</p> <p>「教育データ利活用 EdTech (エドテック) の ELSI 対応方策の確立と RRI 実践」を研究するチームメンバーらをゲスト講師として招集し議論を深める。</p>
授業のテーマ及び到達目標	EdTech 研究開発者および利用者が教育データを使って「できること」と「やるべきこと」の相違と線引きについて理解を深める必要がある。本講義では、受講生らが ELSI の観点から上記線引きができるようになることを目指す。

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) なぜ、教育データ利活用 EdTech の ELSI が重要なのか (講義)	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第2講	(第2回) 教育データ利活用 EdTech の論点やケースについて議論する (講義)  (第3回) 教育データ利活用 EdTech の論点やケースについて議論する (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (2h)
第3講	(第4回) ELSI 観点からみた教育データ利活用 EdTech の分類 (講義)  (第5回) ELSI 観点からみた教育データ利活用 EdTech の分類 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (2h)
第4講	(第6回) 倫理の観点からみた教育データ利活用 EdTech の論点を深掘りする (講義)  (第7回) 倫理の観点からみた教育データ利活用 EdTech の論点を深掘りする (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (2h)
第5講	(第8回) 法の観点からみた教育データ利活用 EdTech の論点を深掘りする (講義)  (第9回) 法の観点からみた教育データ利活用 EdTech の論点を深掘りする (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (2h)
第6講	(第10回) 社会的観点からみた教育データ利活用 EdTech の論点を深掘りする (講義)  (第11回) 社会的観点からみた教育データ利活用 EdTech の論点を深掘りする (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (2h)
第7講	(第12回) 国際比較の観点からみた教育データ利活用 EdTech の論点を深掘りする (講義)  (第13回) 国際比較の観点からみた教育データ利活用 EdTech の論点を深掘りする (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (2h)

第8講	(第14回) 教育データ利活用 EdTech の研究開発・導入にあたって必要な制度・スキル (講義)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
	(第15回) 教育データ利活用 EdTech の研究開発・導入にあたって必要な制度・スキル (演習)	事後	コメントペーパーの提出 (2h) ディスカッションの復習 (2h)
定期試験	定期試験は実施しない		
使用テキスト	必要に応じて LMS などを活用し PDF 資料などを提供する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	1 毎回の授業でのディスカッションへの貢献・小レポート ② 第2講～第8講で課せられる課題 以上, ① (50%), ② (50%) の総合評価により判定する。		
授業・課題等に対するフィードバック	各講座の担当者とのメールおよび LMS 上ディスカッションボード等にて行う		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)			
受講生へのメッセージ*任意項目	教育のみならず我々のすべての行動は、社会的なルール・マナーや法律、倫理に則り、すべての人々に対して公平に人権を守る絶対的必要がある。 本講義では、各分野に精通した講師が、ELSI の様々な事例を示し、どのように考え対処すべきかをオムニバス形式で学ぶ。科目責任者は、それらを取りまとめ、学習の要点などを取りまとめ、全体をコーディネートして、ELSI の全体像を理解しやすくするよう努める。		
備考*任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。		
授業用 URL*任意項目			
授業用 E-Mail*任意項目			



## 教育テックのための ICT 基礎

講義名	教育テックのための ICT 基礎
単位数	1
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義
担当教員名	竹村治雄、山田恒夫、河崎雷太

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	<p>情報学の基礎から教育現場で ICT 利活用に関する基礎を学ぶ。情報の基礎に関する概要を理解し、教育での ICT 活用に関して、システムの概要、e ラーニングの概要、教育データ分析の概要、体験学習の教育テック利用などに関して理解を深める。教育情報コース展開科目で改善・解決を目指す科目の前提となる知識を学ぶ。</p> <p>本講義はオムニバス方式で行い、第 1 回～第 4 回を河崎、第 5 回～第 6 回を山田、第 7 回～第 8 回を竹村が担当する。</p>
授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報学基礎の概論を理解する</li> <li>○教育テックの基礎的な利活用を理解する</li> </ul>

授業計画 (授業は1回を90分とする)		授業外の学習 (29時間)	
第1回	(講義)「情報社会の問題解決」概要 {河崎} 情報メディアの特性、情報社会と情報セキュリティ、情報技術の発展による変化などの概要を理解する	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (0.5h)
		事後	電子掲示板でのディスカッションと振り返り (0.5h)
第2回	(講義)「コミュニケーションと情報デザイン」概要 {河崎} デジタルデータ表現、通信手段の発展と特徴、情報デザインなどの概要を理解する	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	課題レポートの作成 (2h)
第3回	(講義)「コンピュータとプログラミング」概要 {河崎} コンピュータのしくみ、プログラミング、モデル化とシミュレーションの概要を理解する	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	課題レポートの作成 (2h)
第4回	(講義)「情報通信ネットワークとデータの活用」概要 {河崎} ネットワークのしくみ、データベースなどの概要を理解する	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	課題レポートの作成 (2h)
第5回	(講義)教育情報システムと相互運用性 {山田} LMS、ビデオ会議システム、教務(校務)システムなどの概要を理解する	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	課題レポートの作成 (2h)
第6回	(講義) eラーニングの理論と方法 {山田} eラーニングの現状を理解し AI など最新技術の導入について展望を得る	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	課題レポートの作成 (2h)
第7回	(講義)教育コンテンツ提供、教育データ利活用の基礎と今後 {竹村} 教育コンテンツの配信の未来や学習データの分析などの基礎を理解する	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	課題レポートの作成 (2h)
第8回	(講義)ハンズオンへの教育テック利用・教育テックによる行動変容 {竹村} 体験学習へのテクノロジー活用の基礎および行動変容に繋がる学習を考える	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)
		事後	最終課題レポートの作成 (2h)
定期試験		定期試験はない	
使用テキスト		なし	
参考文献		坂村健「高等学校 情報 I」数研出版	
受講生に対する評価		各回の確認テスト (50%) 課題レポート (50%) で総合的に判断して評価する。	

授業・課題等に対する フィードバック	・基本的には、授業の中で行う。
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	
受講生へのメッセージ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## プログラミング特論

講義名	プログラミング特論
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1年後期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	河崎雷太

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	特になし		
授業の概要	学習指導要領の改訂に伴い、学校教育にプログラミング教育が必修化されている。プログラミングの学びは、どのようにあるべきなのかを考え、見つめ直すために、プログラミングの基礎を知り、実際に実装体験を行い、今後の論理的思考教育の発展・改善を議論する。		
授業のテーマ及び到達目標	効果的なプログラミング授業および周辺授業への展開 ○プログラミングの基礎を理解できる ○プログラミング教育を学校で活用できる		
授業計画（授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります）		授業外の学習（60時間）	
第1講	（第1回）プログラミング教育の現状（講義） 学習指導要領における「情報活用能力」の理解を	事前	LMS上の資料閲覧（2h）

	深めると共にプログラミング教育の役割を確認する。小学校課程でのプログラミングドリルから大学入試問題までの現状を知り、この授業の目的を理解する。	事後	レポートの作成 (2h)
第2講	(第2回) コンピュータの基礎原理 (講義) ハードウェアとソフトウェアの基礎知識を確認する。 (第3回) コンピュータの基礎原理 (演習) 今後のプログラミング環境に関して解説し、オンラインでの演習環境を整える。	事前	LMS上の資料閲覧 (2h)
		事後	各自環境設定 (6h)
第3講	(第4回) プログラミング理解1 (演習) (第5回) プログラミング理解2 (演習) プログラミング言語の基礎を学び実装を演習する。変数と関数および文字入力を理解し、順次進行プログラムを演習し理解する。	事前	LMS上の資料閲覧 (2h)
		事後	宿題レポートプログラム (6h)
第4講	(第6回) プログラミング理解3 (演習) (第7回) プログラミング理解4 (演習) プログラミング言語の分岐進行を学び実装を演習する。条件分岐と論理演算子を理解し分岐進行プログラムを演習し理解する。	事前	LMS上の資料閲覧 (2h)
		事後	宿題レポートプログラム (6h)
第5講	(第8回) プログラミング理解5 (演習) (第9回) プログラミング理解6 (演習) プログラミング言語の繰り返し進行を学び実装を演習する。配列を理解し、配列を有効利用する繰り返し繰り返し進行プログラムを演習し理解する。	事前	LMS上の資料閲覧 (2h)
		事後	宿題レポートプログラム (6h)
第6講	(第10回) ライフロンギンダーガーデンとScratch (講義) (第11回) ライフロンギンダーガーデンとScratch (演習) 幼児期の積み木の教育効果 (The Creative Learning Spiral) を意識して作られた初等向けプログラミングツールScratchについて理解し議論する。	事前	LMS上の資料閲覧 (2h)
		事後	宿題レポートプログラム (6h)
第7講	(第12回) 中等・高等での3DCGを応用したプログラミング教育1 (演習) (第13回) 中等・高等での3DCGを応用したプログラミング教育2 (演習) Web上に3DCGを安易に表示できるthree.jsを用	事前	LMS上の資料閲覧 (2h)
		事後	宿題レポートプログラム

	いたプログラミングについて学び、学習者に分かりやすくプレイフルなプログラミング教育の一手法として体験を通して考察する。		(6h)
第8講	(第14回) 今後のプログラミング教育 (講義) (第15回) 今後のプログラミング教育 (演習) プログラミングの基礎から様々な应用を知ったうえで、今後の教育にどのような効果が期待できるかを考察する。	事前	LMS上の資料閲覧 (2h)
		事後	まとめレポート (6h)
定期試験	定期試験はおこなわない。		
使用テキスト	LMSに資料を掲載する		
参考文献	桜庭 洋之ほか (2022) 『スラスラわかる JavaScript 新版』、翔泳社 Jos Dirksen (2016) 『初めての Three.js 第2版』 オライリージャパン 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省『小学校学習指導要領』 文部科学省『中学校学習指導要領』 文部科学省『高等学校学習指導要領』		
受講生に対する評価	平常評価 (宿題レポート課題: 40%、確認レポート: 60%)		
授業・課題等に対する フィードバック	LMSでの小テスト結果等はその都度の点数が示される。質問や問い合わせはメール等で受け対応する。		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	授業前後時間		
受講生へのメッセージ*任意項目	演習は、ビデオ会議システムの画面共有で個別に、各自のエディタを画面を確認し行うワークショップ型演習を行う。 各自のソースを受講者同士で共有することで、気づきやディスカッションに繋げる。		

備考 * 任意項目	プログラミング環境として、特定のエディタ、コンパイラやライブラリ,Web ブラウザの利用を指示する。
授業用 URL * 任意項目	
授業用 E-Mail * 任意項目	kawasaki@occ.ac.jp

## カリキュラム・マネジメント

講義名	カリキュラム・マネジメント
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	田村 知子

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	教育目標の実現に向けて、子どもや地域の実態を省察し、教育課程(カリキュラム)を編成・実施・評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進し、学校の課題解決に資するカリキュラムを開発するための考え方と知識を身につける。
授業のテーマ及び到達目標	テーマ：今次学習指導要領（幼稚園教育要領を含む）の理念の実現のための鍵概念である「カリキュラム・マネジメント」の理論と実践方法 到達目標：カリキュラム・マネジメントの見方・考え方に基づき、実践事例や自らが関与する教育現場の実態を分析することができる。その上で、適切な理論や方法論（特に ICT の効果的な活用）を選択、開発し、実践に生かすことができる。

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) 講義 「カリキュラム」における批判的省察	事前	テキストの序章, 第1章を講読(2h)
		事後	復習・振り返りの記入(2h)
第2講	(第2回) 講義 学校に基礎を置くカリキュラム開発 カリキュラムマネジメントの概念 理論モデル図を活用した実態分析 (第3回) 演習 学校に基礎を置くカリキュラム開発 カリキュラムマネジメントの概念 理論モデル図を活用した実態分析	事前	テキストの第2～4章を講読(4h)
		事後	復習・振り返りの記入(2h) 課題：理論モデルを活用した実態分析の見通しを立てる(2h)
第3講	(第4回) 講義 学校教育目標と教育課程編成の基本方針 ウェルビーイングを実現するカリキュラムマネジメント (第5回) 演習 学校教育目標と教育課程編成の基本方針 ウェルビーイングを実現するカリキュラムマネジメント	事前	テキストの第5章を講読(2h)
		事後	復習・振り返りの記入(2h) 課題：理論モデルを活用した実態分析(授業内容を反映)(2h)
第4講	(第6回) 講義 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 教科等横断的な視点によるカリキュラム編成と実施 (第7回) 演習 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 教科等横断的な視点によるカリキュラム編成と実施	事前	テキストの第8章, 第9章, 第10章を講読(5h)
		事後	復習・振り返りの記入(2h) 課題：理論モデルを活用した実態分析(授業内容を反映)(2h)
第5講	(第8回) 講義 評価を核としたマネジメントサイクル カリキュラムマネジメントにおける評価の実践 (第9回) 演習 評価を核としたマネジメントサイクル カリキュラムマネジメントにおける評価の実践	事前	テキストの第6章, 第7章を講読(4h)
		事後	復習・振り返りの記入(2h) 課題：理論モデルを活用した実態分析(授業内容を反映)(2h)
第6講	(第10回) 講義	事前	テキストの第11章, 第12

	学校内外の協働によるカリキュラム・マネジメント 組織構造と学校文化, (11) 社会に開かれた教育課程 (第11回) 演習 学校内外の協働によるカリキュラム・マネジメント 組織構造と学校文化, (11) 社会に開かれた教育課程		章, 第13章を講読(5 h)
		事後	復習・振り返りの記入(2 h) 課題: 理論モデルを活用した実態分析(授業内容を反映)(2h)
第7講	(第12回) 講義 教育課程行政による規定と支援 カリキュラムマネジメントへの子どもの参画 (第13回) 演習 教育課程行政による規定と支援 カリキュラムマネジメントへの子どもの参画	事前	テキストの第14章, 第15章を講読(4h)
		事後	復習・振り返りの記入(2 h) 課題: 理論モデルを活用した実態分析(授業内容を反映)(2h)
第8講	(第14回) 講義 GIGA スクール時代のカリキュラムマネジメント カリキュラム・マネジメントの展望 (第15回) 演習 GIGA スクール時代のカリキュラムマネジメント カリキュラム・マネジメントの展望	事前	テキストの第16章を講読(2 h)
		事後	復習・振り返りの記入(2 h) 課題: 理論モデルを活用した実態分析を完成させる(4h)
定期試験	実施しない。		
使用テキスト	田村知子著『カリキュラムマネジメントの理論と実践』日本標準, 2022年, ISBN-13: 978-4820807315		
参考文献	学習指導要領解説「総則編」, 幼稚園教育要領解説 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい, 2016年, ISBN-13: 978-4324100837 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著『ウェルビーイングを実現するカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい, 2023年(印刷中)		
受講生に対する評価	・最終レポート 50% ・授業中の討議・ディスカッション、グループ発表、ポートフォリオにおける振り返り 50%		

<b>授業・課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業後に記入する振り返りに対しては、各回の授業時にコメントすることで応答する。</li> <li>・最終課題レポートにはコメントを付して各自に返送する。</li> </ul>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	<p>随時、メール等で予約の後、オンラインにて行う。</p>
<b>受講生へのメッセージ*任意項目</b>	<p>LMS に適宜、関連研究論文や最新の審議会情報等を掲載するので参考にすること。LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める</p>
<b>備考 *任意項目</b>	<p>小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームやホワイトボード機能などを利用する。</p>
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

## ICT を活用した就学前教育

講義名	ICT を活用した就学前教育
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	堀田博史

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履 修 条 件	授業はオンラインによる2コマ連続で実施する。講義と議論を組み合わせているので、欠席・遅刻のないようにしてすること。
授業の概要	小学校以降に一人一台の情報端末が整備され、教員には個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、授業改善が求められている。その中で、就学前教育（特に、幼児教育）における ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）活用は、どのようにあるべきなのかを考え、見つめ直すために、現状の把握とその課題と解決に向けた議論を行う。それにより、幼児教育における ICT に関する指導技術の習得と向上を目指す。
授 業 の テ ー マ 及び到達目標	幼児教育での効果的な ICT 活用 ○これからの社会を担う子供たちに必要な ICT 活用法を説明できる ○園の情報化を推進できる ○保育で効果的に ICT 活用できる

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) 講義 なぜ今、幼児教育でICTを活用するのか(講義) コロナ禍でICTはどのように幼児教育で活用されたのか。学齢期前半までの子供のメディア接触の実態と課題を概観、Society5.0社会で変化する幼児教育でのICT活用の現状を共有する。	事前	小学校低学年でのICT活用事例をWebサイトで調べておくこと(2h)
		事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次講での発表準備をする(2h)
第2講	(第2回) 演習 なぜ今、幼児教育でICTを活用するのか(議論) コロナ禍で活用されたICTは、現在どのように活用されているのか。遠隔・オンライン保育は継続されているのか。幼児のメディア接触での健康被害、などを議論する。 (第3回) 講義 保育システムの導入～効果と課題～(講義) 働き方改革として、多くの園に保育システムが導入され、業務改善が進みつつある。何をどこまで進めるとよいのか。園の情報化の現状を共有する。	事前	前講を振り返り、本講での発表内容を確認しておくこと(4h)
		事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次講での発表準備をする(4h)
第3講	(第4回) 演習 保育システムの導入～効果と課題～(議論) 保育システムの導入で、働き方改革は進んだのか。園の情報化認定チェックリストをもとに、時代とともに変化すべき園の情報化の内容を議論する。 (第5回) 講義 保育でのICT活用1(講義) 保育でのICTと言えば、アプリの活用をイメージする。子どもは、どのようなアプリで、どのように遊ぶのか。良質なアプリに触れる体験も含め、現状を共有する。	事前	前講を振り返り、本講での発表内容を確認しておくこと(4h)
		事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次講での発表準備をする(4h)
第4講	(第6回) 演習 保育でのICT活用1(議論) 保育でのICT活用を進めるために、園にどのようなICT機器が必要なのか。特別支援が必要な子ども向けアプリには何があるのか、などを議論する。 (第7回) 講義	事前	前講を振り返り、本講での発表内容を確認しておくこと(4h)
		事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次講での発表準備をする(4h)

	<p>保育での ICT 活用 2（講義）</p> <p>ICT を問題解決に向けた探究的な学びの過程で活用することができるのか。探究的な遊びを実現する ICT 活用の現状を共有する。</p>		
第 5 講	<p>（第 8 回）演習</p> <p>保育での ICT 活用 2（議論）</p> <p>子どもの遊びを探究的にするために、ICT をどのように活用すればよいのか考え、議論する。</p> <p>（第 9 回）講義</p> <p>幼児教育での ICT 活用にルールは必要なのか（講義）</p> <p>大人は子どもが ICT に触れる時には、一定のルールが必要である、と考えている。では、園や保育者、保護者は、どのようなルールを設定しているのか、現状を共有する。</p>	事前	前講を振り返り、本講での発表内容を確認しておくこと(4h)
		事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次講での発表準備をする(4h)
第 6 講	<p>（第 10 回）演習</p> <p>幼児教育での ICT 活用にルールは必要なのか（議論）</p> <p>子どもだけではなく、保育者や保護者の情報モラル教育、デジタルシチズンシップ教育の重要性、個人情報の取り扱い、などを議論する。</p> <p>（第 11 回）講義</p> <p>保育者の情報活用能力育成（講義）</p> <p>保育での ICT 活用を実現するために、保育者にはどのようなスキルが必要となるのか。保育での現状を共有する。</p>	事前	前講を振り返り、本講での発表内容を確認しておくこと(4h)
		事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次講での発表準備をする(4h)
第 7 講	<p>（第 12 回）演習</p> <p>保育者の情報活用能力育成（議論）</p> <p>保育者の情報活用能力チェックリストをもとに、時代とともに変化する情報活用能力の内容を議論する。</p> <p>（第 13 回）講義</p> <p>諸外国における ECEC でのデジタル活用（講義）</p> <p>OECD 幼児教育・保育白書第 7 部の内容を概観して、保育での ICT 活用に関する OECD 諸国と日本の状況を共有する。</p>	事前	前講を振り返り、本講での発表内容を確認しておくこと(4h)
		事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次講での発表準備をする(4h)
第 8 講	<p>（第 14 回）演習</p> <p>諸外国における ECEC でのデジタル活用（議論）</p>	事前	前講を振り返り、本講での発表内容を確認しておくこと(4h)
		事後	授業を振り返り、「なぜ今、幼児

	OECD 幼児教育・保育白書第 7 部の内容より、今後の幼児のデジタルリテラシー育成を考え、いま何をすべきかを議論する。 (第 15 回) 講義・演習 授業の振り返りと確認テスト： 第 1 回から第 14 回までを振り返り、保育実践できる ICT 活用のイメージを共有する。	教育で ICT を活用するのか」について、自らの意見を持つ(4h)
定期試験	定期試験は行わない。	
使用テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を LMS に掲載しファイルで共有する。	
参考文献	<a href="http://hotta-lab.info/index2.html">http://hotta-lab.info/index2.html</a> 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省『小学校学習指導要領』 秋田喜代美・宮田まり子・野澤祥子編著『ICT を使って保育を豊かに：ワクワクが広がる&広がる 28 の実践』中央法規出版 木元有香編著・細萱大祐・添田武彦『事例から理解する 保育施設の個人情報取り扱いガイドブック:ICT 時代に必要な対策』中央法規出版 堀田龍也・佐藤和紀編著『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』三省堂 鈴木克明『教材設計マニュアル』北大路書房 向後千春『いちばんやさしい教える技術』永岡書店 稲垣忠・佐藤和紀編著『ICT 活用の理論と実践～DX 時代の教師をめざして～』北大路書房	
受講生に対する評価	平常評価（小レポート：20%、議論での発表：70%、確認テスト：10%） <b>【評価の基準】</b> 1) 子供たちの未来に必要な ICT 活用を理解できているか。 2) 園の情報化を推進する方法が習得できているか。 3) 保育のねらいを達成する効果的な ICT 活用法を習得できているか。	
授業・課題等に対するフィードバック	クラウドツール（Google classroom など）を活用予定	
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。	

## ICT を活用した初等中等教育

講義名	ICT を活用した初等中等教育
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	松田 孝

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	<p>児童・生徒が Society5.0 の社会をしなやかに生きる資質・能力を育む「学び」をめぐって、GIGA スクール構想によって配備された情報端末を活用することの意義や価値を教育哲学、教育社会学的に考察し、新しい授業の理論と方法を学ぶ。</p> <p>まずは GIGA スクール前史として、戦後の昭和・平成時代の「学び」の在り方及びフューチャースクールから GIGA スクールへの変遷を振り返る。</p> <p>次に児童・生徒が生きる Society5.0 の社会と時代を社会学的に考察し、情報活用に関わる現状のリテラシーやモラル等について検討する。</p> <p>さらに学習指導要領が目指すコンピテンシーベースの学びについて検討し、非認知能力の育成と評価について議論する。また Society5.0 の社会</p>

	を構築する核となるコンピュータとの相互理解に向けたプログラミング教育の在り方を議論し、その位置付けを検討し、プログラミングの具体を体験する。 加えて、児童・生徒に情報機器の基本操作や情報活用能力(情報モラルを含む)を身に付けさせるための指導方法についても理解していく。		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>本科目では、教育における初等中等教育における情報通信技術(ICT)活用をテーマに以下の目標達成を目指す。</p> <p>①教育(授業)における ICT 活用の意義と理論、非認知能力を育成する ICT の具体的な活用方法を理解している。</p> <p>②Society5.0 の社会において重要となるコンピュータサイエンスの入り口としてのプログラミング教育について理解し、IchigoJamBASIC を活用したプログラミングによるアニメーションを作成できる。</p> <p>③生成 AI やメタバース等の新しい技術と教育との関わりについての意識を醸成するとともにそれらを含めた情報活用能力の体系表を作成する。さらには、デジタル社会の対極としてのアナログの世界を豊かに生きる五感を磨く教育の重要性について理解する。</p>		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2回連続で実施する場合がある)			
<b>授業外の学習</b> (60時間)			
第1講	(第1回) 講義 オリエンテーション・GIGA スクールにおける学校現場の現状	事前	シラバスの精読 (1h)
		事後	現状の整理と課題の把握 (2h) / コメントペーパーの提出 (1h)
第2講	(第2回) 講義 GIGA スクール前史 (1) 戦後の昭和・平成における授業実践と教育観 GIGA スクール前史 (2) フューチャースクールから GIGA スクールへの変遷と教育実	事前	フューチャースクールから GIGA スクールへの変遷の予習 (4h)
	(第3回) 演習 (ビデオ会議システムを活用したアクティブラーニング等) GIGA スクール前史 (1) 戦後の昭和・平成における授業実践と教育観 GIGA スクール前史 (2) フューチャースクールから GIGA スクールへの変遷と教育実践	事後	ディスカッションの復習 (2h) / コメントペーパーの提出 (2h)
第3講	(第4回) 講義 Society5.0 の社会をめぐる考察 Society5.0 の社会を生きる資質・能力	事前	課題提示した Society5.0 の啓発動画の視聴と内容の整理 (4h)
	(第5回) 演習 (ビデオ会議システムを活用したワークショップ等) Society5.0 の社会をめぐる考察 Society5.0 の社会を生きる資質・能力	事後	ディスカッションの復習 (2h) / コメントペーパーの提出 (2h)

第4講	(第6回) 講義 Society5.0の社会と非認知能力 非認知能力と個別最適な学び (第7回) 演習(ビデオ会議システムを活用したワークショップ等) Society5.0の社会と非認知能力 非認知能力と個別最適な学び	事前	学習指導要領の変遷の整理(2h) / 指定された文献の精読(2h)
		事後	ディスカッションの復習(2h) / コメントペーパーの提出(2h)
第5講	(第8回) 講義 ICTを活用した学級経営 ICTを生かした学級集団づくり(WEBQ-Uの活用) (第9回) 演習(ビデオ会議システムを活用した模擬体験等) ICTを活用した学級経営 ICTを生かした学級集団づくり(WEBQ-Uの活用)	事前	WEB-QUについての予習(4h)
		事後	ディスカッションの復習(2h) / コメントペーパーの提出(2h)
第6講	(第10回) 講義 プログラミング教育の現状と課題 初等・中等教育のプログラミングと高等学校「情報」 (第11回) 演習(ビデオ会議システムを活用したワークショップ等) プログラミング教育の現状と課題 初等・中等教育のプログラミングと高等学校「情報」	事前	プログラミング授業の課題整理(2h) / 「小学校プログラミング教育の手引き続き」初版と第3版の比較検討(2h)
		事後	ディスカッションの復習(2h) / コメントペーパーの提出(2h)
第7講	(第12回) 講義 IchigoJamBASICによるプログラミング① IchigoJamBASICによるプログラミング② (第13回) 演習(ビデオ会議システムを活用した体験等) IchigoJamBASICによるプログラミング① IchigoJamBASICによるプログラミング②	事前	プログラミング教育の課題整理(4h)
		事後	コメントペーパーの提出(2h) / IchigoJamBASICを使ったプログラミング作品の制作(2h)
第8講	(第14回) 講義 生成AI等の活用と情報活用能力 初等・中等教育における情報活用能力(体系表) (第15回) 演習(ビデオ会議システムを活用したアクティブラーニング等) 生成AI等の活用と情報活用能力 初等・中等教育における情報活用能力(体系表)	事前	Society5.0の技術革新と生活との関わりについての整理(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) / 情報活用能力(体系表)の作成(4h)

定期試験	該当なし
使用テキスト	テキストは使用せず必要な資料を LMS にて作成・配布する。受講生が授業外の学習にて視聴した動画（URL）を一覧にして配布し、各々の内容理解を深めるための参考資料とする。
参考文献	小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」（文部科学省、各最新版） 「IchigoJam ではじめるテキストプログラミングの授業」（松田孝著、くもん出版） 「小学校プログラミング教育の手引き」（文部科学省） 「非認知能力: 概念・測定と教育の可能性」（小塩 真司著／編集 北大路書房）
受講生に対する評価	① 各回の授業でのディスカッションへの貢献・小レポート② コメントペーパー及び授業の振り返りと自己評価（Shuffle.活用）の提出 以上、①（30%）、②（70%）の総合評価により判定する。
授業・課題等に対する フィードバック	授業の振り返りと自己評価（Shuffle.活用）の提出により行う。
オフィスアワー （オンライン曜日・時間）	特に設けないが、質問があれば遠慮なく授業時間内及びメール等によりコンタクトをとって対応する。
受講生へのメッセージ*任意項目	Society5.0 の社会をしなやかに生きる真の力を育む授業の事実を創り出そうとする熱意のある人  LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める。
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。動画視聴においては、コンテンツ（Shuffle.）を活用して受講生が各自の視聴履歴とともに視聴内容に対するコメントを振り返ることができるようにする。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## ICT を活用した高等教育

講義名	ICT を活用した高等教育
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	村上 正行

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	高等教育における ICT の活用について、ミクロ・ミドル・マクロの観点から利点や必要性、課題について学ぶ。その上で受講生自身が関わる教育現場などにおいてどのように活用・適用していくのか、設計・実践・評価の方法について学ぶ。
授業のテーマ及び到達目標	高等教育における ICT の活用について、下記4点を到達目標として、受講生自身の教育実践に活用できることを目指す。 1 高等教育における ICT 活用の利点・課題について説明できる 2 高等教育における ICT を活用した授業の設計・実践ができる 3 高等教育における ICT を活用したカリキュラムや組織運営の設計・改善ができる 4 高等教育における教育データ利活用のポイントを説明できる
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります)	授業外の学習 (60時間)

第1講	<p>(第1回) ガイダンス・教育における ICT 活用の現状 (講義)</p> <p>本授業の概要、授業目標を把握し、教育における ICT 活用の現状について学び、自身が持つ興味・関心について整理する。</p> <p>学習指導要領における「情報活用能力」の理解を深め高等教育の役割を確認する。</p>	事前	シラバス・資料の精読 (2h)
		事後	ミニレポートの提出 (2h)
第2講	<p>(第2回) 高等教育における DX・ICT の活用 (講義)</p> <p>高等教育における DX や ICT の活用に関する現状について広く学ぶ。</p> <p>(第3回) 高等教育における DX・ICT の活用 (演習)</p> <p>高等教育における DX や ICT の活用に関する課題について議論し、今後の授業に向けて、マクロ・ミドル・ミクロなどの観点から整理する。</p>	事前	指定文献の精読 (3h) 事前課題への取り組み (1h)
		事後	授業資料の確認 (1h) ミニレポートの提出 (3h)
第3講	<p>(第4回) 高等教育の歴史と現状・課題 (講義)</p> <p>高等教育の歴史についてマクロの観点から学ぶとともに、現在の状況や政策動向を把握する。</p> <p>(第5回) 高等教育の歴史と現状・課題 (演習)</p> <p>歴史や現状を知った上で、課題を整理し、今後の解決策について議論を通して検討する。</p>	事前	指定文献の精読 (3h) 事前課題への取り組み (1h)
		事後	授業資料の確認 (1h) ミニレポートの提出 (3h)
第4講	<p>(第6回) 高等教育の授業における ICT 活用の実際と課題 (講義)</p> <p>インストラクショナルデザインなどを踏まえた授業デザインについて学習し、アクティブラーニングなどを取り入れた授業実践について学ぶ。</p> <p>(第7回) 高等教育の授業における ICT 活用の実際と課題 (演習)</p> <p>実際に ICT を活用した授業デザインを行い、グループに分かれて模擬授業を実践し、改善する</p>	事前	指定文献の精読 (1h) 事前課題への取り組み (3h)
		事後	授業資料の確認 (1h) ミニレポートの提出 (3h)
第5講	<p>(第8回) 高等教育のカリキュラムにおける ICT 活用の実際と課題 (講義)</p> <p>高等教育のカリキュラムについて学んだ上で、ICT 活用の実際について、大学の実践などを通して理解する。</p> <p>(第9回) 高等教育のカリキュラムにおける ICT 活用の実際と課題 (演習)</p> <p>実際に大学のカリキュラムにおける ICT 活用の設計を検討し、その内容について議論する。</p>	事前	指定文献の精読 (1h) 事前課題への取り組み (3h)
		事後	授業資料の確認 (1h) ミニレポートの提出 (3h)

第6講	<p>(第10回) 高等教育機関における ICT 活用の実際と課題 (講義)</p> <p>高等教育機関における ICT 活用の実際について学び、課題について検討する。</p> <p>(第11回) 高等教育機関における ICT 活用の実際と課題 (演習)</p> <p>高等教育機関における ICT 活用で優れている事例を調べて紹介するとともに、改善点について議論を通して検討する。</p>	事前	指定文献の精読 (1h) 事前課題への取り組み (3h)
		事後	授業資料の確認 (1h) ミニレポートの提出 (3h)
第7講	<p>(第12回) 個別最適化学習やデータ駆動型教育 (講義)</p> <p>教育データや AI などを活用して行う個別最適化学習やデータ駆動型教育の理論について学ぶ。</p> <p>(第13回) 個別最適化学習やデータ駆動型教育 (演習)</p> <p>個別最適化学習やデータ駆動型教育の事例を調べて紹介するとともに、今後の展望について議論する。</p>	事前	指定文献の精読 (1h) 事前課題への取り組み (3h)
		事後	授業資料の確認 (1h) ミニレポートの提出 (3h)
第8講	<p>(第14回) 高等教育における ICT 活用の今後の展望 (講義)</p> <p>今後の高等教育における ICT 活用の今後の展望について学ぶ</p> <p>(第15回) 高等教育における ICT 活用の今後の展望 (演習)</p> <p>これまでの授業を踏まえて、今後の高等教育における ICT 活用の今後の展望をまとめ、グループ内で紹介し、議論する。</p>	事前	事前課題への取り組み (4h)
		事後	最終レポートの提出 (4h)
定期試験	定期試験は実施しない。		
使用テキスト	必要に応じて、LMS などで PDF などの資料を提供する		
参考文献	文部科学省『高等学校学習指導要領』 その他、別途指示する		
受講生に対する評価	<p>下記3点をふまえ、総合評価によって判定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業におけるグループワークの取り組み (7回 (第1講を除く)) 報告レポート</li> <li>・毎回の授業後のミニレポート (7回) (到達目標①~④に対応)</li> <li>・最終レポート (1回)</li> </ul> <p>1 2%×7回=14%</p> <p>2 8%×7回=56%</p>		

	3 30%
授業・課題等に対する フィードバック	LMS の機能、各回の授業の最初の時間を活用してフィードバックを行う
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	
受講生へのメッセージ*任意項目	
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## ICT を活用した特別支援教育

講義名	ICT を活用した特別支援教育
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	金森克浩

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

<b>履 修 条 件</b>	特別支援教育に広く関心を持ち、その中で ICT がどのように活用されているかを学びたい人
<b>授業の概要</b>	障害のある子どもの ICT の活用は 2 つの意味で重要な役割を果たす。1 つめは、障害による困難さを支援する機能代替的なアプローチとしての活用であり、2 つめは、学習環境を整え学びに向かう力を育成するものである。それらについて、具体例を学びながら履修者とディスカッションしながら学びを深めていく。
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	(テーマ)特別支援教育について概観し、障害のある子どもの教育に ICT がどのような役割を果たすかを理解しその役割について考察する。 (到達目標) ・ 障害のある幼児児童生徒が抱える学習上や生活上の困難を改善克服するための ICT 活用について説明ができる。 ・ 合理的配慮と基礎的環境整備としての ICT 活用について具体例を挙

	<p>げて説明することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者や高齢者にとっての ICT 意義とその活用方法について説明することができる</li> </ul>		
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	<p>(第1回) 講義</p> <p>講義の進め方・特別支援教育における ICT 活用の概要</p> <p>本講義において必要とされる基本的な知識と、履修する上での参考資料、等を説明し学び方について解説する。</p>	事前	参考文献を見て特別支援教育における ICT 活用について調べる(3h)
		事後	レポートの作成(1h)
第2講	<p>(第2回) 講義</p> <p>障害のある子どもの教育制度と基本的な考え方</p> <p>「学習指導要領」「教育の情報化に関する手引」「障害者の権利条約」等を解説しながら特別支援教育における ICT 活用のポイントを確認する</p> <p>(第3回) 演習</p> <p>障害のある子どもの教育制度と基本的な考え方</p> <p>上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッションする。</p>	事前	特別支援学校学習指導要領について調べ、ICT の活用がどのように書かれているか調べる(6h)
		事後	レポートの作成(2h)
第3講	<p>(第4回) 講義</p> <p>困難さに対応した ICT の活用(発達障害)</p> <p>発達障害教育についての基本的事項を理解し、通常学級等における ICT 活用の現状とその活用方法を確認する</p> <p>(第5回) 演習</p> <p>困難さに対応した ICT の活用(発達障害)</p> <p>上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッションする。</p>	事前	発達障害のある子どもの ICT の活用についてどのような事が必要とされているか調べる(6h)
		事後	レポートの作成(2h)
第4講	<p>(第6回) 講義</p> <p>困難さに対応した ICT の活用(視覚障害)</p> <p>視覚障害教育についての基本的な事項を押さえつつ、ピンディスプレイ、スクリーンリーダー等の専門的な機器について学ぶ</p> <p>(第7回) 演習</p> <p>困難さに対応した ICT の活用(視覚障害)</p> <p>上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッションする。</p>	事前	視覚障害のある子どもにどのような ICT 活用があるかを調べる(6h)
		事後	レポートの作成(2h)
		事前	聴覚障害のある子どもにどのよう

第5講	<p>(第8回) 講義 困難さに対応した ICT の活用 (聴覚障害) 聴覚障害教育記についての基本的な事項を押さえつつ、見える校内放送、聴覚支援機器等について学ぶ</p> <p>(第9回) 演習 困難さに対応した ICT の活用 (聴覚障害) 上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッションする。</p>		な ICT 活用があるかを調べる(6h)
		事後	レポートの作成(2h)
第6講	<p>(第10回) 講義 困難さに対応した ICT の活用(知的障害) 知的障害教育についての基本的な事項を押さえつつ、知的障害特別支援学校でのコミュニケーション支援や学習支援機器を学ぶ</p> <p>(第11回) 演習 困難さに対応した ICT の活用(知的障害) 上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッションする。</p>	事前	知的障害のある子どもにどのような ICT 活用があるかを調べる(6h)
		事後	レポートの作成(2h)
第7講	<p>(第12回) 講義 困難さに対応した ICT の活用(肢体不自由・病弱) 肢体不自由教育・病弱教育についての基本的な事項を押さえつつ、さまざまな支援機器や遠隔学習について学ぶ</p> <p>(第13回) 演習 困難さに対応した ICT の活用(肢体不自由・病弱) 上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッションする。</p>	事前	肢体不自由や病弱の子どもにどのような ICT 活用があるかを調べる(6h)
		事後	レポートの作成(2h)
第8講	<p>(第14回) 講義 社会参加や自立に向けての ICT 活用・本講義のまとめ 本講義全般に通じる、基礎的環境整備と合理的配慮について理解し、障害のある子どもの学習に生かす ICT 活用の重要性について学ぶ</p> <p>(第15回) 演習 社会参加や自立に向けての ICT 活用・本講義のまとめ 講義全体を振り返り、重点となる事項を再確認して討議する。</p>	事前	障害者や高齢者にとって ICT はどのような意義があるかを調べる(5h)
		事後	レポートの作成(3h)

定期試験	レポート課題
使用テキスト	金森克浩 大杉成喜 荻田知則 編著『支援機器を用いた合理的配慮概論』 建帛社(税込 2,970 円)
参考文献	教育の情報化に関する手引 特別支援学校学習指導要領
受講生に対する評価	各回に作成を求める「小レポート」と学期末レポートを総合的に評価する。 小レポート 70% 学期末レポート 30%
授業・課題等に対する フィードバック	「小レポート」の内容について次回の授業時にコメントする。必要に応じ授業時に受講生による討論を行う。 各課題について、講義の時間および、次回の講義で解説をする。
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	
受講生へのメッセージ*任意項目	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める 特別支援教育についての基本的な知識について事前に予習して臨んでほしい。
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。 皆さんが利用する ICT 機器には、すでにアクセシビリティ機能が実装されているので、講義中にその使い方についても演習をする
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## XR の教育応用

講義名	XR の教育応用
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	竹村治雄

## DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	大学レベルの一般情報教育の課程を履修していることが望ましい
授業の概要	XR についての技術的背景、研究開発の歴史、今後の発展に向けての技術的課題を理解し、XR の教育応用について、学習内容と学習レベルに応じた教育応用の手法について概説する。
授業のテーマ及び到達目標	XR,すなわち、バーチャルリアリティ (VR)、拡張現実 (AR)、複合現実 (MR) についての基礎的な概念を理解し、教育学的観点からこれらの教育応用について理解し、教育における効果的な XR の利用について、ブルームの分類学における三領域における効果的な XR の利用形態およびそのために必要な XR 教材の構築手法についての解説と実践ができることを目指す。

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) 導入、本授業が取り扱う対象と授業の概要について概説し、履修方法及び成績評価についても説明する。また、授業で用いるソフトウェアツール (Unity, VRChat 等の導入方法、利用に向けての自習教材について説明する。	事前	事前予習ビデオの視聴、関連資料の精読(2h)
		事後	復習および、授業内で説明のあったツールが利用できる環境を構築すること。(2h)
第2講	(第2回) 講義 VRの技術的背景と要素技術について講義する。 人工現実感、バーチャルリアリティの技術的発展の歴史を振り返り、VRを構成する要素技術について理解する。また、ヒトの認知特性とVRとのかわりについて理解し、関連する原理について理解する。 (第3回) 演習 VRの技術的背景と要素技術について講義する。 人工現実感、バーチャルリアリティの技術的発展の歴史を振り返り、VRを構成する要素技術について理解する。また、ヒトの認知特性とVRとのかわりについて理解し、関連する原理について理解する。	事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資料の学習(4h)
		事後	講義を振り返り、内容を整理しレポート課題を作成し提出する。(4h)
第3講	(第4回) 講義 ARにおける技術機背景と要素技術について講義する ARを実現するために要素技術ならいびに入出力装置の構成方法について理解し、ARの整合性に関する三要素について理解する。 (第5回) 演習 ARにおける技術機背景と要素技術について講義する ARを実現するために要素技術ならいびに入出力装置の構成方法について理解し、ARの整合性に関する三要素について理解する。	事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資料の学習(4h)
		事後	講義を振り返り、内容を整理しレポート課題を作成し提出する。(4h)
		事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資

第4講	(第6回) 講義 MRにおける技術的背景と要素技術について講義する。 MRのうち、VR/A Rで触れられていない Augmented Virtuality 実現のための要素技術について理解し、実世界の三次元モデル化の手法の原理について理解する。		料の学習(4h)
	(第7回) 演習 MRにおける技術的背景と要素技術について講義する。 MRのうち、VR/A Rで触れられていない Augmented Virtuality 実現のための要素技術について理解し、実世界の三次元モデル化の手法の原理について理解する。	事後	講義内で説明のあった、三次元モデリング手法を用いて、身近な三次元物体をモデル化する演習を行い、その成果をレポートとして提出する。(4h)
第5講	(第8回) 講義 ブルームの学習に関する分類学の概説とそれらの到達目標ごとの XR 教材の利用の効果について講義する。 ブルームの分類学による認知領域、情意領域、精神運動領域における XR 教材の効果的な利用方法について事例紹介を含めて概説し、XR教材作成に関する基本を理解する。	事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資料の学習(4h)
	(第9回) 演習 ブルームの学習に関する分類学の概説とそれらの到達目標ごとの XR 教材の利用の効果について講義する。 ブルームの分類学による認知領域、情意領域、精神運動領域における XR 教材の効果的な利用方法について事例紹介を含めて概説し、XR教材作成に関する基本を理解する。	事後	講義を受けて、自ら XR を用いた学習内容を選択し、それを用いた XR 教材の構成方法を考え、教材の概念設計を行う演習を行い、レポートとして提出する。(4h)
第6講	(第10回) 講義 メタバースにおける身体性に関する基本について理解する。アバターを用いたコミュニケーションの特性について理解する。	事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資料の学習(4h)
	(第11回) 演習 メタバースにおける身体性に関する基本について理解する。アバターを用いたコミュニケーションの特性について理解する。	事後	アバターの身体性を理解したうえでその特徴を活かした、学習者自らのアバターを作成し、メタバース空間に配置する。その内容をレポートとして提出する。(4h)
第7講	(第12回) 講義	事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資料の学習(4h)

	<p>XR の教育応用についての事例紹介と授業内演習についての準備 XR の教育応用の事例を構築するために、ゲームエンジンを用いた VR 教材やメタバース環境を用いた教材の作成手法について概説し、これらを用いた教材の作成に必要な基礎を理解する。</p> <p>(第 13 回) 演習</p> <p>XR の教育応用についての事例紹介と授業内演習についての準備 XR の教育応用の事例を構築するために、ゲームエンジンを用いた VR 教材やメタバース環境を用いた教材の作成手法について概説し、これらを用いた教材の作成に必要な基礎を理解する。</p>	事後	<p>第 6 週で選択した学習内容を実現する教材を部分的に構築する演習を実施し、次週にその内容を授業内で報告するための準備を行う。(4h)</p>
第 8 講	<p>(第 14 回) 講義</p> <p>XR の教育応用に関する演習成果の発表と授業の振り返り。各自演習内容を事前にビデオ録画し提出することで、グループごとに互いの演習成果を相互評価する。また、全体についての講評を行う。</p> <p>(第 15 回) 演習</p> <p>XR の教育応用に関する演習成果の発表と授業の振り返り。各自演習内容を事前にビデオ録画し提出することで、グループごとに互いの演習成果を相互評価する。また、全体についての講評を行う。</p>	事前	<p>事前予習ビデオの視聴と、関連資料の学習(4h)</p>
		事後	<p>授業の振り返り、授業アンケートへの回答行う。定期試験に向けた学習内容の振り返り。(4h)</p>
定期試験	15 回講義終了後に、オンラインにて試験を実施する。		
使用テキスト	教材は、LMS から配布する		
参考文献	両宮智浩著 メタバースの教科書 オーム社 (2023)		
受講生に対する評価	本講義の評価は、事後学習で提出するレポートの評価 (40%)、期末試験 (30%) および、演習課題の評価(30%)で総合的に行う。		
授業・課題等に対する フィードバック	課題等に対するフィードバックは LMS の機能を用いて行う。受講生同士の意見交換の場としては LMS 上の掲示板等を用いる。		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	原則、オンラインツールを用いた面談で対応する。希望者は LMS を用いて事前に対応日時を予約すること。		
受講生へのメッセージ*任意項目	後日掲載		

備考 * 任意項目	後日掲載
授業用 URL * 任意項目	後日決定
授業用 E-Mail * 任意項目	後日決定

## 教育政策論

講義名	教育政策論
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	木岡 一明

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履 修 条 件	教育界の改革に意欲的であること。	
授業の概要	今日日本の教育政策動向を踏まえ、明治維新から今日に至る教育政策の変遷と制度改革の動向、それらに伴う教育行財政の特質と問題を概説しつつ、学校をはじめとした教育経営体が果たすべき役割と経営機能のあり方を探究する。	
授 業 の テ ー マ 及び到達目標	テーマ；日本における教育政策の近未来を展望する 到達目標；教育政策、教育制度、教育行財政、教育経営の関係を連続と非連続の両面から説明できる。	
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります)	授業外の学習 (60時間)	

第1講	(第1回) 講義 オリエンテーション；講義概要、基本用語、基礎概念について理解し、今後の学修を見通す。	事前	本シラバスの熟読と感想の整理。(2h)
		事後	学修計画の作成(2h)
第2講	(第2回) 講義 近代公教育の成立過程；宗教改革、市民革命、産業革命が果たした役割について公教育制度成立の視点から説明できる。 (第3回) 講義 明治維新と公教育政策の展開；ヨーロッパ諸国に遅れて近代国家の確立を目指すことになった明治政府が、当初、いかなる教育政策を展開し、制度基盤を整備していったのかの経緯を理解する。	事前	1. 宗教改革、市民革命、産業革命について、その経緯、結果の整理。(2h) 2. 明治期の教育政策についての年表作成。(2h)
		事後	1. プロイセン改革における教育改革の整理。(2h) 2. 森有礼が構想した教育プランの要約。(2h)
第3講	(第4回) 講義 殖産興業政策による公教育の拡充；産業革命を機に殖産興業政策に乗り出した政府が、いかなる意図でいかに公教育制度を整備していったのかの経緯を理解し、戦後日本の教育政策に繋がる視点を獲得する。 (第5回) 講義 戦後教育改革による公教育政策の転換；敗戦を機に民主化政策に転じた政府が、いかなる意図でいかに公教育制度を整備していったのかの経緯を理解し、今日の教育政策に繋がる視点を獲得する。	事前	1. 明治中期以降大正期の間に新設・改組された学校のリスト化。(2h) 2. 第一次米国教育使節団報告書の熟読と要約。(2h)
		事後	1. 井上毅文相が公教育制度確立に果たした役割の整理。(2h) 2. 改正前の教育基本法の各条項の熟読と立法趣旨の要約。(2h)
第4講	(第6回) 講義 「地方教育行政法」体制への転換；中央集権体制に転換した政府が、いかなる意図でいかに公教育制度を整備していったのかの経緯を理解し、分権化政策に繋がる視点を獲得する。 (第7回) 講義 高度経済成長下における教育政策；高度経済成長が公教育政策にどのような影響を及ぼし、いかなる公教育現実を生み出すことになったかを理解し、今日に連なる教育改革課題を析出できる。	事前	1. 教育委員の公選制と任命制についての自己の考えの整理。(2h) 2. 教育投資論についての自己の考えの整理。(2h)
		事後	1. 「地方教育行政法」成立によって変わった学校の位置づけの整理。(2h) 2. 講義中に提示する中央教育審議会四六答申の熟読と要約。(2h)
第5講	(第8回) 講義 分権化政策の展開と公教育制度；構造改革の展開によって生み出された分権化政策が、いかなる公教育体制を導き、いかに公教育を進めようとしているのかを理解し、教育改革課題を析出できる。 (第9回) 講義	事前	1. 分権化政策の背景の整理。(2h) 2. 学校教育法の熟読と要約。(2h)
		事後	1. 総合教育会議のメリットの整理。(2h) 2. 教育振興基本計画の意義についての整理。(2h)

	現行法制下における公教育の構造（1）；国公立学校の視点から、憲法、教育基本法、学校教育法等の基本教育法制を理解し、教育行財政改革の可能性を探る。		
第6講	<p>（第10回）講義 現行法制下における公教育の構造（2）；私立学校に視点を移し、憲法、教育基本法、学校教育法等の基本教育法制を理解し、教育行財政改革の可能性を探る。</p> <p>（第11回）講義 中央教育行財政体制の機能と構造；今日の中央教育行財政体制について、果たしうる機能を理解し、構造の特質を把握する。</p>	事前	<p>1. 私立学校に関する法令のリスト化。（2h）</p> <p>2. 子ども家庭庁発足の背景の整理。（2h）</p>
		事後	<p>1. 私学助成金制度を巡る議論の整理。（2h）</p> <p>2. 「令和の日本型学校教育」が目指す近未来の学校教育像の整理。（2h）</p>
第7講	<p>（第12回）講義 地方教育行財政体制の機能と構造；今日の地方教育行財政体制について、果たしうる機能を理解し、構造の特質を把握する。</p> <p>（第13回）講義 学校経営の自主性と自律性；中央－地方の教育行財政体制下にある学校経営について、自主性・自律性のアリーナを理解し、学校経営改革の可能性を探る。</p>	事前	<p>1. 学校運営協議会制度の趣旨と体制の整理。（2h）</p> <p>2. 「学校の自主性・自律性」確立の可能性についての自己の考えの整理。（2h）</p>
		事後	<p>1. 今後の教育委員会制度改革の展望についての自己の考えの整理。（2h）</p> <p>2. 現行法制下における「学校の自律性」の範囲について整理。（2h）</p>
第8講	<p>（第14回）演習 グループ協議（1）；日本の教育政策の展望について、数名のグループで自由に議論する。</p> <p>（第15回）演習 グループ協議（2）；グローバル化する国際社会において活躍できる人材を育成するには、国、地方、教育経営体の各レベルごとにどのような施策が必要なのかについて、数名のグループで自由に議論する。</p>	事前	<p>1. 日本の教育政策の展望についての自己の考えの整理。（2h）</p> <p>2. 国際社会において活躍できる人材像についての自己の考えの整理。（2h）</p>
		事後	修了レポートの作成。（4h）
<b>定期試験</b>		実施しない。ただし、評価は「受講生に対する評価」欄を参照のこと。	
<b>使用テキスト</b>		特になし。	
<b>参考文献</b>		<p>堀内孜編『公教育経営の展開』東京書籍、2011年。</p> <p>村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』有斐閣、2020年。</p> <p>その他は授業中に紹介する。</p>	
<b>受講生に対する評価</b>		<p>毎回の事前・事後学修課題レポート（配点；56%）</p> <p>評価観点；内容の適切性、独自性、論理的妥当性、文章表現</p>	

	<p>修了レポート；「国際社会に活躍できる人材育成プラン」をテーマにレポート（3600字程度）をまとめて提出する。（配点；44%）</p> <p>評価観点；内容の説得性、独自性、論理的妥当性、一貫性、文章表現詳細は講義中に提示する。</p>
<p>授業・課題等に対する フィードバック</p>	<p>応答レポートについては、各回の講義開始時にコメントすることで応える。修了レポートについては、コメントを付けて各自に返送する。</p>
<p>オフィスアワー （オンライン曜日・時間）</p>	<p>毎週水曜日・18：00～20：00 希望する人は事前予約してください。</p>
<p>受講生へのメッセージ*任意項目</p>	<p>LMSのフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める</p>
<p>備考 *任意項目</p>	<p>小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。</p>
<p>授業用 URL *任意項目</p>	
<p>授業用 E-Mail *任意項目</p>	

## ソーシャル・アントレプレナーシップ論

講義名	ソーシャル・アントレプレナーシップ論
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	大和田順子

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	国内外の社会課題の解決に関し、熱意と実践意欲を有すること
授業の概要	ソーシャル・アントレプレナーシップ（社会起業）やソーシャル・イノベーションについて学び、社会性の高い教育事業を起こすための研究を行う。また、ソーシャル・アントレプレナーシップに欠かせないプロジェクト&プログラムマネジメントや、対話・協働の技法についても学ぶ。
授業のテーマ及び到達目標	本授業では、SDGs の推進に欠かせないソーシャル・アントレプレナーシップやソーシャル・イノベーションについて学び、社会性の高い教育事業を起こすための研究を行う。また、ソーシャル・イノベーションの主体となる社会起業家や社会的企業などを SDGs の 17 目標と関連づけ、国内外の実践事例から学ぶ。特に、自然資本関連や農林漁業・農山漁村における教育プログラムや教育事業について取り上げる。 また、プロジェクトのマネジメント手法として、プロジェクト&プログラムマネジメント(P2M)や、対話・協働などワークショップの技法に

	についても学び、学生自ら企画・実践できるようにする。		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります)		<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) 講義 ソーシャル・アントレプレナーシップ1 ソーシャル・アントレプレナーシップおよび、 ソーシャル・イノベーションについて学ぶ	事前	授業の予習 (2h)
		事後	ソーシャル・アントレプレナーについて調べる (2h)
第2週	(第2回) 講義 ソーシャル・アントレプレナーシップ2 各自が調べた実践例について報告するとともに、 社会課題の解決に関し、討議を行う (第3回) 演習 ソーシャル・アントレプレナーシップ2 各自が調べた実践例について報告するとともに、 社会課題の解決に関し、ワークショップを行う	事前	授業の予習 (4h)
		事後	授業のフィードバック (2 h) ワークショップの振り返り (2h)
第3週	(第4回) 講義 教育分野におけるソーシャル・アントレプレナー 教育分野におけるソーシャル・アントレプレナー について学ぶ (ゲストスピーカーを招請) (第5回) 演習 教育分野におけるソーシャル・アントレプレナー 教育分野におけるソーシャル・アントレプレナー のお話しについて討議を行う	事前	授業の予習 (4h)
		事後	授業のフィードバック (4h)
第4週	(第6回) 講義 対話・協働の進め方 ソーシャル・アントレプレナーに欠かせない、対 話・協働の進め方、ワークショップの理論と技法 について学ぶ (第7回) 演習 対話・協働の進め方 ソーシャル・アントレプレナーに欠かせない、対 話・協働の進め方、ワークショップの理論と技法 について学ぶ	事前	授業の予習 (4h)
		事後	ワークショップの振り返り (4h)
第5週	(第8回) 講義 ワークショップ ワークショップをオンラインで実践する (第9回) 演習 ワークショップ ワークショップをオンラインで実践する	事前	ワークショップの準備 (4h)
		事後	ワークショップの振り返り (4h)
		事前	授業の予習 (4h)

第6週	<p>(第10回) 講義 プロジェクト&amp;プログラムマネジメント (P2M) 1 ロジックモデルやSWOT分析をはじめ、P2Mの技法について学ぶ</p> <p>(第11回) 演習 プロジェクト&amp;プログラムマネジメント (P2M) 1 ロジックモデルやSWOT分析をはじめ、P2Mの技法について学ぶ</p>	事後	ロジックモデルの作成、SWOT分析を行う (4h)
第7週	<p>(第12回) 講義 プロジェクト&amp;プログラムマネジメント (P2M) 2 各自の企画にP2Mを適用し、ロジックモデルを作成し発表する</p> <p>(第13回) 演習 プロジェクト&amp;プログラムマネジメント (P2M) 2 各自の企画にP2Mを適用し、ロジックモデルを作成し発表する</p>	事前	発表準備 (4h)
		事後	発表へのフィードバック (4h)
第8週	<p>(第14回) 講義 教育分野における新規事業2 教育分野における新規事業について各自検討し、その企画内容について発表を行う</p> <p>(第15回) 演習 教育分野における新規事業2 教育分野における新規事業について各自検討し、その企画内容について発表を行う</p>	事前	発表準備 (4h)
		事後	レポート作成 (2h) / 発表へのフィードバック (2h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	開講時に提示する		
参考文献	<p>SSIR Japan 『これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。－スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー ベストセレクション10－』 (2021年、英知出版)</p> <p>SSIR Japan 『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版 VOL.2－社会を元気にする循環－』 (2022年、英知出版)</p> <p>SSIR Japan 『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー VOL.3－科学技術とインクルージョン－』 (2022年、英知出版)</p> <p>SSIR Japan 『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー</p>		

	<p>VOL.4 -コレクティブ・インパクト』（2023年、英知出版）</p> <p>SSIR Japan 『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー VOL.5 -コミュニティの声を聞く』（2023年、英知出版）</p> <p>ライアン・ハニーマン，ティファニー・ジャナ（著），鳥居希，矢代真也，若林恵（監修，編集），B Corp ハンドブック翻訳ゼミ（訳）『B Corp ハンドブックーよいビジネスの計測・実践・改善ー』（2020年、バリューブックス・パブリッシング）</p> <p>『SDGs を活かす地域づくり』（大和田順子ら編著、2022年、晃洋書房）</p> <p>『ソーシャル・イノベーションの理論と実践』（今里滋編著、2022年、明石書店）</p>
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（50%）</li> <li>・授業内発表（25%）</li> <li>・レポート（25%）</li> </ul>
授業・課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。ワークショップや新規事業の検討など各自が行い、授業の場にて発表する。履修者は、他者の発表に対して積極的にコメントをすること。</li> </ul>
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	随時、個別にアポイントを取り実施
受講生へのメッセージ*任意項目	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育マーケティング・広報ブランディング

講義名	教育マーケティング・広報ブランディング
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	柴山慎一

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履 修 条 件	教育機関の経営、教育事業の拡大・成長に関する問題意識を持っていること
授業の概要	<p>入試広報といった入学志願者・入学者数だけに注目したコミュニケーションではなく、教育機関の経営そのものの中にコミュニケーションを位置づけ、その内容を広く学ぶ。</p> <p>教育機関の経営のため、教育事業の拡大・成長のために必要なコミュニケーション領域の二大テーマ（マーケティング、広報ブランディング）について、経営管理大学院（MBA コース）で学ぶような一般的な内容はもちろんのこと、特に教育業界に求められている内容を探求し、組織や事業の形態が異なるものであっても、広く教育機関に求められている普遍的な知識を獲得する。</p> <p>教育機関とは、それが何をしているかも大切だが、それ以上に何をしていると見られているかはより大切で、さらには何をしてほしいと期待さ</p>

	<p>れているかを意識したマネジメントを推進することが肝要である。本科目では、企業や教育機関の先進的な事例と対比しながら、受講生自身の所属、あるいは関係する教育機関への実装を検討していく。</p>	
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>1 履修者が、現在、そして未来の所属組織におけるマーケティングや広報ブランディングを中心としたコミュニケーションに関する課題を見極め、その解決施策を提示できるようになる。</p> <p>2 履修者が、授業内で紹介される様々な理論を通じ、現実の事象を一般化して理念的、普遍的な問題として捉える知見を身に付けられるようになる。</p> <p>3 履修者が、授業内で紹介される様々な事例を通じ、それらの疑似体験を積み上げ、今後の実務や研究に生かす知見を身に付けられるようになる。</p> <p>履修者が、所属組織の経営者との間で、マーケティングや広報ブランディングを中心としたコミュニケーションを切り口にした課題とその解決施策について、有効な対話ができるようになる。</p>	
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)
第1講	(第1回) 講義 オリエンテーション：授業の全体像とゴールイメージ、受講生の問題意識、授業の進め方などの共有	事前 マーケティング、広報・ブランディングを中心としたコミュニケーション領域に関する各自既有的の基礎知識について棚卸 (2h)
		事後 自身の問題意識と他の受講生の問題意識、授業計画との差異などの振り返り (2h)
第2講	(第2回) 講義 マーケティングの基礎その1：マーケティングの考え方 マーケティングの基礎その2：消費者行動理論などの理論と実務 (第3回) 演習 マーケティングの基礎その1：マーケティングの考え方 マーケティングの基礎その2：消費者行動理論などの理論と実務	事前 次回授業で触れられるテーマについて参考文献等で事前学習 (4h)
		事後 授業内で理解しきれなかった内容について参考文献等で再度自身の理解を確認 (3h)
第3講	(第4回) 講義 マーケティングの基礎その3：競争戦略などの理論と実務 マーケティングの基礎その4：意思決定につながる理論と実務	事前 次回授業で触れられるテーマについて参考文献等で事前学習 (4h)
		事後 授業内で理解しきれなかった内容について参考文献等で再度自身の理解を確認 (3h)

	<p>(第5回) 演習</p> <p>マーケティングの基礎その3：競争戦略などの理論と実務</p> <p>マーケティングの基礎その4：意思決定につながる理論と実務</p>		
第4講	<p>(第6回) 講義</p> <p>マーケティングの応用その1：教育機関、教育事業における基礎理論の適用</p> <p>マーケティングの応用その2：教育機関、教育事業における具体的なマーケティング施策（事例紹介：ゲスト講師も検討）</p> <p>(第7回) 演習</p> <p>マーケティングの応用その1：教育機関、教育事業における基礎理論の適用</p> <p>マーケティングの応用その2：教育機関、教育事業における具体的なマーケティング施策（事例紹介：ゲスト講師も検討）</p>	事前	次回授業で触れられるテーマについて参考文献等で事前学習（3h）
		事後	授業内で理解しきれなかった内容について参考文献等で再度自身の理解を確認（2h） 中間レポートの作成（8h）
第5講	<p>(第8回) 講義</p> <p>広報・ブランディングの基礎その1：広報・ブランディングの考え方</p> <p>広報・ブランディングの基礎その2：エクステルナル広報の理論と実務</p> <p>(第9回) 演習</p> <p>広報・ブランディングの基礎その1：広報・ブランディングの考え方</p> <p>広報・ブランディングの基礎その2：エクステルナル広報の理論と実務</p>	事前	次回授業で触れられるテーマについて参考文献等で事前学習（3h）
		事後	授業内で理解しきれなかった内容について参考文献等で再度自身の理解を確認（2h）
第6講	<p>(第10回) 講義</p> <p>広報・ブランディングの基礎その3：インターナル広報の理論と実務</p> <p>広報・ブランディングの基礎その4：ブランディングの理論と実務</p> <p>(第11回) 演習</p> <p>広報・ブランディングの基礎その3：インターナル広報の理論と実務</p> <p>広報・ブランディングの基礎その4：ブランディングの理論と実務</p>	事前	次回授業で触れられるテーマについて参考文献等で事前学習（3h）
		事後	授業内で理解しきれなかった内容について参考文献等で再度自身の理解を確認（2h）
第7講	<p>(第12回) 講義</p> <p>広報・ブランディングの応用その1：教育機関、</p>	事前	次回授業で触れられるテーマについて参考文献等で事前学習（3h）
		事後	授業内で理解しきれなかった内容

	<p>教育事業における基礎理論の適用</p> <p>広報・ブランディングの応用その2：教育機関、教育事業における具体的な広報・ブランディング施策（事例紹介：ゲスト講師も検討）</p> <p>（第13回）演習</p> <p>広報・ブランディングの応用その1：教育機関、教育事業における基礎理論の適用</p> <p>広報・ブランディングの応用その2：教育機関、教育事業における具体的な広報・ブランディング施策（事例紹介：ゲスト講師も検討）</p>		<p>について参考文献等で再度自身の理解を確認（2h）</p>
第8講	<p>（第14回）講義</p> <p>まとめその1：マーケティングと広報・ブランディングの関係</p> <p>まとめその2：受講生の施策・企画案の発表と全体の振り返り</p> <p>（第15回）演習</p> <p>まとめその1：マーケティングと広報・ブランディングの関係</p> <p>まとめその2：受講生の施策・企画案の発表と全体の振り返り</p>	事前	<p>次回授業で触れられるテーマについて参考文献等で事前学習（3h）</p>
		事後	<p>授業内で理解しきれなかった内容について参考文献等で再度自身の理解を確認（2h）</p> <p>最終レポートの作成（9h）</p>
定期試験	<p>試験ではなく、中間時および終了時をメドにレポート提出を求める。内容は、適宜指示するが、既存の所属教育機関、教育事業あるいは新規の仮想教育機関、教育事業におけるマーケティング、広報ブランディング施策の企画書に当たるものの提出を求める。</p>		
使用テキスト	<p>テキストは使用せず必要な資料をLMSにて作成・配布する。</p>		
参考文献	<p>フィリップ・コトラー、K.L.ケラー、A.チェルネフ（2022）『マーケティングマネジメント』丸善出版</p> <p>谷ノ内識(2021)『大学広報を知りたくなったら読む本』大学教育出版</p> <p>柴山慎一（2011）『コーポレートコミュニケーション経営』東洋経済新報社</p> <p>清水正道、柴山慎一ほか（2019）『インターナル・コミュニケーション経営』経団連出版</p>		
受講生に対する評価	<p>授業の進め方は、講義とディスカッションを中心とする。授業中の参加姿勢や授業への貢献、ディスカッションへの関与などの平常点と適宜（中間時と最終時）求めるレポートの内容をもとに評価する。</p> <p>各回に作成を求める「小レポート」（40%）と学期末レポート</p>		

	(60%) を総合的に評価する。
授業・課題等に対する フィードバック	「小レポート」の内容について次回の授業時にコメントする。必要に応じて授業時に受講生による討論を行う。
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	社会人院生が中心になることから受講生の余裕のある時間帯を確保する。主に平日夜間と土曜日など(要予約)。
受講生へのメッセージ*任意項目	<p>教育機関の経営ならびに教育事業の成長のためには、様々なステークホルダーとの間に的確なコミュニケーションが成立していることが大前提です。良い教育コンテンツや教育環境だけでは良い教育は提供できません。いかにして供給側の自己満足に終わらない需要側の期待に応える教育を提供できるか、主にコミュニケーション周辺の理論をもとに学んでいきましょう。</p> <p>LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める</p>
備考 *任意項目	演習などでは、小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用して「アクティブラーニング」「ワークショップ」などを行う。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育機関と経営戦略論

講義名	教育機関と経営戦略論
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	根岸正州・木岡一明

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	学校や人材養成機関などの教育機関の経営に関心を持っていること
授業の概要	企業経営の分野で蓄積された経営学の知見を、教育機関の経営に応用できるようにするために、講義とともに、ケーススタディ等の演習を行いながら、理解を深めていく。
授業のテーマ及び到達目標	経営戦略論の基本を習得し、教育機関の経営に応用できる深い理解を身につける。
授業計画（授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります）	授業外の学習（60時間）

第1講	<p>(第1回) 講義 教育機関の経営危機と機会創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育機関の経営状態を俯瞰する。</li> <li>・一方で、教育を広く見渡し教育機関の経営にどのような新たな機会をもたらすことができるか、検討する。</li> </ul>	事前	自身が所属もしくは関係する教育機関の経営状態について把握する(3h)
		事後	レポートの作成(1h)
第2講	<p>(第2回) 講義 教育機関におけるリーダーシップ論</p> <p>(第3回) 演習 教育機関におけるリーダーシップ論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の置かれている現状を踏まえ下記を検討し、議論する。</li> <li>・自身に期待されるリーダーシップとは、どのようなものか?</li> <li>・自身の特性は、どのように活かせるか?</li> <li>・どのような行動を改め、どのような行動を始めることが有益だろうか?</li> </ul>	事前	今後必要とされるリーダーシップにと、自身が発揮すべきリーダーシップについて、自身の考えが述べられるようにまとめておくこと。(4h)
		事後	自身の所属もしくは関係する教育機関において今後必要となるリーダーシップをその根拠とともにレポートにまとめる。(4h)
第3講	<p>(第4回) 講義 世界を見据えた教育機関の経営</p> <p>(第5回) 演習 世界を見据えた教育機関の経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド、アウトバウンドの双方において、学校経営にどのような機会を見出すか検討する。</li> <li>・一方で、リスクや脅威についても検討する。</li> </ul>	事前	日本発で海外で展開する教育機関、海外で注目され日本にはない教育機関、日本に進出する教育機関について、自身の関心分野を中心に調べておく。(4h)
		事後	自身が所属または関係する教育機関で、具体的にどのようなグローバルな事業ができるか検討し、レポートにまとめる。(4h)
第4講	<p>(第6回) 講義 デジタル時代の知識創造と教育機関のナレッジマネジメント</p> <p>(第7回) 演習 デジタル時代の知識創造と教育機関のナレッジマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識創造理論の深い理解をする。</li> <li>・知識創造経営を教育機関で実践するナレッジマネジメントについて討議をしながら学ぶ。</li> </ul>	事前	自身の所属または関係する教育機関のナレッジマネジメントの現状について調べておく。(4h)
		事後	自身の所属または関係する教育機関のナレッジマネジメントの現状を提示した上で、今後どのように変革していくべきかレポートにまとめる。(4h)
第5講	<p>(第8回) 講義 教育機関における新事業創出・第二創業・第三創業</p> <p>(第9回) 演習</p>	事前	自身の所属または関係する教育機関において、これまでの歴史を振り返りどのような新事業創出があったか、紹介できるようにまとめておく。(4h)
		事後	今後、自身の所属または関係する教育機関において、どのような新

	教育機関における新事業創出・第二創業・第三創業 ・自身が所属もしくは関係する教育機関においてどのような新事業創出・第二創業・第三創業ができるか検討し発表・討議する。		事業創出が必要なのか、その基本的なアイデアをレポートにまとめる。(4 h)
第6講	(第10回) 講義 教育機関の意思決定 (第11回) 演習 教育機関の意思決定 ・外部環境(国内外における社会情勢や国内政策、国際機関の動向、新たな科学的知見等)と内部環境(組織マネジメント)の両側面から、教育機関の意思決定について議論する。	事前	自身の所属または関係する教育機関において、どのような意思決定がなされているのか、調査しておく。(4 h)
		事後	自身の所属または関係する教育機関における、意思決定の改善提案をレポートにまとめる。(4 h)
第7講	(第12回) 講義 教育機関のコンプライアンスと危機管理 (第13回) 演習 教育機関のコンプライアンスと危機管理 ・具体的なケースを想定し、自身が教育機関の経営者であればどのような対応をとるか、議論する。	事前	国内外における教育機関の危機管理の失敗事例について参照し、関係資料を読み、自身の意見をまとめておく。(4 h)
		事後	演習で扱ったケースについて、自身であればどのように危機管理をするか検討し、レポートにまとめる。(4 h)
第8講	(第14回) 演習 教育における事業モデル研究① ・受講生が発見した新たな教育事業をこれまでに得た知識を使って多角的に分析を加え、その特徴を発表する。 (第15回) 演習 教育における事業モデル研究② ・受講生が発見した新たな教育事業をこれまでに得た知識を使って多角的に分析を加え、その特徴を発表する。	事前	最終プレゼンテーションの発表資料を作成する。(4 h)
		事後	・発表した全学生に対して、コメントをフィードバックする。(2 h) ・他者の発表に対し、自身が応用、活用できることをレポートにまとめる。(2 h)
定期試験	毎回のレポート提出。		
使用テキスト	なし。		
参考文献	授業中に紹介する。		
受講生に対する評価	授業への参加(議論への積極的な参加:30%)と最終プレゼンの内容(35%)、毎回のレポート(35%)に基づいて評価する。		

授業・課題等に対する フィードバック	授業の中で行う。
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	個別にアポイントを取ること。
受講生へのメッセージ*任意項目	
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育マネジメント論

講義名	教育マネジメント論
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1年後期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	木岡一明、妹尾昌俊、合田隆史

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

<b>履 修 条 件</b>	学校教育の現状に問題意識があり、よりよくしたいと考えていること（学校管理職に限らない）。		
<b>授業の概要</b>	学校経営（幼保、小中高、特別支援学校を含む）、組織マネジメントの現状と課題、解決に向けた方策について学ぶ。		
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	テーマ：授業概要を参照。 到達目標：今日的な教育問題について問題発見や課題分析ができるようになり、さまざまな理論や先行研究の成果を応用、活用できるようになる。		
<b>授業計画</b> （授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある）		<b>授業外の学習</b> （60時間）	
第1講	（第1回）講義・演習 イントロダクション：教育問題はなぜまちがって語られるのか ・今日的な教育問題について、その背景・原因、	事前	自身の問題関心事について直近の状況を調べ、考える（2h）
		事後	参考文献を参照しつつ、授業の感想をまとめる（2h）

	<p>対策としてどのような議論があるか概観する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育論の語られ方や分析の問題やバイアスについて考察する（オンラインでのワークショップ、討議）。</li> </ul>		
第2講	<p>（第2回）講義 学校組織マネジメント論の展開（背景、到達点、課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2000年代に学校組織マネジメントが必要とされた背景、マネジメント研修など取組の概要と成果について学ぶ。</li> <li>・学校組織の特性、経営資源など、学校マネジメントの実情と課題について考察する。</li> <li>・組織学習の理論と実践の観点から、学校組織の実情と課題について考察する。</li> </ul> <p>（第3回）演習 学校組織マネジメント論の展開（背景、到達点、課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2000年代に学校組織マネジメントが必要とされた背景、マネジメント研修など取組の概要と成果について学ぶ（討議）。</li> <li>・学校組織の特性、経営資源など、学校マネジメントの実情と課題について考察する（実例をもとにしたケーススタディ、討議）。</li> <li>・組織学習の理論と実践の観点から、学校組織の実情と課題について考察する（組織学習を診断する方法等に関するワークショップ、討議）。</li> </ul>	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく(4h)
		事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)
第3講	<p>（第4回）講義 学力向上と学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校無力論、効果のある学校論など主要な先行研究について学ぶ。</li> <li>・学校評価システムの理念と実際について学ぶ。</li> </ul> <p>（第5回）演習 学力向上と学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校無力論、効果のある学校論など主要な先行研究について学ぶ（討議）。</li> <li>・学校評価システムの理念と実際について学ぶ（実例をもとにしたケーススタディ、討議）。</li> </ul>	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく(4h)
		事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)
第4講	<p>（第6回）講義 ビジョン、カリキュラム・マネジメント、DX</p>	事前	行政計画や学校ビジョンの実例について探し、疑問点や改善点についてリストアップする。(4h)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国・自治体の教育振興基本計画等や各学校のビジョン、グランドデザインの実例をもとに、よさと問題点について考察する（グループワーク等）。</li> <li>・ビジョンを具体化するカリキュラムの編成と運用について、主要な理論と実際について学ぶ。</li> <li>・校務 DX をはじめ ICT の活用に関する課題と今後の方向性について学ぶ。</li> </ul> <p>（第7回）演習 ビジョン、カリキュラム・マネジメント、DX</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国・自治体の教育振興基本計画等や各学校のビジョン、グランドデザインの実例をもとに、よさと問題点について考察する（グループワーク等）。</li> <li>・ビジョンを具体化するカリキュラムの編成と運用について、主要な理論と実際について学ぶ（オンラインでのワークショップ形式によるカリキュラムの骨格づくり）。</li> <li>・校務 DX をはじめ ICT の活用に関する課題と今後の方向性について学ぶ（実例をもとにしたケーススタディ、討議）。</li> </ul>	事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)
第5講	<p>（第8回）講義 リーダーシップとチーム学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の組織論的特性及び学校組織のリーダーシップをめぐる主要な理論を概観した上で、その活用と限界について考察する。</li> <li>・チーム学校論の背景と現状について学ぶ。</li> </ul> <p>（第9回）演習 リーダーシップとチーム学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の組織論的特性及び学校組織のリーダーシップをめぐる主要な理論を概観した上で、その活用と限界について考察する（討議）。</li> <li>・チーム学校論の背景と現状について学ぶ（実例をもとにしたケーススタディ、討議）。</li> </ul>	事前  事後	<p>参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく(4h)</p> <p>授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)</p>
第6講	<p>（第10回）講義 教育財務マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公立、私立学校、行政における財務管理の概要（制度、仕組み）と今日的な課題について学ぶ。</li> </ul> <p>（第11回）演習</p>	事前  事後	<p>参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく(4h)</p> <p>授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)</p>

	<p>教育財務マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公立、私立学校、行政における財務管理の概要（制度、仕組み）と今日的な課題について学ぶ（討議）。</li> </ul>		
第7講	<p>（第12回）講義 保護者・地域との連携・協働と危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた学校づくりの現状や功罪について考察する。</li> <li>・学校安全、危機管理の実態を把握し、必要な対策について考察する。</li> </ul> <p>（第13回）演習 保護者・地域との連携・協働と危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた学校づくりの現状や功罪について考察する（学校運営協議会の模擬開催）。</li> <li>・学校安全、危機管理の実態を把握し、必要な対策について考察する（討議）。</li> </ul>	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく(4h)
		事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)
第8講	<p>（第14回）講義 教育マネジメントの今日的課題の診断と処方箋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の関心の高いテーマについて、これまでの授業等で学んだことを活用しながら、問題の背景や処方箋について考察する。</li> <li>・ICTをはじめとするテクノロジーで解決しやすいことと、難しいことの両方について扱う予定。</li> <li>・受講生は各自7分程度のプレゼンにまとめ発表する。その後、ディスカッションする。</li> </ul> <p>（第15回）演習 教育マネジメントの今日的課題の診断と処方箋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の関心の高いテーマについて、これまでの授業等で学んだことを活用しながら、問題の背景や処方箋について考察する。</li> <li>・ICTをはじめとするテクノロジーで解決しやすいことと、難しいことの両方について扱う予定。</li> <li>・受講生は各自7分程度のプレゼンにまとめ発表する。その後、ディスカッションする。</li> </ul>	事前	自分の探究したい、深掘りしたい教育問題について考察し、プレゼンテーションの準備をする(4h)
		事後	ディスカッションや他の受講生の発表を参考にしつつ、プレゼンテーション資料をブラッシュアップする。(4h)
定期試験	実施しない。		
使用テキスト	特になし。		
参考文献	勝野正章・村上祐介（2020）『新訂 教育行政と学校経営』NHK出版		

	<p>浜田博文編著（2019）『学校経営』ミネルヴァ書房</p> <p>広田照幸・伊藤茂樹（2010）『教育問題はなぜまちがって語られるのか？』日本図書センター</p> <p>妹尾昌俊（2019）『思いのない学校、思いだけの学校、思いを実現する学校』学事出版（ほか授業中に案内する）</p>
受講生に対する評価	<p>授業でのディスカッション等への貢献／小レポート 30%</p> <p>振り返りシートの記入（内容の妥当性、独自性等）30%</p> <p>最終回後のプレゼンテーション資料（内容の妥当性、独自性等）40%</p>
授業・課題等に対するフィードバック	<p>振り返りシートに寄せられた疑問点などは次回等の授業中に補足する。</p> <p>最終回後のプレゼンテーション資料についてのコメントは、事後にフィードバックの機会を設ける予定（ウェブ会議等）。</p>
オフィスアワー（オンライン曜日・時間）	<p>木岡：毎週水曜日・18：00～20：00 希望する人は事前予約してください。</p> <p>妹尾：事前にメール等で予約してください。</p>
受講生へのメッセージ*任意項目	<p>上記のとおり、幅広いテーマ、教育問題について扱う予定であるが、関連の深い教育制度やその歴史的経緯については「教育政策論」で、働き方改革や人的資源管理については「教育人材マネジメント論」にて詳しく扱う予定なので、関心ある方はそちらの受講も勧める。</p> <p>LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める</p>
備考*任意項目	<p>小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。</p>
授業用 URL*任意項目	
授業用 E-Mail*任意項目	

## 教育人材マネジメント論

講義名	教育人材マネジメント論
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	妹尾昌俊

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

<b>履 修 条 件</b>	教員やスタッフ職（行政職員、学校法人職員等）のウェルビーイングの現状に問題意識があり、よりよくしたいと考えていること（学校管理職に限らない）。		
<b>授業の概要</b>	経営資源の中でも「人」に焦点をあてながら、学校や行政組織、学校法人等で働く人々のウェルビーイングとパフォーマンスが高まるために、どのようなことが必要なのかについて議論する。		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	テーマ：授業概要を参照。 到達目標：教育人材に関わる、今日的な問題について問題発見や課題分析ができるようになり、さまざまな理論や先行研究の成果を応用、活用できるようになる。		
<b>授業計画</b> （授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある）		<b>授業外の学習</b> （60時間）	
第1講	（第1回）講義	事前	自身の問題関心事について直近の状況を調べ、考える（2h）

	<p>教育における人材マネジメントの重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校教員の1日、1週間の勤務実態等をもとに人材マネジメント上の課題について考察する（グループワーク等）。</li> <li>・教員をめぐるさまざまな問題（働き方、教員不足、資質・能力の向上、離職など）をもとに、人材マネジメントの必要性について学ぶ。</li> </ul>	事後	<p>授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる（2h）</p>
第2講	<p>（第2回）講義 人生百年時代の人材像、キャリアと採用戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人生百年、あるいは75歳現役社会における教員やスタッフ職のあり方について考察する。</li> <li>・これまでの中教審答申などを素材に、求められる教師像や教育ビジョンの変遷、現状をレビューするとともに、課題や問題点を分析する（グループワーク等）。</li> <li>・教職員の養成ならびに採用の現状と課題について考察する。</li> </ul> <p>（第3回）演習 人生百年時代の人材像、キャリアと採用戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人生百年、あるいは75歳現役社会における教員やスタッフ職のあり方について考察する。</li> <li>・これまでの中教審答申などを素材に、求められる教師像や教育ビジョンの変遷、現状をレビューするとともに、課題や問題点を分析する（グループワーク等）。</li> <li>・教職員の養成ならびに採用の現状と課題について考察する。</li> </ul>	事前	<p>参考文献、資料等を参照し、求められる教師像の特徴や課題について考える（4h）</p>
		事後	<p>授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる（4h）</p>
第3講	<p>（第4回）講義 モチベーション・マネジメントとリーダーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モチベーションやワーク・エンゲージメントに関する主要な先行研究を学び、それを踏まえながら、今日の学校組織の課題を考察する。</li> <li>・校長等のリーダーシップの功罪について考察する（グループワーク等）。</li> </ul> <p>（第5回）演習 モチベーション・マネジメントとリーダーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モチベーションやワーク・エンゲージメントに関する主要な先行研究を学び、それを踏まえながら、今日の学校組織の課題を考察する。</li> </ul>	事前	<p>参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく（4h）</p>
		事後	<p>授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる（4h）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長等のリーダーシップの功罪について考察する（グループワーク等）。</li> </ul>		
第4講	<p>(第6回) 講義 国際比較等から見た日本の教員の職務特性、研修・人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OECD 調査等を素材に、日本の教員の仕事上の特性や研修（職能開発）の実情、課題について考察する。</li> <li>・OJT やフィードバックについて企業等の先行例からのヒントを考察する。</li> </ul> <p>(第7回) 演習 国際比較等から見た日本の教員の職務特性、研修・人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OECD 調査等を素材に、日本の教員の仕事上の特性や研修（職能開発）の実情、課題について考察する。</li> <li>・OJT やフィードバックについて企業等の先行例からのヒントを考察する。</li> </ul>	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく（4h）
		事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる（4h）
第5講	<p>(第8回) 講義 人事評価システムと処遇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事評価の制度の概要と課題について学び、今後のあり方を考える。</li> <li>・賃金制度をはじめとする教職員の処遇の概要と課題について学ぶ。</li> </ul> <p>(第9回) 演習 人事評価システムと処遇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事評価の制度の概要と課題について学び、今後のあり方を考える。</li> <li>・賃金制度をはじめとする教職員の処遇の概要と課題について学ぶ。</li> </ul>	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく（4h）
		事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる（4h）
第6講	<p>(第10回) 講義 多様性のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織運営において、人材の多様性を高める重要性について学ぶ。</li> <li>・子どもの貧困や教育格差の問題と学校教育の役割・機能についても考察する。</li> <li>・人材の多様性を高めることと、質を高めることの両立を図るための視点、課題について、「チーム学校」など最近の政策動向に注目しつつ考察す</li> </ul>	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく（4h）
		事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる（4h）

	<p>る。</p> <p>(第11回) 演習 多様性のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織運営において、人材の多様性を高める重要性について学ぶ。</li> <li>・子どもの貧困や教育格差の問題と学校教育の役割・機能についても考察する。</li> <li>・人材の多様性を高めることと、質を高めることの両立を図るための視点、課題について、「チーム学校」など最近の政策動向に注目しつつ考察する。</li> </ul>		
第7講	<p>(第12回) 講義 働き方改革と労働安全衛生、リテンション（離職防止）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児や介護等があっても働き続けやすい職場にしていくために、学校や行政等における働き方改革、労働安全衛生について学ぶ。</li> <li>・調査結果や先行事例などから実態と解決に向けた方向性について考察する（グループワーク等）</li> </ul> <p>(第13回) 演習 働き方改革と労働安全衛生、リテンション（離職防止）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児や介護等があっても働き続けやすい職場にしていくために、学校や行政等における働き方改革、労働安全衛生について学ぶ。</li> <li>・調査結果や先行事例などから実態と解決に向けた方向性について考察する（グループワーク等）</li> </ul>	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく（4h）
		事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる（4h）
第8講	<p>(第14回) 講義 ウェルビーイングを高める学校づくり、組織開発、チームワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「同僚性」「プロフェッショナル・ラーニング・コミュニティ」など、学校組織のチームワーキングを高める観点から、先行研究を概観したうえで、今日的な課題について考察する（グループワーク等）。</li> <li>・授業全体を振り返り、まとめる。</li> </ul> <p>(第15回) 演習 ウェルビーイングを高める学校づくり、組織開</p>	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく（4h）
		事後	授業全体を振り返ったうえで、レポートにまとめる（4h）

	<p>発、チームワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「同僚性」「プロフェッショナル・ラーニング・コミュニティ」など、学校組織のチームワーキングを高める観点から、先行研究を概観したうえで、今日的な課題について考察する（グループワーク等）。</li> <li>・授業全体を振り返り、まとめる。</li> </ul>		
定期試験	実施しない		
使用テキスト	特になし		
参考文献	<p>授業中に案内するが、下記の文献も参照。</p> <p>原田順子・平野光俊（2022）『人的資源管理』放送大学教育振興会</p> <p>川上泰彦（2013）『公立学校の教員人事システム』学術出版会</p> <p>妹尾昌俊（2020）『教師崩壊』PHP 研究所</p> <p>妹尾昌俊（2018）『先生がつぶれる学校、先生がいきる学校』学事出版</p>		
受講生に対する評価	<p>授業でのディスカッション等への貢献／討議内容レポート 30%</p> <p>振り返りシートの記入（内容の妥当性、独自性等）30%</p> <p>最終回後のレポート（内容の妥当性、独自性等）40%</p>		
授業・課題等に対する フィードバック	<p>振り返りシートに寄せられた疑問点などは次回等の授業中に補足する。</p> <p>最終回後のレポートについてはコメントを付けてフィードバックする。</p>		
オフィスアワー （オンライン曜日・時間）	特定の時間は定めません。事前にメール等で予約してください。		
受講生へのメッセージ*任意項目	<p>紹介するデータや先行研究の多くは公立学校の教員についてのものが中心となりますが、教員ではない方や私立学校関係者にとっても参考になる講座にしたいと思っています。</p> <p>LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める</p>		
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。		
授業用 URL *任意項目			
授業用 E-Mail *任意項目			

## 教育ファイナンス論

講義名	教育ファイナンス論
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	1年後期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	植草 茂樹・合田 隆史

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	<p>教育機関に関わる様々な政策について財政の視点から考察を行うほか、財務会計の知識をもとに、公立・私立学校のそれぞれの会計構造の特徴を踏まえ、諸外国との比較分析なども行う。実際の教育機関の財務諸表等をもとに、財政上の課題を抽出し、課題解決の方法を演習する。</p> <p>また、学校法人において中長期計画の策定が求められている中、管理会計の視点をもとにインプット・アウトプット・アウトカムなどの指標との関連性を演習する。</p> <p>また外部資金や補助金・寄付金の獲得のため、必要となる情報・プロセスなどを考察し、実際の演習を行う。</p>

<b>授業のテーマ及び到達目標</b>		教育機関・教育テックにまつわるファイナンスについての予算・財務会計・管理会計面の基礎的な情報から、中長期計画の策定、外部資金や補助金の獲得、寄付マーケティングなど、様々な事例をもとに体系的に学ぶとともに受講生同士のディスカッションを行う。また、受講生自身に関係する教育機関における財務上の課題を整理し、その解決策について受講生自身で検討するとともに、受講生同士でディスカッションを行う。	
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) 講義 植草 オリエンテーション 本授業のオリエンテーションを行う。	事前	資料集め (2h)
		事後	学習内容予習 (2h)
第2講	(第2回) 講義 植草・合田 教育機関の財政・予算構造 教育機関の財政の構造を理解し、受講生でディスカッションを行う。 (第3回) 演習 植草・合田 教育機関の財政・予算構造 教育機関の財政の構造を理解し、受講生でディスカッションを行う。	事前	自身の関心のあるファイナンスのテーマを抽出する (4h)
		事後	講義・演習内容復習 (4h)
第3講	(第4回) 講義 植草 教育機関の会計制度の概要 教育機関の会計制度の構造を理解し、財務諸表をもとに分析を行う演習を行う。 (第5回) 演習 植草 教育機関の会計制度の概要 教育機関の会計制度の構造を理解し、財務諸表をもとに分析を行う演習を行う。	事前	講義・演習内容予習 (4h)
		事後	講義・演習内容復習 (4h)
第4講	(第6回) 講義 植草 教育機関等に対するファンディング 教育テックや教育機関等への政府・自治体等のファンディングを理解し、受講生でディスカッションを行う。 (第7回) 演習 植草 教育機関等に対するファンディング 教育テックや教育機関等への政府・自治体等のファンディングを理解し、受講生でディスカッションを行う。	事前	講義・演習内容予習 (4h)
		事後	講義・演習内容復習 (4h)
第5講	(第8回) 講義 植草 教育機関に対する寄付マーケティング	事前	講義・演習内容予習 (4h)
		事後	講義・演習内容復習 (4h)

	<p>教育テックなども活用した教育機関等の寄付募集について、事例をもとに分析し、受講生でディスカッションを行う。</p> <p>(第9回) 演習 植草</p> <p>教育機関に対する寄付マーケティング</p> <p>教育テックなども活用した教育機関等の寄付募集について、事例をもとに分析し、受講生でディスカッションを行う。</p>		
第6講	<p>(第10回) 講義 植草・合田</p> <p>教育機関の財務上の課題分析①</p> <p>受講生の関心ある教育機関について、財務上の課題を整理し、受講生同士でディスカッションを行う。</p> <p>(第11回) 演習 植草・合田</p> <p>教育機関の財務上の課題分析①</p> <p>受講生の関心ある教育機関について、財務上の課題を整理し、受講生同士でディスカッションを行う。</p>	事前	講義用に自身の関わる教育機関での課題を考える (4h)
		事後	受講生のテーマとする財務上の課題整理 (4h)
第7講	<p>(第12回) 講義 植草・合田</p> <p>教育機関の財務上の課題分析②</p> <p>前回整理した財務上の課題についての解決策を検討し、受講生同士でディスカッションを行う</p> <p>(第13回) 演習 植草・合田</p> <p>教育機関の財務上の課題分析②</p> <p>前回整理した財務上の課題についての解決策を検討し、受講生同士でディスカッションを行う</p>	事前	講義用に教育機関の課題解決策を考える (4h)
		事後	財務上の課題解決策の整理 (4h)
第8講	<p>(第14回) 講義 植草</p> <p>教育機関の財務上の最新トピック・方向性</p> <p>今後、起こる教育機関の M&amp;A や連携法人、子会社設立など、様々な財務上の最新情報を共有し、受講生による財務上の課題解決策の発表を行う。</p> <p>(第15回) 演習 植草</p> <p>教育機関の財務上の最新トピック・方向性</p> <p>今後、起こる教育機関の M&amp;A や連携法人、子会社設立など、様々な財務上の最新情報を共有し、受講生による財務上の課題解決策の発表を行う。</p>	事前	講義用の発表資料の作成 (4h)
		事後	講義全体のレポート (4h)
定期試験	レポート		
使用テキスト	講師が講義用に用意するテキスト		

参考文献	授業時に適時紹介する。
受講生に対する評価	通常の授業の参加意欲、レポートによる 各回に作成を求める「小レポート」と学期末レポートを総合的に評価する。 小レポート 40% 学期末レポート 60%
授業・課題等に対する フィードバック	講義中のディスカッション時でのフィードバック レポート作成時や提出後のフィードバック 「小レポート」の内容について次回の授業時にコメントする。必要に応じ授業時に受講生による討論を行う。
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	随時メールでの問い合わせ または随時アポイントによる面談形式
受講生へのメッセージ*任意項目	今後の教育機関の経営を考える際に、ファイナンスや CFO (チーフ・ファイナンシャル・オフィサー) などの知識が不可欠です。一緒に教育テック・教育機関の経営・財務を考えていきましょう。  LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育経済学

講義名	教育経済学
単位数	2
単位区分（必修・選択・自由）	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分（講義・演習・実習）	講義・演習
担当教員名	北條雅一

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	

<b>履 修 条 件</b>	学部入門レベルのミクロ経済学と最低限の経済数学の準備があることが望ましいが必須ではない。	
<b>授業の概要</b>	教育経済学とは、経済学で用いられる概念や理論を教育という営みに応用して、教育現場における課題の解決や教育の質の向上、教育政策の有効性などを理論的・実証的に研究する学問である。実証的な研究では、計量経済学の手法を用いた厳密な統計分析が重視される。 下記の2冊の教科書に沿って、教育経済学の主要課題を概観しつつ、経済学的な観点から教育政策の効果検証について学ぶ。	
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	教育経済学の理論と分析手法を理解し、教育課程や教育経営に反映させられるようになること	
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)	<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) 講義	事前 シラバス・教材予習 (2h)
	イントロダクション	事後 学習内容の復習・確認 (2h)

	講義概要の説明，授業の目的・達成目標・成績評価方法等の確認		
第2講	(第2回) 講義 経済学における教育の位置づけ 経済学において教育が研究対象となった経緯を学び，教育経済学のスタンスを確認する。 (第3回) 演習 経済学における教育の位置づけ 隣接する他分野や，受講生が学んできた学問分野との違いに関する議論を通して，教育経済学の特徴を明確化する。	事前	教材予習 (4h)
		事後	学習内容の復習・確認 (4h)
第3講	(第4回) 講義 人的資本論 教育経済学の代表的な理論である人的資本論および関連する経済理論について解説する。 (第5回) 演習 人的資本論 人的資本論の考え方や妥当性について，多様な観点から議論する。	事前	教材予習 (4h)
		事後	学習内容の復習・確認 (4h)
第4講	(第6回) 講義 教育費負担 教育費の負担について，教育経済学および関連する分野の考え方を整理する。 (第7回) 演習 日本における教育費負担構造の現状と課題について議論する。	事前	教材予習 (4h)
		事後	学習内容の復習・確認 (4h)
第5講	(第8回) 講義 少人数学級 (1-1) 少人数学級について，教育経済学および他分野における先行研究の知見を概観する。 (第9回) 演習 少人数学級 (1-2) 少人数学級についての幅広い議論を通して，期待される効果や課題等，受講者の認識を明確にする。	事前	教材予習 (4h)
		事後	学習内容の復習・確認 (4h)
第6講	(第10回) 講義 少人数学級 (2-1) 日本における学級規模の位置づけ，近年の少人数学級政策について解説する。	事前	教材予習 (4h)
		事後	学習内容の復習・確認 (4h)

	(第11回) 演習 少人数学級 (2-2) 小学校 35 人学級化の効果について、幅広い視点から議論する。		
第7講	(第12回) 講義 教員採用と教員不足 教員採用試験や教員不足について、日本の現状と課題を解説する。 (第13回) 演習 教員採用と教員不足 教員採用試験や教員不足について、今後の課題や問題解決に向けた議論をおこなう。	事前	教材予習 (4h)
		事後	学習内容の復習・確認 (4h)
第8講	(第14回) 講義 幼児教育 経済学における幼児教育の効果検証について解説する。 (第15回) 演習 幼児教育 幼児教育の重要性および期待される効果について議論する。	事前	教材予習 (4h)
		事後	学習内容の復習・確認 (4h)
定期試験	なし		
使用テキスト	北條雅一『少人数学級の経済学』慶應義塾大学出版会, 2023 年 松塚ゆかり『概説教育経済学』日本評論社, 2022 年		
参考文献	小塩隆士『教育の経済分析』日本評論社, 2002 年 濱中淳子『検証・学歴の効用』勁草書房, 2013 年 中西啓喜『教育政策をめぐるエビデンス』勁草書房, 2023 年 中室牧子『「学力」の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2015 年 松岡亮二『教育格差』ちくま新書, 2019 年 ジェームズ・ヘックマン『幼児教育の経済学』東洋経済新報社, 2015 年		
受講生に対する評価	最終授業後に提出するタームペーパーにより評価する。(100%)		
授業・課題等に対する フィードバック	必要に応じて適宜実施する。		
オフィスアワー (オンライン曜日・	必要に応じて、予約メールを受け付け、オンラインで行う。		

時間)	
受講生へのメッセージ*任意項目	教科書の該当部分を予習し授業内容と併せて復習すること LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
備考 *任意項目	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育構想演習（Ⅰ）

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	竹村治雄

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。</p>
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○論理的な文章を書くことができる</li> <li>○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる</li> <li>○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる</li> </ul>

	○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。	
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります)		<b>授業外の学習</b> (60時間)
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。	事前 シラバス内容閲覧
		事後 コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習) 論理的・客観的な文章レポートの書き方	事前 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後 コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 文献調査の技法1 (演習) (第5回) 文献調査の技法2 (演習) 国内論文の探し方	事前 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後 コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 学術プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 学術プレゼンテーション発表1 (演習) 国内サーベイ論文の内容報告	事前 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後 コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回) 文献調査の技法3 (演習) (第9回) 文献調査の技法4 (演習) 海外論文の探し方	事前 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後 コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第10回) 学術プレゼンテーション作成2 (演習) (第11回) 学術プレゼンテーション発表2 (演習) 海外サーベイ論文の内容報告	事前 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後 コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) アカデミックライティング基礎1 (演習) (第13回) アカデミックライティング基礎2 (演習) 学術論文の書き方の基礎指導	事前 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後 コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) 研究倫理基礎 (講義) (第15回) 研究倫理基礎 (演習) 実験・調査の倫理的配慮を知る	事前 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後 コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
<b>定期試験</b>	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。	
<b>使用テキスト</b>	必要な教材はLMSから配布する。	

参考文献	必要な参考情報へのリンクは LMS 上で提示する。
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議およびコメントペーパー (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	秋田 次郎

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。</p>
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○論理的な文章を書くことができる</li> <li>○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる</li> <li>○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる</li> <li>○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。</li> </ul>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習) 論理的・客観的な文章レポートの書き方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 文献調査の技法1 (演習) (第5回) 文献調査の技法2 (演習) 国内論文の探し方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 学術プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 学術プレゼンテーション発表1 (演習) 国内サーベイ論文の内容報告	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回) 文献調査の技法3 (演習) (第9回) 文献調査の技法4 (演習) 海外論文の探し方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第10回) 学術プレゼンテーション作成2 (演習) (第11回) 学術プレゼンテーション発表2 (演習) 海外サーベイ論文の内容報告	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) アカデミックライティング基礎1 (演習) (第13回) アカデミックライティング基礎2 (演習) 学術論文の書き方の基礎指導	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) 研究倫理基礎 (講義) (第15回) 研究倫理基礎 (演習) 実験・調査の倫理的配慮を知る	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途、指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議およびコメントペーパー (25%)</li> </ul>		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。  そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</li> </ul>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセー ジ*任意項目</b>	
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	河崎 雷太

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。 ○論理的な文章を書くことができる ○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる ○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる ○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習) 論理的・客観的な文章レポートの書き方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 文献調査の技法1 (演習) (第5回) 文献調査の技法2 (演習) 国内論文の探し方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 学術プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 学術プレゼンテーション発表1 (演習) 国内サーベイ論文の内容報告	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回) 文献調査の技法3 (演習) (第9回) 文献調査の技法4 (演習) 海外論文の探し方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第10回) 学術プレゼンテーション作成2 (演習) (第11回) 学術プレゼンテーション発表2 (演習) 海外サーベイ論文の内容報告	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) アカデミックライティング基礎1 (演習) (第13回) アカデミックライティング基礎2 (演習) 学術論文の書き方の基礎指導	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) 研究倫理基礎 (講義) (第15回) 研究倫理基礎 (演習) 実験・調査の倫理的配慮を知る	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途、指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議およびコメントペーパー (25%)</li> </ul>		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。  そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</li> </ul>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセージ*任意項目</b>	
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	木岡一明

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。</p>
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○論理的な文章を書くことができる</li> <li>○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる</li> <li>○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる</li> <li>○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。</li> </ul>

授業計画（授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある）		授業外の学習（60時間）	
第1講	<p>（第1回）前期イントロダクション（講義）</p> <p>講義概要、テキストの概要について理解し、担当箇所を確定して今後の学修を見通す。</p> <p>そのため、現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。</p> <p>また文献調査の技法を理解し、自ら国内文献を探索できるようになる。</p>	事前	シラバス内容を確認した上で、テキストの緒言を熟読して、疑問点や感想をまとめる（1h）
		事後	学修計画を立てる（2h） コメントペーパーの作成と提出（1h）
第2講	<p>（第2・3回）教育経営の研究動向を知る（講義と演習）</p> <p>テキストの第1章を通読し、基本概念、対象領域、研究方法を理解し、これらの面から自己の研究の見通しを構想する。これらを通じて、論理的思考を鍛え、論理的・客観的な文章作成法を修得する。</p>	事前	テキスト第1章を熟読し、自己の研究関心と関連する先行研究を10点以上、リスト化する（4h）
		事後	コメントペーパーの作成と提出（1h） 研究の見通しをレポートにまとめる（3h）
第3講	<p>（第4・5回）教育経営に関わる政策動向を知る（講義と演習）</p> <p>研究見直しレポートを発表し、全体でその論理的妥当性や客観性を討議した上で、テキストの第2章を通読し、昨今の学校経営改革、教育委員会制度改革、教育制度改革、教員制度改革の動向を把握し、自己の研究対象を定め、関係する文献検索を行う。</p>	事前	テキスト第2章を熟読し、自己の研究関心と関連する政策動向について調べて、レポートにまとめる（4h）
		事後	コメントペーパーの作成と提出（1h） これまでリスト化した先行研究の中から1点を選び、内容を要約する。（3h）
第4講	<p>（第6・7回）教育経営をめぐる実践的課題を知る（講義と演習）</p> <p>先行研究要約レポートをプレゼンテーションし、全体でその適切性を討議した上で、テキストの第3章を通読し、子ども、学校、教育課程、教員、地域をめぐる教育経営課題を把握し、自己の研究課題を定め、関係する文献検索を行う。</p>	事前	テキスト第3章を熟読し、自己の研究関心と関連する実践的課題について調べて、レポートにまとめる（4h）
		事後	コメントペーパーの作成と提出（1h） 先行研究リストの中から新たに1点を選び、内容を要約する。（3h）
第5講	<p>（第8・9回）教育マネジメントの仕組みと方法を知る（講義と演習）</p> <p>新たに作成した先行研究要約レポートをプレゼンテーションし、全体でその適切性を討議した上で、テキストの第4章を通読し、教育マネジメントの仕組みと方法を理解した上で、自己の研究の問題領域を定め、関係する文献検索を行う。</p>	事前	テキスト第4章を熟読し、教育マネジメントの仕組みと方法を整理する（4h）
		事後	コメントペーパーの作成と提出（1h） これまでリスト化した先行研究の中から新たに1点を選び、内容を要約する。（3h）
第6講	<p>（第10回）アカデミックライティング基礎1（講</p>	事前	自らの研究テーマに基づいた論文を試論的にまとめる。（4h）

	<p>義)</p> <p>学術論文の書き方について、基礎的な問題を理解し、これまでの自己のレポート振り返る。</p> <p>(第11回) アカデミックライティング基礎2 (演習)</p> <p>各自の試論をプレゼンテーションし、その適切性を討議した上で、修正すべき点を確認する。</p>	事後	<p>コメントペーパーの作成と提出 (1h)</p> <p>自ら作成した試論を、修正する (3h)</p>
第7講	<p>(第12回) 研究倫理基礎 (講義)</p> <p>実験・調査の倫理的配慮を理解し、自らの研究計画書で踏まえるべき点を確認する。</p> <p>(第13回) 研究倫理基礎 (演習)</p> <p>これまでの学修を基に研究計画書案を作成し、その実行可能性や適切性について全体で討議する。</p>	事前	<p>これまでの学修を元に研究計画書案を作成する (4h)</p>
		事後	<p>コメントペーパーの作成と提出 (1h)</p> <p>討議を元に研究計画書案を修正する (3h)</p>
第8講	<p>(第14・15回) 研究計画書の立案</p> <p>前回の協議を受けて修正した研究計画書を、効果性の視点から全体で討議する。</p>	事前	<p>修正した研究計画書案を精査する (4h)</p>
		事後	<p>コメントペーパーの作成と提出 (1h)</p> <p>討議を元に研究計画書案を修正する (3h)</p>
定期試験	実施しない。ただし、評価は「受講生に対する評価」欄を参照のこと。		
使用テキスト	教科書は、日本教育経営学会編『教育経営ハンドブック (講座 現代の教育経営5)』学文社、2018年。		
参考文献	都度、講義中に紹介する。		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学修課題 (25%)</li> <li>・担当箇所レポート (25%)</li> <li>・最終的な研究計画書案 (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> </ul>		
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた研究指導が主となる。そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に依拠して探究していくことが必要となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> <li>・毎回の授業ごとに単発のレポート作成をするのではなく、自身の研究に関連づけて作成し発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</li> <li>・最終的な研究計画書案については、コメントを付して返却する。</li> </ul>		

オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	原則として毎週水曜日・18:00~20:00 希望する人は事前予約してください。
受講生へのメッセー ジ*任意項目	第1週から毎週、事前・事後学修課題の提出を求めます。したがって、 第1講時にも事前学修課題レポートを忘れずに用意して臨むこと。
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	柴山 慎一

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。 ○論理的な文章を書くことができる ○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる ○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる ○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。

授業計画 (授業は1回を90分とし、2回連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) オリエンテーション (講義) 演習の全体像とゴールイメージ、受講生の問題意識、進め方などの共有	事前	各自の教育構想計画書につながるような問題意識を整理(3h)
		事後	他のゼミ生の問題意識との差異を振り返り(1h)
第2講	(第2回) 専門書読破とゼミ内共有① (演習) (第3回) 専門書読破とゼミ内共有② (演習) 各自の関心テーマ、研究テーマの中核に位置付けられるバイブルになるような一人各一冊の専門書の内容報告と議論。この課題を通じて論理的・客観的な文章・レポートの書き方を学ぶ。	事前	自身の関心テーマの参考になるようなバイブル専門書を選定し概要発表のために資料化(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
第3講	(第4回) 専門書読破とゼミ内共有③ (演習) (第5回) 専門書読破とゼミ内共有④ (演習) 各自の関心テーマ、研究テーマの中核に位置付けられるバイブルになるような一人各一冊の専門書の内容報告と議論。この課題を通じて文献調査の技法を学ぶ。	事前	自身の関心テーマの参考になるようなバイブル専門書を選定し概要発表のために資料化(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
第4講	(第6回) 教育構想計画書の素案発表① (演習) (第7回) 教育構想計画書の素案発表② (演習) 教育機関、教育事業における新たな構想を提言するための素案について発表し議論する。この課題を通じてプレゼンテーション資料の作成法を学ぶ。	事前	自身の教育構想計画書の素案作成と発表準備(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
第5講	(第8回) 教育構想計画書の素案発表③ (演習) (第9回) 教育構想計画書の素案発表④ (演習) 教育機関、教育事業における新たな構想を提言するための素案について発表し議論する。この課題を通じてプレゼンテーション資料の作成法を学ぶ。	事前	自身の関心テーマの参考になるようなバイブル専門書を選定し概要発表のために資料化(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
第6講	(第10回) 教育構想計画書の改善案発表① (演習) (第11回) 教育構想計画書の改善案発表② (演習) 素案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。この課題を通じてアカデミックライティングの手法を学ぶ。	事前	自身の教育構想計画書の素案作成と発表準備(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
第7講	(第12回) 教育構想計画書の改善案発表③ (演習) (第13回) 教育構想計画書の改善案発表④ (演習) 素案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。この課題を通じてアカデミックライティングの	事前	自身の教育構想計画書の素案作成と発表準備(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)

	手法を学ぶ。		
第8講	(第14回) 研究倫理の基礎①(講義) (第15回) 研究倫理の基礎②(演習) 各自の中間報告用に取り纏めた教育構想計画書を発表し議論する。この課題を通じて研究倫理の基礎を学ぶ。	事前	自身の教育構想計画書の中間報告案の作成と発表準備(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
定期試験	試験ではなく、前後期を通じて教育構想計画書の提出を求める。		
使用テキスト	教科書は指定しないが、必要に応じて参考書は推奨する。		
参考文献	柴山慎一(2011)『コーポレートコミュニケーション経営』東洋経済新報社 清水正道、柴山慎一ほか(2019)『インターナル・コミュニケーション経営』経団連出版 ほか研究テーマに応じて		
受講生に対する評価	授業の進め方は、ゼミ生各自の発表とゼミ生全員参加のディスカッションを中心とする。ゼミ活動中の参加姿勢や他者への貢献、ディスカッションへの関与などの平常点と最終報告される教育構想計画書をもとに評価する。平常点70%、教育構想計画書(リサーチペーパー)30%		
課題等に対するフィードバック	フィードバックは受講生毎に都度、授業の中で行うが、必要に応じて個別に行う。 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	社会人院生が中心になることから受講生の余裕のある時間帯を確保する。主に平日夜間と土曜日など(要予約)。		
受講生へのメッセージ*任意項目	教育機関の経営、教育事業の拡大・成長に関する問題意識と解決意欲を持っていること  教育構想計画書は個人制作するものですが、ゼミでの発表の準備や、ゼミ内での議論などのゼミ活動そのものは、ゼミ生一体となった団体戦になります。お互いに切磋琢磨し合いながら、貢献し合う姿勢を求めます。		
備考 *任意項目			

授業用 URL * 任意項目	
授業用 E-Mail * 任意項目	

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	藤本典裕

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。</p>
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○論理的な文章を書くことができる</li> <li>○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる</li> <li>○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる</li> <li>○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。</li> </ul>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 文献調査の技法1 (演習) (第3回) 文献調査の技法2 (演習) 国内論文の検索方法と実践	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 文献調査の技法3 (演習) (第5回) 文献調査の技法4 (演習) 海外論文の検索方法と実践	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 論理的思考1 (演習) (第7回) 論理的思考2 (演習) 論理的・客観的な文章レポートの作成と検討	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回) 学術プレゼンテーション作成1 (演習) (第9回) 学術プレゼンテーション発表1 (演習) 国内サーベイ論文の内容報告	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第10回) 学術プレゼンテーション作成2 (演習) (第11回) 学術プレゼンテーション発表2 (演習) 海外サーベイ論文の内容報告	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) アカデミックライティング基礎1 (演習) (第13回) アカデミックライティング基礎2 (演習) 学術論文の書き方の基礎指導	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) 研究倫理基礎 (講義) (第15回) 研究倫理基礎 (演習) 実験・調査の倫理的配慮を知る	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途、指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議およびコメントペーパー (25%)</li> </ul>		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p style="margin-left: 2em;">そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセージ*任意項目</b>	
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	山田 恒夫

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

履 修 条 件	入学時に学生が 設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」 に近い 専門領域の指導教員を割り振る。
授業の概要	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科 が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。</p>

<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。 ○論理的な文章を書くことができる ○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる ○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる ○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。	事前 事後	シラバス内容閲覧 コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習) 論理的・客観的な文章レポートの書き方について学ぶ	事前 事後	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h) コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 文献調査の技法1 (演習) (第5回) 文献調査の技法2 (演習) 国内論文の検索方法について学ぶ。	事前 事後	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h) コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 学術プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 学術プレゼンテーション発表1 (演習) 学術プレゼンテーション資料の作成について学び、前講までに調査した国内論文の内容を報告する。	事前 事後	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h) コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回) 文献調査の技法3 (演習) (第9回) 文献調査の技法4 (演習) 海外国論文の検索方法について学ぶ。	事前 事後	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h) コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第10回) 学術プレゼンテーション作成2 (演習) (第11回) 学術プレゼンテーション発表2 (演習) 英語プレゼンテーション資料の作成について学び、前講までに調査した海外論文の内容を報告する。	事前 事後	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h) コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) アカデミックライティング基礎1 (演習) (第13回) アカデミックライティング基礎2 (演習) 学術論文の書き方の基礎を学ぶ。	事前 事後	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h) コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) 研究倫理基礎 (講義)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)

	(第 15 回) 研究倫理基礎 (演習) 実験・調査 における研究倫理的配慮を知る。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
定期試験	期末の定期試験は実施しない。		
使用テキスト	別途、指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各回授業への出席およびコメントペーパーの提出 (30%)</li> <li>・ 各自の発表 (40%、発表資料提出)</li> <li>・ 最終レポート (30%)</li> </ul> から総合的に評価する。		
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導 はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用して、時間内に順次実施する。</li> <li>・ 他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</li> </ul>		
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後		
受講生へのメッセー ジ*任意項目			
備考 *任意項目			
授業用 URL *任意項目			
授業用 E-Mail *任意項目			

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	山本 淳子

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。</p>
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○論理的な文章を書くことができる</li> <li>○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる</li> <li>○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる</li> <li>○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。</li> </ul>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習) 論理的・客観的な文章レポートの書き方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 文献調査の技法1 (演習) (第5回) 文献調査の技法2 (演習) 国内論文の探し方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 学術プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 学術プレゼンテーション発表1 (演習) 国内サーベイ論文の内容報告	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回) 文献調査の技法3 (演習) (第9回) 文献調査の技法4 (演習) 海外論文の探し方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第10回) 学術プレゼンテーション作成2 (演習) (第11回) 学術プレゼンテーション発表2 (演習) 海外サーベイ論文の内容報告	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) アカデミックライティング基礎1 (演習) (第13回) アカデミックライティング基礎2 (演習) 学術論文の書き方の基礎指導	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) 研究倫理基礎 (講義) (第15回) 研究倫理基礎 (演習) 実験・調査の倫理的配慮を知る	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途、指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議およびコメントペーパー (25%)</li> </ul>		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセー ジ*任意項目</b>	
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	大和田順子

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。</p>
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	<p>教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○論理的な文章を書くことができる</li> <li>○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる</li> <li>○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる</li> <li>○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる</li> </ul>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習) 論理的・客観的な文章レポートの書き方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 文献調査の技法1 (演習) (第5回) 文献調査の技法2 (演習) 国内論文の探し方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 学術プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 学術プレゼンテーション発表1 (演習) 国内サーベイ論文の内容報告	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回) 文献調査の技法3 (演習) (第9回) 文献調査の技法4 (演習) 海外論文の探し方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第10回) 学術プレゼンテーション作成2 (演習) (第11回) 学術プレゼンテーション発表2 (演習) 海外サーベイ論文の内容報告	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) アカデミックライティング基礎1 (演習) (第13回) アカデミックライティング基礎2 (演習) 学術論文の書き方の基礎指導	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) 研究倫理基礎 (講義) (第15回) 研究倫理基礎 (演習) 実験・調査の倫理的配慮を知る	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途、指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議およびコメントペーパー (25%)</li> </ul>		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p style="margin-left: 2em;">そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセー ジ*任意項目</b>	
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	妹尾昌俊

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。</p>
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○論理的な文章を書くことができる</li> <li>○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる</li> <li>○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる</li> <li>○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。</li> </ul>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習) 実際の教育問題に関する論文、記事等をもとに、論理的、批判的に思考することの意義、方法、留意点などについて、解説するとともに、討議する。 論理的・客観的な文章レポートの書き方についても学ぶ。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 文献調査の技法1 (演習) (第5回) 文献調査の技法2 (演習) 先行研究レビューについての考え方、方法 (国内外の論文の探し方を含む) について学ぶ。実際の研究論文や実践報告論文も素材にしながらか討議する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 文献調査の報告1 (演習) (第7回) 文献調査の報告2 (演習) 履修者の関心テーマに応じて、国内外の論文等の先行研究をサーベイし、その概要、克服したい点などの報告を行う。	事前	主要な先行研究のリストをつくる (この時点ではすべてを読み込む必要はない) (4h)
		事後	演習を踏まえて、研究アイデアや先行研究の一覧をブラッシュアップする (4h)
第5講	(第8回) 文献調査の報告3 (演習) (第9回) 文献調査の報告4 (演習) 第4講での討議や指導を踏まえて、主要な先行研究の概要 (精読したもの) 等を持ち寄り、ディスカッションする。	事前	課題への取り組み (4h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 演習を踏まえて、研究アイデアや先行研究レビューをブラッシュアップする (3h)
第6講	(第10回) 学術プレゼンテーション作成 (演習) (第11回) 学術プレゼンテーション発表 (演習) 先行研究レビュー等を踏まえて、研究アイデア (テーマ、問題意識、リサーチクエスション、検証したい仮説) や実証方法等について、概要をプレゼンテーションとしてまとめる。	事前	課題への取り組み (4h)
		事後	他の受講者のプレゼンへのフィードバックを含むコメントペーパーの提出 (2h) プレゼン資料の修正 (2h)
第7講	(第12回) アカデミックライティング基礎1 (演習) (第13回) アカデミックライティング基礎2 (演習) 学術論文の書き方の基礎指導を行う。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) 研究倫理基礎 (講義)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)

	(第 15 回) 研究倫理基礎 (演習) 実験・調査の倫理的配慮を知る。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途、指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表内容 (50%)</li> <li>・ レポート (25%)</li> <li>・ 討議およびコメントペーパー (25%)</li> </ul>		
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>		
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	特定の時間は定めません。事前にメール等で予約してください。		
受講生へのメッセー ジ*任意項目			
備考 * 任意項目			
授業用 URL * 任意項目			
授業用 E-Mail * 任意項目			

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	松田 孝

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。</p>
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○論理的な文章を書くことができる</li> <li>○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる</li> <li>○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる</li> <li>○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。</li> </ul>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習) 現状における「研究構想実践書」のSUMMARYの作成 各自のSUMMARYをもとにした論理的・客観的な文章レポートの書き方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 文献調査の技法1 (演習) (第5回) 文献調査の技法2 (演習) 「研究構想実践書」に関連する学会及び学術雑誌の洗い出し 国内論文の探し方 学術論文における査読について	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 学術プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 学術プレゼンテーション発表1 (演習) 先行研究の把握とその重要性 国内サーベイ論文の内容報告 発表の構成と作成方法	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回) 文献調査の技法3 (演習) (第9回) 文献調査の技法4 (演習) 海外論文の探し方 学術検索エンジン及び論文検索サイトの活用	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第10回) 学術プレゼンテーション作成2 (演習) (第11回) 学術プレゼンテーション発表2 (演習) 海外サーベイ論文の内容報告	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) アカデミックライティング基礎1 (演習) (第13回) アカデミックライティング基礎2 (演習) 学術論文の書き方の基礎指導 アカデミックライティングのルールと文章構造 文献研究、実証研究の一連の流れとテーマ設定から論文の評価 (オリジナリティ)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)

第8講	(第14回) 研究倫理基礎 (講義) (第15回) 研究倫理基礎 (演習) 実験・調査の倫理的配慮を知る 学術論文及び実証研究における倫理規定	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途、指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議およびコメントペーパー (25%)</li> </ul>		
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	授業の前後		
受講生へのメッセージ*任意項目			
備考 *任意項目			
授業用 URL *任意項目			
授業用 E-Mail *任意項目			

講義名	教育構想演習（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	大和田 茂

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関する課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想演習（Ⅰ）】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。</p>
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミックライティングの技法、研究倫理を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○論理的な文章を書くことができる</li> <li>○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる</li> <li>○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる</li> <li>○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。</li> </ul>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。	事前	自己紹介シートの作成 (書式自由)
		事後	抱負レポート提出 (6h)
第2講	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習) 論文の構成を知る	事前	
		事後	指定の論文を読み、レポート (7h)
第3講	(第4回) 文献調査の技法1 (演習) (第5回) 文献調査の技法2 (演習) 論文の探し方と、文献管理ソフトの利用	事前	
		事後	文献管理ソフトのインストール (6h) 指定分野の論文を探し、レポート (6h)
第4講	(第6回) 文献調査の技法3 (演習) (第7回) 文献調査の技法4 (演習) サーベイ論文とは	事前	
		事後	気になる分野のサーベイ論文を探し、そこから参照されている論文をできるだけ管理ソフトに入れる (7h)
第5講	(第8回) 研究倫理基礎 (講義) (第9回) 研究倫理基礎 (演習) 実験・調査の倫理的配慮を知る	事前	
		事後	サーベイ論文のレポート (7h)
第6講	(第10回) アカデミックライティング基礎1 (演習) (第11回) アカデミックライティング基礎2 (演習) 学術論文の書き方の基礎指導	事前	
		事後	論文フォーマットの最終レポートドラフト作成・提出 (7h)
第7講	(第12回) 学術プレゼンテーション作成1 (講義) (第13回) 学術プレゼンテーション発表1 (演習) アイデアが伝わるプレゼンテーションの指導	事前	
		事後	プレゼンテーション資料の作成・提出 (7h)
第8講	(第14回) 学術プレゼンテーション作成2 (演習) (第15回) 学術プレゼンテーション発表2 (演習) アイデアが伝わるプレゼンテーションの指導	事前	
		事後	最終レポートとプレゼン資料の改善・提出 (7h)
定期試験	レポートとプレゼンテーション		
使用テキスト	別途、指示する		

参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (25%)</li> <li>・レポート (50%)</li> <li>・プレゼンテーション (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育構想演習（Ⅱ）

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	竹村治雄

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)		
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。		
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	ICT の教育応用に関する教育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づくりサーチペーパーを書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります)	<b>授業外の学習</b> (60時間)		
第1講	(第1回) イントロダクション (講義)	事前	シラバス内容閲覧

	ICTの教育応用に関する現状や教育利用に関して理解する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化 (演習) (第3回) 問題意識の明確化 (演習) ICTの教育応用に関する技術領域から興味関心のあるテーマを定める	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第6回) 先行研究レビュー3 (演習) (第7回) 先行研究レビュー4 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成2 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表2 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) リサーチペーパー指導1 (演習) (第13回) リサーチペーパー指導2 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) リサーチペーパー指導3 (演習) (第15回) リサーチペーパー指導4 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	必要な教材はLMSから配布する。		
参考文献	必要な参考情報へのリンクはLMS上で提示する。		

受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (25%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> <li>・最終課題としてのリサーチペーパー (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセージ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	秋田 次郎

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)		
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	近代経済学・計量経済学を背景とする教育テックの視点から教育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づきリサーチペーパーを書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 近代経済学・計量経済学を背景とする教育テックの視点から現状や教育利用に関して理解する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出

			(1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化 (演習) (第3回) 問題意識の明確化 (演習) 近代経済学・計量経済学を背景とする教育テックの 領域から興味関心のあるテーマを定める	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文 献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成1 (演 習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1 (演 習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回) 先行研究レビュー3 (演習) (第9回) 先行研究レビュー4 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文 献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第10回) 先行研究プレゼンテーション作成2 (演 習) (第11回) 先行研究プレゼンテーション発表2 (演 習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) リサーチペーパー指導1 (演習) (第13回) リサーチペーパー指導2 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結 果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) リサーチペーパー指導3 (演習) (第15回) リサーチペーパー指導4 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結 果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	・発表内容 (25%) ・レポート (25%)		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 討議 (25%)</li> <li>・ 最終課題としてのリサーチペーパー (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。 そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</li> </ul>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	河崎 雷太

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)		
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	コンピュータグラフィックス関連の教育応用をベースに、教育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づきリサーチペーパーを書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) WebCG プログラミングや VR の現状や教育利用に関して理解する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出

			(1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化 (演習) (第3回) 問題意識の明確化 (演習) WebCG プログラミングや VR の技術領域から興味関心のあるテーマを定める	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第6回) 先行研究レビュー3 (演習) (第7回) 先行研究レビュー4 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成2 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表2 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) リサーチペーパー指導1 (演習) (第13回) リサーチペーパー指導2 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) リサーチペーパー指導3 (演習) (第15回) リサーチペーパー指導4 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (25%)</li> <li>・レポート (25%)</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 討議 (25%)</li> <li>・ 最終課題としてのリサーチペーパー (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。 そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</li> </ul>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	木岡一明

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)	
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。	
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	テーマ；公教育経営をめぐる課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づくりサーチペーパーを書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる。	
<b>授業計画</b> （授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります）		<b>授業外の学習</b> （60時間）
第1講	（第1回）後期イントロダクション（講義）	事前 シラバスを閲覧した上で、今後の学修についてのイメージを持つ

	講義概要について理解し、今後の学修を見通す。 また、公教育経営の現状や教育利用に関して理解する。		(3h)
		事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 学修計画を立て、提出する (2h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化 (演習) 自己の研究計画書の中から、何のために (Why) 何を (What) いか (How) 問題とするのかをプレゼンテーション、その適切性を全体で討議する。 (第3回) 問題意識の明確化 (演習) 討議をもとに自己の研究計画書を見直し、適切なものに修正する。	事前	研究計画書の中でも問題意識に関する部分を精査する (3h)
		事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 学修と討議をもとに研究計画書の適切性を精査し、必要に応じて修正し、提出する (3h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) 自己の研究テーマに関する先行研究を検索し、先行研究リストを作成する。 (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 作成した先行研究リストの中から、1編についてレビューレポートを作成する。	事前	文献検索の方法を復習し、自己の関心に沿って試しに検索する (3h)
		事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 先行研究レビューレポートを完成させ、プレゼンテーションに備える (3h)
第4講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成1 (演習) プレゼンテーション用に先行研究レポートを加工する。 (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1 (演習) 先行研究プレゼンテーションを行い、全体で内容を共有する。	事前	先行研究レビューを重ね、レポートにまとめていく (4h)
		事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 先行研究レビューを続け、レポートにまとめていく (3h)
第5講	(第8回) 先行研究レビュー3 (演習) 先行研究リストに追加すべき文献を探索する。 (第9回) 先行研究レビュー4 (演習) 作成した先行研究リストの中から、新たに1編についてレビューレポートを作成する。	事前	先行研究レビューを重ね、レポートにまとめていく (4h)
		事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 先行研究レビューレポートを完成させ、プレゼンテーションに備える (3h)
第6講	(第10回) 先行研究プレゼンテーション作成2 (演習) プレゼンテーション用に先行研究レポートを加工する。 (第11回) 先行研究プレゼンテーション発表2 (演習) 先行研究プレゼンテーションを行い、全体で内	事前	先行研究に照らして自己の研究の意義と課題を整理する (4h)
		事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h)。 学修と討議をもとに研究進捗の適切性を精査し、リサーチペーパー案を作成する (3h)

	容を共有する。		
第7講	(第12回) リサーチペーパー指導1 (演習) これまで進めてきた研究をレポートにまとめ、プレゼンテーションし、全体で討議する。 (第13回) リサーチペーパー指導2 (演習) 全体討議をもとに、自己のリサーチペーパーを修正する。	事前	リサーチペーパー案を精査する (4h)
		事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) リサーチペーパーを完成させる (3h)
第8講	(第14回) 研究計画書のバージョンアップ1 (演習) これまでの学修と討議をもとに、「研究構想実践書」作成に向け、自己の今後の研究計画において見直すべき点を洗い出し、いかに修正していくかを発表する。 (第15回) 研究計画書のバージョンアップ2 (演習) 履修者各自の発表をもとに、公教育経営研究においていかなる研究計画が適切かを全体で討議する。	事前	今後の研究計画案を作成する (4h)
		事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 学修と討議をもとに研究計画書の適切性を精査し、必要に応じて修正する (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	履修者のテーマに合わせて別途指示する。		
参考文献	履修者のテーマに合わせて別途指示する。		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (25%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> <li>・最終課題としてのリサーチペーパー (25%)</li> </ul>		
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>		

<b>オフィスアワー</b> <b>(オンライン曜日・時間)</b>	原則として毎週水曜日・18:00~20:00 希望する人は事前予約してください。
<b>受講生へのメッセージ*</b> <b>任意項目</b>	
<b>備考</b> <b>* 任意項目</b>	
<b>授業用 URL</b> <b>* 任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail</b> <b>* 任意項目</b>	

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	柴山 慎一

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)	
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。	
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	教育機関経営や経営に資するコミュニケーションに関わる研究テーマに対する教育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づくりサーチペーパーを書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる	
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)
第1講	(第1回) オリエンテーション (講義) 演習の全体像とゴールイメージ、受講生の問題意識、進め方などについての中間地点としての再共	事前 各自の教育構想計画書につながるような問題意識を整理 (3h)
		事後 他のゼミ生の問題意識との差

	有。及び、教育機関経営と経営に資するコミュニケーションのあり方について理解する。		異を振り返り(1h)
第2講	(第2回)教育構想計画書の改善案発表①(演習) (第3回)教育構想計画書の改善案発表②(演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。特に教育機関経営と経営に資するコミュニケーションのあり方について深掘りする。	事前	自身の教育構想計画書の改善案作成と発表準備(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
第3講	(第4回)教育構想計画書の改善案発表③(演習) (第5回)教育構想計画書の改善案発表④(演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。特に教育機関経営と経営に資するコミュニケーションのあり方について深掘りする。	事前	自身の教育構想計画書の改善案作成と発表準備(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
第4講	(第6回)教育構想計画書の改善案発表⑤(演習) (第7回)教育構想計画書の改善案発表⑥(演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。	事前	自身の教育構想計画書の改善案作成と発表準備(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
第5講	(第8回)教育構想計画書の改善案発表⑦(演習) (第9回)教育構想計画書の改善案発表⑧(演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。	事前	自身の教育構想計画書の改善案作成と発表準備(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
第6講	(第10回)教育構想計画書の改善案発表⑨(演習) (第11回)教育構想計画書の改善案発表⑩(演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。特に、リサーチペーパー(教育構想計画書)の仕上げに向けた指導を行う。	事前	自身の教育構想計画書の改善案作成と発表準備(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
第7講	(第12回)教育構想計画書の改善案発表⑪(演習) (第13回)教育構想計画書の改善案発表⑫(演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。特に、リサーチペーパー(教育構想計画書)の仕上げに向けた指導を行う。	事前	自身の教育構想計画書の改善案作成と発表準備(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
第8講	(第14回)リサーチペーパー指導1(演習) (第15回)リサーチペーパー指導2(演習) 各自の最終報告用に取り纏めた教育構想計画書を発表し議論する。	事前	自身の教育構想計画書の最終報告案の作成と発表準備(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り(1h)
定期試験	試験ではなく、前後期を通じて教育構想計画書の提出を求める。		
使用テキスト	教科書は指定しないが、必要に応じて参考書は推奨する。		
参考文献	柴山慎一(2011)『コーポレートコミュニケーション経営』東洋経済		

	<p>新報社 清水正道、柴山慎一ほか（2019）『インターナル・コミュニケーション経営』経団連出版 ほか研究テーマに応じて</p>
受講生に対する評価	<p>授業の進め方は、ゼミ生各自の発表とゼミ生全員参加のディスカッションを中心とする。ゼミ活動中の参加姿勢や他者への貢献、ディスカッションへの関与などの平常点と最終報告される教育構想計画書をもとに評価する。平常点 50%、教育構想計画書（リサーチペーパー） 50%</p>
課題等に対する フィードバック	<p>フィードバックは受講生毎に都度、授業の中で行うが、必要に応じて個別に行う。 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	<p>社会人院生が中心になることから受講生の余裕のある時間帯を確保する。主に平日夜間と土曜日など（要予約）。</p>
受講生へのメッセージ*任意項目	<p>教育機関の経営そのものの中にコミュニケーションを位置づけ、その内容を広く学ぶことを通じて教育構想計画書を作成する。演習（ゼミ）活動は個人戦ではなく団体戦と位置付け、他のゼミ生への貢献を相互に意識しながら知見の充実と経験値の向上に努めるものとする。</p>
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	藤本典裕

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	現代の学校教育制度をめぐる諸課題について、特に学校教職員の役割とその変化などに着目しながら検討する。「チームとしての学校」が求められる背景と現状など、児童・生徒の学びを保障するための条件を念頭に置いて考察する。これらを踏まえ、受講者各自が教育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づきリサーチペーパーを書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります)	<b>授業外の学習</b> (60時間)

第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 学校教育制度と教職員の現状や教育利用に関して理解する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化 (演習) (第3回) 問題意識の明確化 (演習) 学校教育制度と教職員に関する技術領域から興味関心のあるテーマを定める	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第6回) 先行研究レビュー3 (演習) (第7回) 先行研究レビュー4 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成2 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表2 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) リサーチペーパー指導1 (演習) (第13回) リサーチペーパー指導2 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) リサーチペーパー指導3 (演習) (第15回) リサーチペーパー指導4 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験		各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。	
使用テキスト		別途指示する	
参考文献		別途指示する	

受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (25%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> <li>・最終課題としてのリサーチペーパー (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	山田 恒夫

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)		
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。 【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	指導教員の専門分野における研究の最新動向を知り、自らの視点で教育界の課題や社会課題を発見分析し、さらに関連研究の最新動向をまとめ、客観的な情報に基づくリサーチペーパーを書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 情報学や教育工学における研究の最新動向や 連技術の教育利用に関して理解する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)

第2講	(第2回) 問題意識の明確化 (演習) (第3回) 問題意識の明確化 (演習) 技術領域から興味関心のあるテーマを定める	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第6回) 先行研究レビュー3 (演習) (第7回) 先行研究レビュー4 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成2 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表2 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) リサーチペーパー指導1 (演習) (第13回) リサーチペーパー指導2 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) リサーチペーパー指導3 (演習) (第15回) リサーチペーパー指導4 (演習) 引き続き各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験		期末の定期試験は実施しない。	
使用テキスト		別途指示する	
参考文献		別途指示する	
受講生に対する評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各回授業への出席およびコメントペーパーの提出 (30%)</li> <li>・ 各自の発表 (40%、発表資料提出)</li> <li>・ 最終課題としてのリサーチペーパー (30%)</li> </ul> から総合的に評価する。	

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p style="margin-left: 2em;">そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセー ジ*任意項目</b>	
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	山本 淳子

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経済／経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	保育・幼児教育に関する教育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づくリサーチペーパーを書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2 限連続で実施する場合がある)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義)
事前	シラバス内容閲覧

	保育・幼児教育の現状や教育利用に関して理解する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化 (演習) (第3回) 問題意識の明確化 (演習) 保育・幼児教育の技術領域から興味関心のあるテーマを定める	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回) 先行研究レビュー3 (演習) (第9回) 先行研究レビュー4 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第10回) 先行研究プレゼンテーション作成2 (演習) (第11回) 先行研究プレゼンテーション発表2 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) リサーチペーパー指導1 (演習) (第13回) リサーチペーパー指導2 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) リサーチペーパー指導3 (演習) (第15回) リサーチペーパー指導4 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		

受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (25%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> <li>・最終課題としてのリサーチペーパー (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	大和田順子

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)		
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	関心のある SDGs 目標・ターゲットや社会課題、ESD について、教育界におけるそのテーマに関する取り組み及び課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づくリサーチペーパーを書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) SDGs や社会課題、ESD の現状や教育利用に関して理解する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)

			指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化 (演習) (第3回) 問題意識の明確化 (演習) SDGsや社会課題、ESDに関する技術領域から興味関心のあるテーマを定める	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第6回) 先行研究レビュー3 (演習) (第7回) 先行研究レビュー4 (演習) 各履修者の関心に対応した文献 (1編の論文または文献の章) を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成2 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表2 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) リサーチペーパー指導1 (演習) (第13回) リサーチペーパー指導2 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) リサーチペーパー指導3 (演習) (第15回) リサーチペーパー指導4 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (25%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> <li>・最終課題としてのリサーチペーパー (25%)</li> </ul>		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p style="margin-left: 2em;">そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセー ジ*任意項目</b>	
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	妹尾昌俊

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)		
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	教職員のウェルビーイング、教職員政策、人材マネジメントに関する教育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づきリサーチペーパーを書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (講義) 今日的な教育課題に関する現状を概観するとともに、課題解決の方向性について討議する。	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)

	とりわけ、教職員のウェルビーイングや教職員政策、学校等における人材マネジメントに注目し、受講者の関心を踏まえながらテーマ設定する。テーマ例としては、教職員の長時間労働の問題（働き方改革、業務改善）、メンタルヘルス、専門職としての教職のあり方、採用戦略、リテンション（離職防止）、人材育成など。		指定された文献の精読（3h）
第2講	<p>（第2回）問題意識の明確化、チームビルディング1（演習）</p> <p>（第3回）問題意識の明確化、チームビルディング2（演習）</p> <p>教職員の健康・福祉、ウェルビーイングに関する領域から、各履修者が探究したいテーマ、現時点の課題仮説、解決アイデアについて、発表したあと、ディスカッションする。</p> <p>関心が近い者やバックグラウンドが異なる者同士が集まり、チームを作る。</p>	事前	課題への取り組み（4h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 指定された文献の精読（3h）
第3講	<p>（第4回）先行研究レビュー1（演習）</p> <p>（第5回）先行研究レビュー2（演習）</p> <p>各履修者の関心に対応した文献を調査する。前期の教育構想演習（I）で調査したことをベースに、チームごとにさらに検討や調査を加える。</p>	事前	授業資料の確認（1.5h） 課題への取り組み（2.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 指定された文献の精読（3h）
第4講	<p>（第6回）先行研究プレゼンテーション作成1（演習）</p> <p>（第7回）先行研究プレゼンテーション発表2（演習）</p> <p>調査した内容を報告し履修者間で共有する。</p>	事前	授業資料の確認（1.5h） 課題への取り組み（2.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 指定された文献の精読（3h）
第5講	<p>（第8回）インタビュー調査の方法1（演習）</p> <p>（第9回）インタビュー調査の方法2（演習）</p> <p>文献調査のみでは不十分な情報や深堀りしたい内容について、インタビュー調査を行う場合の方法や留意点について、模擬をしながら学ぶ。</p>	事前	授業資料の確認（1.5h） 課題への取り組み（2.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（1h） 指定された文献の精読（3h）
第6講	<p>（第10回）調査結果の報告1</p> <p>（第11回）調査結果の報告2</p> <p>先行研究を克服したいことについて、インタビューなど、履修者がチームごとに調査した内容を報告し、履修者間で共有する。</p>	事前	授業資料の確認（1.5h） 課題への取り組み（2.5h）
		事後	コメントペーパーの提出（2h） 調査結果のまとめのブラッシュアップ（2h）
第7講	（第12回）リサーチペーパー指導1（演習）	事前	課題への取り組み（4h）

	(第13回) リサーチペーパー指導2 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチペーパーの加筆修正 (3h)
第8講	(第14回) リサーチペーパー指導3 (演習) (第15回) リサーチペーパー指導4 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	課題への取り組み (4h)
		事後	コメントペーパーの提出 (2h) リサーチペーパーの加筆修正 (2h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> <li>・最終課題としてのリサーチペーパー (50%)</li> </ul>		
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	特定の時間は定めません。事前にメール等で予約してください。		
受講生へのメッセージ*任意項目			
備考*任意項目			
授業用 URL*任意項目			
授業用 E-Mail*任意項目			

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	松田 孝

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)		
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	教育 Tech と①非認知能力、②プログラミング教育、③学校経営等との関わりをめぐって教育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づくリサーチペーパーを書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる		
<b>授業計画</b> (授業は1回を90分とし、2 限連続で実施する場合がある)		<b>授業外の学習</b> (60 時間)	
第 1 講	(第 1 回) イントロダクション (講義) 教育 Tech と①非認知能力、②プログラミング教育、 ③学校経営等との関わりをめぐって現状や教育利用	事前	シラバス内容閲覧
		事後	コメントペーパーの提出

	に関して理解する。		(1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化 (演習) (第3回) 問題意識の明確化 (演習) 教育 Tech と①非認知能力、②プログラミング教育、 ③学校経営等との関わりをめぐって技術領域から興味関心のあるテーマを定める 現状の問題意識に基づく「教育構想実践書」の序章の作成	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者の関心に対応した文献(1編の論文または文献の章)を調査する。 ツールとしてのレビュー論文の活用と作成	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。 レビュー論文の活用と作成	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回) 先行研究レビュー3 (演習) (第9回) 先行研究レビュー4 (演習) 各履修者の関心に対応した文献(1編の論文または文献の章)を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第6講	(第10回) 先行研究プレゼンテーション作成2 (演習) (第11回) 先行研究プレゼンテーション発表2 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第7講	(第12回) リサーチペーパー指導1 (演習) (第13回) リサーチペーパー指導2 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。 学術論文としてのリサーチペーパー リサーチペーパーと修士論文	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第14回) リサーチペーパー指導3 (演習) (第15回) リサーチペーパー指導4 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)

	リサーチペーパーの作成と「研究構想実践書」のSUMMARY		
定期試験	各自の発表（発表資料提出）及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容（20%）</li> <li>・レポート（20%）</li> <li>・討議（10%）</li> <li>・最終課題としてのリサーチペーパー（50%）</li> </ul>		
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>		
オフィスアワー （オンライン曜日・時間）	授業の前後		
受講生へのメッセージ*任意項目			
備考*任意項目			
授業用 URL*任意項目			
授業用 E-Mail*任意項目			

講義名	教育構想演習（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	1 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	大和田 茂

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）を履修し単位取得していること。 教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。 (教育構想演習（Ⅰ）と異なる教員も認められる)	
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想演習（Ⅱ）】では、教育構想演習（Ⅰ）で学んだアカデミックスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先行研究レビューをまとめた「サーベイレポート（リサーチペーパー）」を作成する。	
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	技術的な面から教育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づくサーベイレポート（リサーチペーパー）を書く。  ○リサーチペーパーの書き方を理解できる	
<b>授業計画</b> （授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある）		<b>授業外の学習</b> （60時間）
第1講	（第1回）イントロダクション（講義）	事前 自己紹介シートの作成（書式自由）

	乳幼児の育成に関わる技術の現状や教育利用に関して理解する。	事後	抱負レポート提出 (4h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化 (演習) (第3回) 問題意識の明確化 (演習) 乳幼児の育成に関わる技術技術領域から興味関心のあるテーマを定める	事前	
		事後	関心領域の調査と設定を行い、レポートにまとめる。参考文献付きで (8h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者の関心に対応したサーベイ文献を発見する。	事前	
		事後	発見したサーベイ論文を読めるとこまで読む (8h)
第4講	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1 (演習) 調べた結果を履修者間で共有する方法を学ぶ。	事前	
		事後	サーベイ論文精読と、プレゼン作成を進める (8h)
第5講	(第8回) 先行研究プレゼンテーション発表2 (演習) (第9回) サーベイレポート指導1 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。 調査結果を、論文形式で執筆できるようにする。	事前	
		事後	サーベイ論文精読と、プレゼン作成・サーベイレポート作成を進める (8h)
第6講	(第10回) 先行研究プレゼンテーション発表3 (演習) (第11回) 先行研究レビュー3 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。 調査結果を、論文形式で執筆する。	事前	
		事後	サーベイ論文精読と、プレゼン作成・サーベイレポート作成を進める (8h)
第7講	(第12回) 先行研究プレゼンテーション発表4 (演習) (第13回) 先行研究レビュー4 (演習) 各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をサーベイレポートに纏める。	事前	
		事後	他の履修者の書類を読み、コメントペーパー作成 (8h)
第8講	(第14回) まとめと次年度の抱負発表 (演習) (第15回) 先行研究レビュー4 (演習) ここまでの調査結果の発表と来年度の計画を発表。 2年次スタートまでに読むサーベイ論文を見つける	事前	
		事後	サーベイレポートの提出 (2h) プレゼンテーション資料の提出 (3h) 来年度の抱負レポートの提出 (3h)
定期試験	サーベイレポート		
使用テキスト	別途指示する		

参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段のレポート (10%)</li> <li>・ プレゼンテーション資料 (30%)</li> <li>・ 最終課題としてのサーベイレポート (60%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 * 任意項目	
授業用 URL * 任意項目	
授業用 E-Mail * 任意項目	

## 教育構想研究（Ⅰ）

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	竹村治雄

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したりサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	ICT の教育応用に関して、各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。  ○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる
<b>授業計画</b> （授業は 1 回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある）	<b>授業外の学習</b> （60 時間）

第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした 前期研究計画の執筆 (3h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定1 (演習) (第3回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定2 (演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者のテーマに応じて、論文または報告書(それに相当する書籍の1章分相当)を読み、発表する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第4講	(第6回) 研究計画書の骨子1 (演習) (第7回) 研究計画書の骨子2 (演習) 各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体化するために討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) データ収集・分析計画1 (演習) (第9回) データ収集・分析計画2 (演習) 研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第6講	(第10回) 研究計画書の骨子3 (演習) (第11回) 研究計画書の骨子4 (演習) 調査結果を基に、研究の骨子を再構築する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) データ収集・分析計画3 (演習) (第13回) データ収集・分析計画4 (演習) 新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第8講	(第14回) 仮説の検討1 (演習) (第15回) 仮説の検討2 (演習) 主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
定期試験	各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。		
使用テキスト	必要な資料はLMS上に用意する。		
参考文献	参考資料のリンクはLMS上で提供する。		

受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	授業の前後
受講生へのメッセージ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	秋田 次郎

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したリサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	近代経済学・計量経済学を背景とする教育テックの視点から、各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。  ○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる
<b>授業計画</b> （授業は 1 回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合があります）	<b>授業外の学習</b> （60 時間）

第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした 前期研究計画の執筆 (3h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定1 (演習) (第3回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定2 (演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者のテーマに応じて、論文または報告書(それに相当する書籍の1章分相当)を読み、発表する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第4講	(第6回) 研究計画書の骨子1 (演習) (第7回) 研究計画書の骨子2 (演習) 各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体化するために討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) データ収集・分析計画1 (演習) (第9回) データ収集・分析計画2 (演習) 研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第6講	(第10回) 研究計画書の骨子3 (演習) (第11回) 研究計画書の骨子4 (演習) 調査結果を基に、研究の骨子を再構築する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) データ収集・分析計画3 (演習) (第13回) データ収集・分析計画4 (演習) 新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第8講	(第14回) 仮説の検討1 (演習) (第15回) 仮説の検討2 (演習) 主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
定期試験	各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		

受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	河崎 雷太

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したリサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	本講座では、ゲームライクな教育を構想する。その手法としてコンピュータグラフィックスや VR などの活用を学ぶ。例えば、近年、楽器の演奏スキルを向上させるゲームライクな教育アプリがある。そのような考え方を様々な教育への適用を研究する。  飽きてしまいがちなスキル教育には、学びたい気持ちを起こさせる行動変容が必要である。ゲームはやりたい気持ちを作る仕組みの宝庫であり、行動変容を起こさせる「寄り添い（コーチ）」とタイミングよい

	<p>「インセンティブ」を実装していると考える。</p> <p>今後、ウェアラブルデバイスでの24時間コーチングや、VRによる疑似体験で行動変容した後（あるいは変容しなかった）の将来をリアルに体験するなど、ゲーム的な要素をより深く与えることができるようになる。そのような未来に向けての新しい教育をベースに、各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。</p> <p>○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる</p>
--	---

授業計画（授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある）		授業外の学習（60時間）	
第1講	（第1回）イントロダクション（演習） 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした前期研究計画の執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h）
第2講	（第2回）問題意識の明確化と研究テーマの設定1（演習） （第3回）問題意識の明確化と研究テーマの設定2（演習） 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。	事前	前回レポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（5h）
第3講	（第4回）先行研究レビュー1（演習） （第5回）先行研究レビュー2（演習） 各履修者のテーマに応じて、論文または報告書（それに相当する書籍の1章分相当）を読み、発表する。	事前	前回レポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（5h）
第4講	（第6回）研究計画書の骨子1（演習） （第7回）研究計画書の骨子2（演習） 各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体化するために討議する。	事前	前回レポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（5h）
第5講	（第8回）データ収集・分析計画1（演習） （第9回）データ収集・分析計画2（演習） 研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆（2h）
		事後	データ収集（6h）
第6講	（第10回）研究計画書の骨子3（演習） （第11回）研究計画書の骨子4（演習） 調査結果を基に、研究の骨子を再構築する。	事前	データ分析（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（5h）
第7講	（第12回）データ収集・分析計画3（演習） （第13回）データ収集・分析計画4（演習）	事前	前回レポートの執筆（2h）
		事後	データ収集（6h）

	新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。		
第8講	(第14回) 仮説の検討1 (演習) (第15回) 仮説の検討2 (演習) 主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> </ul>		
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	授業の前後		
受講生へのメッセージ*任意項目			
備考 *任意項目			
授業用 URL *任意項目			
授業用 E-Mail *任意項目			

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	木岡一明

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履修条件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したリサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。	
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。	
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	学校組織開発の視点から、各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。  ○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる	
<b>授業計画</b> （授業は 1 回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある）	<b>授業外の学習</b> （60 時間）	
	事前	シラバスを熟読し内容を理解する

第1講	(第1回) 前期イントロダクション (演習) 講義概要を理解し、今後の学修を見通す。また、これまでに作成・精査した研究計画書を発表し、全体で適切性を討議する。また、教育ビジョン、コア・バリューの探索のための留意点を理解する。		(1h) すでに作成してある研究計画書を精査する (1h)
		事後	討議をもとに、必要に応じて研究計画書を修正する (2h)
第2講	(第2回) 教育ビジョンの探索 (演習) フィールド調査に基づいて描いた教育ビジョンを発表し、全体で適切性を討議する。 (第3回) コア・バリューの探索 (演習) フィールド調査に基づいて引き出したコア・バリューを発表し、全体で適切性を討議する。 また、ミッション探索と KPI 設定のための留意点を理解する。	事前	教育ビジョンとコア・バリューの探索のため、フィールド調査を行い発表のための資料を作成する (6h)
		事後	討議をもとに、必要に応じて教育ビジョン、コア・バリューを修正する (2h)
第3講	(第4回) ミッションの探索 (演習) フィールド調査に基づいて探索したミッションを発表し、全体で適切性を討議する。 (第5回) KPI の設定 (演習) ミッション完遂を証明する KPI を発表し、全体で適切性を討議する。 また、戦略ドメイン、中期目標の設定のための留意点を理解する。	事前	ミッションを定め収集可能な KPI を設定するためのフィールド調査を行い、発表のための資料を作成する (6h)
		事後	討議をもとに、必要に応じてミッション、KPI を修正する (2h)
第4講	(第6回) 戦略ドメインの設定 (演習) フィールド調査に基づいて設定した戦略ドメインを発表し、全体で適切性を討議する。 (第7回) 中期目標の設定 (演習) フィールド調査に基づいて設定した中期目標を発表し、全体で適切性を討議する。 研究テーマ、研究仮説の設定のための留意点を理解する。	事前	戦略ドメインと中期目標設定のためのフィールド調査を行い、発表のための資料を作成する (6h)
		事後	討議をもとに、必要に応じて戦略ドメイン、中期目標を修正する (2h)
第5講	(第8回) 研究テーマの吟味 (演習) フィールド調査をもとに、中期目標達成のために、何をテーマとして何に取り組むのか、それによっていかなる成果を導くと考えているかを発表し、全体で適切性を討議する。 (第9回) 研究仮説の吟味 (演習) 研究テーマに応じた主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する また、行動計画と評価指標を作成するための留	事前	研究テーマと研究仮説についての発表準備を行う (6h)
		事後	討議をもとに、必要に応じて研究テーマと研究仮説を修正する (2h)

	意点を理解する。		
第6講	(第10回) 行動計画の作成 (演習) これまでの学修と研究仮説をもとに、戦略ドメインごとの行動計画を発表し、全体で適切性を討議する。 (第11回) 評価指標の設定 (演習) これまでのフィールド調査を元に、得られたデータを整理・分析し、行動計画の成果を捉えるための評価指標を設定する。	事前	戦略ドメインごとの行動計画と評価指標を作成し、発表資料を準備する (6h)
		事後	討議をもとに、必要に応じて行動計画、評価指標を修正する (2h)
第7講	(第12回) 研究方法の吟味 (演習) これまでの学修をもとに研究方法を確定させ、それを発表し、全体で適切性を討議する。 (第13回) データ収集・分析計画1 (演習) 研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	自己が採用する、実行可能な研究方法についての発表資料を準備する (6h)
		事後	討議をもとに、必要に応じて研究方法を修正する (2h)
第8講	(第14回) 研究計画書の骨子 (演習) 調査結果やこれまでの検討を基に、研究の骨子を再構築する。 (第15回) データ収集・分析計画2 (演習) 新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	これまでの検討をもとに、「研究計画書」案を見直し、被験者に対して説得力のあるプレゼンテーションを準備する (6h)
		事後	討議をもとに、データ収集・データ分析を含めた「研究計画書」案を修正する (2h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	各自の研究計画に応じ、別途指示する。		
参考文献	各自の研究計画に応じ、別途指示する。		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> </ul>		
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをするこ</p>		

	と。
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	原則として毎週水曜日・18:00~20:00 希望する人は事前予約してください。
受講生へのメッセージ*任意項目	フィールド調査を行うには、被験者に対して調査目的、匿名性の担保、調査結果の使用法など研究倫理に沿った説明が必須です。必ず事前に了解を得ること。また、フィールド調査は、限られた時間、場所など制約が大きいので、事前に綿密に調査計画を作成すること。
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	柴山 慎一

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履修条件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したリサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	教育機関経営について、そのベースになる組織論を通じて組織のあり方やマネジメントの理論を学び、マーケティングや広報・ブランディングの理論を通じて、教育機関の成長に向けた戦略・施策の考え方をベースに、各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。  ○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) オリエンテーション (演習) 研究の全体像とゴールイメージ、受講生の問題意識、進め方などの共有、リサーチペーパーから研究進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事前	各自の教育構想実践書につながるような問題意識を整理(3h)
		事後	他のゼミ生の問題意識との差異を振り返り(1h)
第2講	(第2回) 専門書読破とゼミ内共有① (演習) (第3回) 専門書読破とゼミ内共有② (演習) 各自の関心テーマ、研究テーマの中核に位置付けられるバイブルになるような一人各一冊の専門書の内容報告と議論	事前	自身の関心テーマの参考になるようなバイブル専門書を選定し概要発表のために資料化(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
第3講	(第4回) 専門書読破とゼミ内共有③ (演習) (第5回) 専門書読破とゼミ内共有④ (演習) 各自の関心テーマ、研究テーマの中核に位置付けられるバイブルになるような一人各一冊の専門書の内容報告と議論	事前	自身の関心テーマの参考になるようなバイブル専門書を選定し概要発表のために資料化(7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
第4講	(第6回) 教育構想実践書の素案発表① (演習) (第7回) 教育構想実践書の素案発表② (演習) 教育機関、教育事業における新たな構想を提言するための素案について発表し議論する。この課題を通じて、データ収集、分析について計画を立てる。	事前	自身の教育構想実践書の素案作成と発表準備 (7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書の素案発表③ (演習) (第9回) 教育構想実践書の素案発表④ (演習) 教育機関、教育事業における新たな構想を提言するための素案について発表し議論する。この課題を通じて、データ収集、分析について計画を立てる。	事前	自身の教育構想実践書の素案作成と発表準備 (7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書の改善案発表① (演習) (第11回) 教育構想実践書の改善案発表② (演習) 素案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。	事前	自身の教育構想実践書の改善案作成と発表準備 (7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
第7講	(第12回) 教育構想実践書の改善案発表③ (演習) (第13回) 教育構想実践書の改善案発表④ (演習) 素案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。	事前	自身の教育構想実践書の改善案作成と発表準備 (7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
第8講	(第14回) 中間報告1 (演習)	事前	自身の教育構想実践書の中間報告案の作成と発表準備 (7h)

	(第 15 回) 中間報告 2 (演習) 各自の中間報告用に取り纏めた教育構想実践書を発表し議論する。	事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
定期試験	試験ではなく、前後期を通じて教育構想実践書の提出を求める。		
使用テキスト	教科書は指定しないが、必要に応じて参考書は推奨する。		
参考文献	柴山慎一 (2011) 『コーポレートコミュニケーション経営』東洋経済新報社 清水正道、柴山慎一ほか (2019) 『インターナル・コミュニケーション経営』経団連出版 ほか研究テーマに応じて		
受講生に対する評価	授業の進め方は、ゼミ生各自の発表とゼミ生全員参加のディスカッションを中心とする。ゼミ活動中の参加姿勢や他者への貢献、ディスカッションへの関与などの平常点と最終報告される教育構想実践書をもとに評価する。平常点 70%、教育構想実践書 30%		
課題等に対するフィードバック	フィードバックは受講生毎に都度、授業の中で行うが、必要に応じて個別に行う。 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	社会人院生が中心になることから受講生の余裕のある時間帯を確保する。主に平日夜間と土曜日など (要予約)。		
受講生へのメッセージ*任意項目	教育構想実践書は個人制作するものですが、ゼミでの発表の準備や、ゼミ内での議論などのゼミ活動そのものは、ゼミ生一体となった団体戦になります。お互いに切磋琢磨し合いながら、貢献し合う姿勢を求めます。		
備考 *任意項目			
授業用 URL *任意項目			
授業用 E-Mail *任意項目			

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	藤本典裕

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したリサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	現代の学校教育制度をめぐる諸課題について、特に学校教職員の役割とその変化などに着目しながら検討する。「チームとしての学校」が求められる背景と現状など、児童・生徒の学びを保障するための条件を念頭に置いて考察する。これらを踏まえ、受講者各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。  ○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる

授業計画 (授業は1回を90分とし、2回連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした前期研究計画の執筆 (3h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定1 (演習) (第3回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定2 (演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者のテーマに応じて、論文または報告書 (それに相当する書籍の1章分相当) を読み、発表する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第4講	(第6回) 研究計画書の骨子1 (演習) (第7回) 研究計画書の骨子2 (演習) 各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体化するために討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) データ収集・分析計画1 (演習) (第9回) データ収集・分析計画2 (演習) 研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第6講	(第10回) 研究計画書の骨子3 (演習) (第11回) 研究計画書の骨子4 (演習) 調査結果を基に、研究の骨子を再構築する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) データ収集・分析計画3 (演習) (第13回) データ収集・分析計画4 (演習) 新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第8講	(第14回) 仮説の検討1 (演習) (第15回) 仮説の検討2 (演習) 主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		

受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。  そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</li> </ul>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	山田 恒夫

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したリサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。	
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。 【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。	
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	各教員の専門から各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。  ○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる	
<b>授業計画</b> （授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある）		<b>授業外の学習</b> （60時間）
第1講	（第1回）イントロダクション（演習） 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究	事前 シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした前期研究計画の執筆（3h）

	構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定1 (演習) (第3回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定2 (演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者のテーマに応じて、論文または報告書(それに相当する書籍の1章分相当)を読み、発表する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第4講	(第6回) 研究計画書の骨子1 (演習) (第7回) 研究計画書の骨子2 (演習) 各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体化するために討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) データ収集・分析計画1 (演習) (第9回) データ収集・分析計画2 (演習) 研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第6講	(第10回) 研究計画書の骨子3 (演習) (第11回) 研究計画書の骨子4 (演習) 調査結果を基に、研究計画書の骨子を再構築する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) データ収集・分析計画3 (演習) (第13回) データ収集・分析計画4 (演習) 新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第8講	(第14回) 仮説の検討1 (演習) (第15回) 仮説の検討2 (演習) 主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
定期試験	期末の定期試験は実施しない。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> </ul>		

	から総合的に評価する。
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	山本 淳子

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したリサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	保育・幼児教育について各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。  ○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる
<b>授業計画</b> （授業は 1 回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある）	<b>授業外の学習</b> （60 時間）

第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした 前期研究計画の執筆 (3h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定1 (演習) (第3回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定2 (演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者のテーマに応じて、論文または報告書 (それに相当する書籍の1章分相当) を読み、発表する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第4講	(第6回) 研究計画書の骨子1 (演習) (第7回) 研究計画書の骨子2 (演習) 各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体化するために討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) データ収集・分析計画1 (演習) (第9回) データ収集・分析計画2 (演習) 研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第6講	(第10回) 研究計画書の骨子3 (演習) (第11回) 研究計画書の骨子4 (演習) 調査結果を基に、研究の骨子を再構築する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) データ収集・分析計画3 (演習) (第13回) データ収集・分析計画4 (演習) 新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第8講	(第14回) 仮説の検討1 (演習) (第15回) 仮説の検討2 (演習) 主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		

受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。  そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</li> </ul>
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	授業の前後
受講生へのメッセージ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	大和田順子

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したリサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	SDGs、ESD とソーシャルイノベーションに関するテーマから各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。  ○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる
<b>授業計画</b> （授業は 1 回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合があります）	<b>授業外の学習</b> （60 時間）

第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした 前期研究計画の執筆 (3h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定1 (演習) (第3回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定2 (演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者のテーマに応じて、論文または報告書 (それに相当する書籍の1章分相当) を読み、発表する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第4講	(第6回) 研究計画書の骨子1 (演習) (第7回) 研究計画書の骨子2 (演習) 各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体化するために討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) データ収集・分析計画1 (演習) (第9回) データ収集・分析計画2 (演習) 研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第6講	(第10回) 研究計画書の骨子3 (演習) (第11回) 研究計画書の骨子4 (演習) 調査結果を基に、研究の骨子を再構築する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) データ収集・分析計画3 (演習) (第13回) データ収集・分析計画4 (演習) 新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第8講	(第14回) 仮説の検討1 (演習) (第15回) 仮説の検討2 (演習) 主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		

受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (50%)</li> <li>・レポート (25%)</li> <li>・討議 (25%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。  そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</li> </ul>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	妹尾昌俊

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したリサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	教職員のウェルビーイング、教職員政策、人材マネジメントに関する各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。  ○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる
<b>授業計画</b> （授業は 1 回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある）	<b>授業外の学習</b> （60 時間）

第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした 前期研究計画の執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定1 (演習) (第3回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定2 (演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。解決の方向性のひとつとして、教育テックの活用、教育DXについても注目した指導、討議を行う。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) 先行研究等のリサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 研究計画書の骨子1 (演習) (第5回) 研究計画書の骨子2 (演習) 各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体化するために討議する。	事前	前回課題の執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) 研究計画書骨子の修正 (5h)
第4講	(第6回) データ収集・分析計画1 (演習) (第7回) データ収集・分析計画2 (演習) 研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回課題の執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) データ収集、分析計画の修正 (3h)
第5講	(第8回) データ収集・分析の実施1 (演習) (第9回) データ収集・分析の実施2 (演習) 個人単位もしくはチーム単位で、研究計画書骨子の仮説を検証、修正するため、定量的な調査ないし定性的な調査で実施するための準備を行う。	事前	前回課題の執筆 (2h)
		事後	データ収集・分析 (8h)
第6講	(第10回) データ収集・分析の実施3 (演習) (第11回) データ収集・分析の実施4 (演習) データ収集・分析結果をもちより、共有したうえで、分析方法や解釈についてディスカッションする。 研究の骨子を再構築する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) 仮説の検討、報告1 (演習) (第13回) 仮説の検討、報告2 (演習) 個人もしくはチームで、課題分析したことや政策・施策のアイデアについて、関係者等に発表する。	事前	前回課題の執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第8講	(第14回) 仮説の検討、報告3 (演習) (第15回) 仮説の検討、報告4 (演習)	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー

	主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。		(1h) リサーチワーク (5h)
定期試験	各自の発表（発表資料提出）及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容（50%）</li> <li>・レポート（25%）</li> <li>・討議（25%）</li> </ul>		
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。 そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</li> </ul>		
オフィスアワー （オンライン曜日・時間）	特定の時間は定めません。事前にメール等で予約してください。		
受講生へのメッセージ*任意項目	<p>複数回分をまとめて実施する場合がある。通常はオンラインだが、対面での合宿形式なども含めることを検討する。</p> <p>担当教員の1年後期の教育構想研究と連続性はあるが、別の教員のゼミを履修していて、今回新規参加であっても歓迎する。</p>		
備考 *任意項目			
授業用 URL *任意項目			
授業用 E-Mail *任意項目			

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	松田 孝

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したリサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	教育 Tech と①非認知能力、②プログラミング教育、③学校経営等との関わりをめぐって各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。  ○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる
<b>授業計画</b> （授業は 1 回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合があります）	<b>授業外の学習</b> （60 時間）

第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした 前期研究計画の執筆 (3h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定1 (演習) (第3回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定2 (演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の具体的な進め方について討議する。 研究実証のための準備	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者のテーマに応じて、論文または報告書 (それに相当する書籍の1章分相当) を読み、発表する。 「教育構想実践書」の序章部分の作成	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第4講	(第6回) 研究計画書の骨子1 (演習) (第7回) 研究計画書の骨子2 (演習) 各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体化するために討議する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) データ収集・分析計画1 (演習) (第9回) データ収集・分析計画2 (演習) 研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。 データ収集のための具体的な段取り	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第6講	(第10回) 研究計画書の骨子3 (演習) (第11回) 研究計画書の骨子4 (演習) 調査結果の整理と分析 調査結果を基に、研究の骨子を再構築する。	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) データ収集・分析計画3 (演習) (第13回) データ収集・分析計画4 (演習) 新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	データ収集 (6h)
第8講	(第14回) 仮説の検討1 (演習) (第15回) 仮説の検討2 (演習) 主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。 「教育構想実践書」のSUMMARYと序章の作成	事前	データ分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)

定期試験	各自の発表（発表資料提出）及び、レポートとする。
使用テキスト	別途指示する
参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容（50%）</li> <li>・レポート（25%）</li> <li>・討議（25%）</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー （オンライン曜日・ 時間）	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅰ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年前期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	大和田 茂

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に工学／情報科学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経済／経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）を履修し単位取得していること。 学期前（3 月）に希望する指導教員を選択する。1 年次で作成したリサーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定する。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅰ）】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆するにあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	技術的な面から各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。  ○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事前	自己紹介と抱負を発表する準備。1年次にサーベイした内容から変更する場合は新しい内容で。(1h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h) 自分の抱負を改善・レポートに (3h)
第2講	(第2回) 研究計画書の書き方 (講義) (第3回) 研究計画書の骨子1 (演習) 研究計画書の書き方を学び、実際に書く。 (倫理審査書類も書き始める)	事前	
		事後	研究計画書・倫理審査書類執筆 (8h)
第3講	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 各履修者のテーマに応じたサーベイ結果を発表する。1年次に終了している場合は、研究計画書の執筆に移っても良い。	事前	
		事後	研究計画書・倫理審査書類執筆 (8h)
第4講	(第6回) 研究計画書の骨子2 (演習) (第7回) 論文ドラフト執筆1 (演習) 各履修者の研究の骨子を考えながら、最終的な論文執筆も開始する。	事前	
		事後	研究計画書・倫理審査書類・論文執筆 (8h)
第5講	(第8回) データ収集・分析計画1 (演習) (第9回) 論文ドラフト執筆2 (演習) 研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。	事前	
		事後	研究計画プレゼンテーション作成 (8h)
第6講	(第10回) 研究計画共有1 (演習) (第11回) 研究計画共有2 (演習) 履修者の前で、自分の研究計画をプレゼンテーションし、ディスカッションする。	事前	
		事後	リサーチワークと発表準備 (8h)
第7講	(第12回) 研究進捗発表 (演習) (第13回) 研究活動 (演習) 進捗発表と研究実施	事前	
		事後	リサーチワークと発表準備・論文の改善・中間発表準備 (8h)
第8講	(第14回) 研究中間発表1 (演習) (第15回) 研究中間発表2 (演習) ここまでの結果をまとめ、共有。後期への道筋についてもディスカッション	事前	
		事後	リサーチワーク・論文ドラフトの提出 (7h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		

参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表・レポート (30%)</li> <li>・論文ドラフト (70%)</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセージ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

## 教育構想研究（Ⅱ）

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	竹村治雄

### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。	
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。</p>	
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	<p>ICT の教育応用に関して研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。</p> <p>○教育構想研究（Ⅰ）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる</p>	
<b>授業計画</b> （授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある）	<b>授業外の学習</b> （60時間）	

第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 教育構想研究 (I) を踏まえ、研究成果を共有する。	事前	後期研究計画の執筆 (3h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回) 研究計画書の骨子再検討2 (演習) 教育構想研究 (I) の助言を踏まえ、各履修者の研究成果報告書の骨子の状況について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 研究仮説の実践計画1 (演習) (第5回) 研究仮説の実践計画2 (演習) 教育構想研究 (I) の仮説を踏まえ、各履修者に対応する実践に関する計画について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	フィールド実践・実装 (6h)
第4講	(第6回) 教育構想実践書指導1 (演習) (第7回) 教育構想実践書指導2 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	実践結果分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書指導3 (演習) (第9回) 教育構想実践書指導4 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書指導5 (演習) (第11回) 教育構想実践書指導6 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) 教育構想実践書指導7 (演習) (第13回) 教育構想実践書指導8 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第8講	(第14回) 教育構想実践書 発表 (演習) (第15回) 教育構想実践書 発表 (演習) 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポート (教育構想実践書) とする。		
使用テキスト	LMS 上で提供する。		
参考文献	LMS 上で参考リンクを提示する。		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (30%)</li> <li>・教育構想実践書の内容 (70%)</li> </ul>		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセージ*任意項目</b>	<p>本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。</p> <p>授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。</p>
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	秋田 次郎

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に工学／情報科学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経済／経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。</p>
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>近代経済学・計量経済学を背景とする教育テックの領域で研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。</p> <p>○教育構想研究（Ⅰ）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる</p>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 教育構想研究 (I) を踏まえ、研究成果を共有する。	事前	後期研究計画の執筆 (3h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回) 研究計画書の骨子再検討2 (演習) 教育構想研究 (I) の助言を踏まえ、各履修者の研究成果報告書の骨子の状況について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 研究仮説の実践計画1 (演習) (第5回) 研究仮説の実践計画2 (演習) 教育構想研究 (I) の仮説を踏まえ、各履修者に対応する実践に関する計画について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	フィールド実践・実装 (6h)
第4講	(第6回) 教育構想実践書指導1 (演習) (第7回) 教育構想実践書指導2 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	実践結果分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書指導3 (演習) (第9回) 教育構想実践書指導4 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書指導5 (演習) (第11回) 教育構想実践書指導6 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) 教育構想実践書指導7 (演習) (第13回) 教育構想実践書指導8 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第8講	(第14回) 教育構想実践書 発表 (演習) (第15回) 教育構想実践書 発表 (演習) 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポート (教育構想実践書) とする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (30%)</li> <li>・教育構想実践書の内容 (70%)</li> </ul>		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセージ*任意項目</b>	本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。 授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	河崎 雷太

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	本講座では、ゲームライクな教育を構想する。その手法としてコンピュータグラフィックスや VR などの活用を学ぶ。例えば、近年、楽器の演奏スキルを向上させるゲームライクな教育アプリがある。そのような考え方を様々な教育への適用を研究する。  飽きてしまいがちなスキル教育には、学びたい気持ちを起こさせる行動変容が必要である。ゲームはやりたい気持ちを作る仕組みの宝庫であり、行動変容を起こさせる「寄り添い（コーチ）」とタイミングよい「インセンティブ」を実装していると考えられる。

	<p>今後、ウェアラブルデバイスでの24時間コーチングや、VRによる疑似体験で行動変容した後（あるいは変容しなかった）の将来をリアルに体験するなど、ゲーム的な要素をより深く与えることができるようになる。そのような未来に向けての新しい教育をベースに、研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。</p> <p>○教育構想研究（I）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる</p>		
授業計画（授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります）		授業外の学習（60時間）	
第1講	（第1回）イントロダクション（演習） 教育構想研究（I）を踏まえ、研究成果を共有する。	事前	後期研究計画の執筆（3h）
		事後	履修生同士の相互レビュー（1h）
第2講	（第2回）研究計画書の骨子再検討1（演習） （第3回）研究計画書の骨子再検討2（演習） 教育構想研究（I）の助言を踏まえ、各履修者の研究成果報告書の骨子の状況について検討する。	事前	前回レポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（5h）
第3講	（第4回）研究仮説の実践計画1（演習） （第5回）研究仮説の実践計画2（演習） 教育構想研究（I）の仮説を踏まえ、各履修者に対応する実践に関する計画について検討する。	事前	前回レポートの執筆（2h）
		事後	フィールド実践・実装（6h）
第4講	（第6回）教育構想実践書指導1（演習） （第7回）教育構想実践書指導2（演習） 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	実践結果分析（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（5h）
第5講	（第8回）教育構想実践書指導3（演習） （第9回）教育構想実践書指導4（演習） 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（5h）
第6講	（第10回）教育構想実践書指導5（演習） （第11回）教育構想実践書指導6（演習） 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（5h）
第7講	（第12回）教育構想実践書指導7（演習） （第13回）教育構想実践書指導8（演習） 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆（2h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（5h）

第8講	(第14回)教育構想実践書 発表(演習) (第15回)教育構想実践書 発表(演習) 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	前回レポートの執筆(2h) 発表準備(5h)
		事後	履修者同士の相互レビュー(1h)
定期試験	各自の発表(発表資料提出)及び、レポート(教育構想実践書)とする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表内容(30%)</li> <li>教育構想実践書の内容(70%)</li> </ul>		
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的には、授業の中で行う。</li> <li>本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>		
オフィスアワー (オンライン曜日・時間)	授業の前後		
受講生へのメッセージ*任意項目	<p>本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。</p> <p>授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。</p>		
備考 *任意項目			
授業用 URL *任意項目			
授業用 E-Mail *任意項目			

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	木岡一明

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。</p> <p>自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。</p>
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	<p>学校組織開発を促進する研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。</p> <p>○教育構想研究（Ⅰ）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる。</p>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) 後期イントロダクション (演習) 教育構想研究 (I) を踏まえ、講義概要を理解し、今後の学修を見通す。また、後期の研究計画書を発表し、全体で適切性を討議する。	事前	後期の研究計画書を作成する (2h)
		事後	討議をもとに、必要に応じて研究計画書を修正する (2h)
第2講	(第2回) 研究計画書の骨子再検討 (演習) 前回の討議を基に修正した研究計画書の骨子をプレゼンし、適切性を全体で吟味する。 (第3回) 研究主題の明確化 (演習) なぜそれを研究主題とし、いかなる方法を用いて何をどこまで明らかにできるのか、それによって研究対象にどのようなメリットが生じるのかについて説得力のあるプレゼンテーションを行い、全体で適切性を討議する。	事前	修正した研究計画書の骨子と研究主題について整理し、説得力のあるプレゼンテーションを準備する (6h)
		事後	討議をもとに、必要に応じてプレゼンシートを修正する (2h)
第3講	(第4回) 研究対象の現状分析 (演習) 教育ビジョンに照らして研究対象がどのような現状にあるのかの分析・考察を精緻な論理でプレゼンテーションを行い、全体で適切性を討議する。 (第5回) 研究仮説の吟味 なぜその研究仮説が成立するのか、その仮説の立証にいかなる価値があるのかについて精緻な論理でプレゼンテーションを行い、全体で適切性を討議する。	事前	前期に描き出した教育ビジョンに照らした現状分析を行い、プレゼンシートにまとめるとともに、研究仮説に関してプレゼンシートをまとめる (6h)
		事後	討議をもとに、必要に応じてプレゼンシートを修正する (2h)
第4講	(第6回) 研究仮説の実践計画1 (演習) 吟味された研究仮説を踏まえ、その仮説検証のための実践に関する計画を発表し、全体で適切性を検討する。 (第7回) 研究仮説の実践計画2 (演習) 検討を基に、実践計画を再構築する。	事前	これまでの学修をもとに研究仮説を検証するための実践計画を作成する (6h)
		事後	討議をもとに、必要に応じて実践計画を修正する (2h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書指導1 (演習) 研究成果を発表し、全体で残された課題を検討・抽出する。 (第9回) 教育構想実践書指導2 (演習) 抽出された課題について、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを全体で検討する。	事前	これまでの研究成果を整理し、得られた知見と残された課題についてプレゼンシートにまとめる (4h)
		事後	討議をもとに、教育構想実践書案を作成する (4h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書指導3 (演習) どのようなデータがどのような方法で収集されていて、どのように分析し、考察しているのかに	事前	これまでに収集できたデータについて分析と考察を行い、プレゼンシートにまとめる (6h)
		事後	討議をもとに、必要に応じて研究

	<p>ついてプレゼンテーションを行い、さらなるデータ収集あるいはデータ分析が必要かを全体で吟味する。</p> <p>(第11回) 教育構想実践書指導4 (演習)</p> <p>吟味された結果を基に、追調査の必要性を検討し、今後の研究計画を見直す。</p>		計画を修正する (2h)
第7講	<p>(第12回) 教育構想実践書指導5 (演習)</p> <p>追調査で収集したデータとその分析、新たに深まった考察についてプレゼンテーションし、全体で適切性を吟味する。</p> <p>(第13回) 教育構想実践書指導6 (演習)</p> <p>全体での吟味を基に、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。</p>	事前	新たに収集できたデータの分析と考察を行うとともに、これまでのデータ分析と考察を深め、プレゼンシートにまとめる (4h)
		事後	討議をもとに、必要に応じて教育構想実践書を修正する (4h)
第8講	<p>(第14回) 教育構想実践書プレゼンテーション1</p> <p>完成させた「教育構想実践書」の模擬プレゼンテーションを行い、その共感度や説得性について討議する。</p> <p>(第15回) 教育構想実践書プレゼンテーション2</p> <p>討議を基にプレゼンテーションを修正し、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝えるスキルを獲得する。</p>	事前	これでの学修をもとに「教育構想実践書」を完成させるとともに、その説明用としてこれまでのプレゼンテーションを集約する (4h)
		事後	討議をもとに、必要に応じて「教育構想実践書」を修正して提出する (4h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び討議、レポート (教育構想実践書) とする。		
使用テキスト	必要に応じて別途指示する。		
参考文献	必要に応じて別途紹介する。		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (25%)</li> <li>・教育構想実践書 (50%)</li> <li>・討議 (25%)</li> </ul>		
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをするこ</p>		

	と。
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	原則として毎週水曜日・18:00~20:00 希望する人は事前予約してください。
受講生へのメッセー ジ*任意項目	
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	柴山 慎一

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。</p>
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	<p>教育機関経営について、そのベースになる組織論を通じて組織のあり方やマネジメントの理論を学び、マーケティングや広報・ブランディングの理論を通じて、教育機関の成長に向けた戦略・施策の考え方をベースに、研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。</p> <p>○教育構想研究（Ⅰ）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる</p>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) オリエンテーション (演習) 研究の全体像とゴールイメージ、受講生の問題意識、進め方などについての中間地点としての再共有	事前	各自の教育構想実践書につながるような問題意識を再整理(3h)
		事後	他のゼミ生の問題意識との差異を振り返り(1h)
第2講	(第2回) 教育構想実践書の改善案発表① (演習) (第3回) 教育構想実践書の改善案発表② (演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。特に研究仮説の実践計画を策定する。	事前	自身の教育構想実践書の改善案作成と発表準備 (7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
第3講	(第4回) 教育構想実践書の改善案発表③ (演習) (第5回) 教育構想実践書の改善案発表④ (演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。特に研究仮説の実践計画を策定する。	事前	自身の教育構想実践書の改善案作成と発表準備 (7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
第4講	(第6回) 教育構想実践書の改善案発表⑤ (演習) (第7回) 教育構想実践書の改善案発表⑥ (演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。特に、教育構想実践書の実践を目指す具体的指導を行う。	事前	自身の教育構想実践書の改善案作成と発表準備 (7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書の改善案発表⑦ (演習) (第9回) 教育構想実践書の改善案発表⑧ (演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。特に、教育構想実践書の実践を目指す具体的指導を行う。	事前	自身の教育構想実践書の改善案作成と発表準備 (7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書の改善案発表⑨ (演習) (第11回) 教育構想実践書の改善案発表⑩ (演習)	事前	自身の教育構想実践書の改善案作成と発表準備 (7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)

	習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。		けての振り返り (1h)
第7講	(第12回)教育構想実践書の改善案発表⑪(演習) (第13回)教育構想実践書の改善案発表⑫(演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議論する。	事前	自身の教育構想実践書の改善案作成と発表準備 (7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
第8講	(第14回)教育構想実践書 発表(演習) (第15回)教育構想実践書 発表(演習) 各自の最終審査用に取り纏めた教育構想実践書を発表し議論する。	事前	自身の教育構想実践書の最終案の作成と発表準備 (7h)
		事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表を受けての振り返り (1h)
定期試験	試験ではなく、前後期を通じて教育構想実践書の提出を求める。		
使用テキスト	教科書は指定しないが、必要に応じて参考書は推奨する。		
参考文献	柴山慎一(2011)『コーポレートコミュニケーション経営』東洋経済新報社 清水正道、柴山慎一ほか(2019)『インターナル・コミュニケーション経営』経団連出版 ほか研究テーマに応じて		
受講生に対する評価	授業の進め方は、ゼミ生各自の発表とゼミ生全員参加のディスカッションを中心とする。ゼミ活動中の参加姿勢や他者への貢献、ディスカッションへの関与などの平常点と最終報告される教育構想実践書をもとに評価する。平常点50%、教育構想実践書50%		
課題等に対するフィードバック	フィードバックは受講生毎に都度、授業の中で行うが、必要に応じて個別に行う。 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。		
オフィスアワー(オンライン曜日・時間)	社会人院生が中心になることから受講生の余裕のある時間帯を確保する。主に平日夜間と土曜日など(要予約)。		
受講生へのメッセージ*任意項目	本教育構想実践書は個人制作するものですが、ゼミでの発表の準備や、ゼミ内での議論などのゼミ活動そのものは、ゼミ生一体となった団体戦		

	になります。お互いに切磋琢磨し合いながら、貢献し合う姿勢を求めます。
備考 * 任意項目	
授業用 URL * 任意項目	
授業用 E-Mail * 任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	藤本典裕

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。</p>
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	<p>現代の学校教育制度をめぐる諸課題について、特に学校教職員の役割とその変化などに着目しながら検討する。「チームとしての学校」が求められる背景と現状など、児童・生徒の学びを保障するための条件を念頭に置いて考察する。これらを踏まえ、受講者各自が研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。</p> <p>○教育構想研究（Ⅰ）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる</p>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 教育構想研究 (I) を踏まえ、研究成果を共有する。	事前	後期研究計画の執筆 (3h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回) 研究計画書の骨子再検討2 (演習) 教育構想研究 (I) の助言を踏まえ、各履修者の研究成果報告書の骨子の状況について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 研究仮説の実践計画1 (演習) (第5回) 研究仮説の実践計画2 (演習) 教育構想研究 (I) の仮説を踏まえ、各履修者に対応する実践に関する計画について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	フィールド実践・実装 (6h)
第4講	(第6回) 教育構想実践書指導1 (演習) (第7回) 教育構想実践書指導2 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	実践結果分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書指導3 (演習) (第9回) 教育構想実践書指導4 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書指導5 (演習) (第11回) 教育構想実践書指導6 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) 教育構想実践書指導7 (演習) (第13回) 教育構想実践書指導8 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第8講	(第14回) 教育構想実践書 発表 (演習) (第15回) 教育構想実践書 発表 (演習) 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポート (教育構想実践書) とする。		

使用テキスト	別途指示する
参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容（30%）</li> <li>・教育構想実践書の内容（70%）</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に依拠して探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	<p>本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。</p> <p>授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。</p>
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	山田 恒夫

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。	
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。 【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。	
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。  ○教育構想研究（Ⅰ）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる	
<b>授業計画</b> （授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある）		<b>授業外の学習</b> （60時間）
第1講	（第1回）イントロダクション（演習） 教育構想研究（Ⅰ）を踏まえ、研究成果を共有す	事前 後期研究計画の執筆（3h）
		事後 履修生同士の相互レビュー（1h）

	る。		
第2講	(第2回) 研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回) 研究計画書の骨子再検討2 (演習) 教育構想研究 (I) の助言を踏まえ、研究成果報告書の骨子 について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 研究仮説の実践計画1 (演習) (第5回) 研究仮説の実践計画2 (演習) 教育構想研究 (I) の仮説を踏まえ、研究 実践に関する実施計画について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	フィールド実践・実装 (6h)
第4講	(第6回) 教育構想実践書指導1 (演習) (第7回) 教育構想実践書指導2 (演習) 研究実践で想定される課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	実践結果分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書指導3 (演習) (第9回) 教育構想実践書指導4 (演習) 研究実践で想定される、あるいは見いだされた課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書指導5 (演習) (第11回) 教育構想実践書指導6 (演習) 引き続き、研究実践で想定される、あるいは見いだされた課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) 教育構想実践書指導7 (演習) (第13回) 教育構想実践書指導8 (演習) 引き続き、研究実践で想定される、あるいは見いだされた課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第8講	(第14回) 教育構想実践書 発表 (演習) (第15回) 教育構想実践書 発表 (演習) 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者と共有、相互に評価する。	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)
定期試験	期末の定期試験は実施しない。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (30%)</li> <li>・教育構想実践書の内容 (70%)</li> </ul> から総合的に評価する。		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセージ*任意項目</b>	<p>本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。</p> <p>授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。</p>
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	山本 淳子

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。	
<b>授業の概要</b>	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。  【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。	
<b>授 業 の テ ー マ 及び到達目標</b>	保育・幼児教育分野での研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。  ○教育構想研究（Ⅰ）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる	
<b>授業計画</b> （授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります）	<b>授業外の学習</b> （60時間）	
第1講		事前 後期研究計画の執筆（3h）

	(第1回) イントロダクション (演習) 教育構想研究 (I) を踏まえ、研究成果を共有する。	事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回) 研究計画書の骨子再検討2 (演習) 教育構想研究 (I) の助言を踏まえ、各履修者の研究成果報告書の骨子の状況について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 研究仮説の実践計画1 (演習) (第5回) 研究仮説の実践計画2 (演習) 教育構想研究 (I) の仮説を踏まえ、各履修者に対応する実践に関する計画について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	フィールド実践・実装 (6h)
第4講	(第6回) 教育構想実践書指導1 (演習) (第7回) 教育構想実践書指導2 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	実践結果分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書指導3 (演習) (第9回) 教育構想実践書指導4 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書指導5 (演習) (第11回) 教育構想実践書指導6 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) 教育構想実践書指導7 (演習) (第13回) 教育構想実践書指導8 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第8講	(第14回) 教育構想実践書 発表 (演習) (第15回) 教育構想実践書 発表 (演習) 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポート (教育構想実践書) とする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (30%)</li> <li>・教育構想実践書の内容 (70%)</li> </ul>		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセージ*任意項目</b>	<p>本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。</p> <p>授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。</p>
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	大和田順子

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。					
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。</p>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>SDGs、ESD とソーシャルイノベーションに関するテーマから研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。</p> <p>○教育構想研究（Ⅰ）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる</p>					
<b>授業計画</b> （授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります）	<b>授業外の学習</b> （60時間）					
第1講	（第1回）イントロダクション（演習） 教育構想研究（Ⅰ）を踏まえ、研究成果を共有す	<table border="1"> <tr> <td>事前</td> <td>後期研究計画の執筆（3h）</td> </tr> <tr> <td>事後</td> <td>履修生同士の相互レビュー（1h）</td> </tr> </table>	事前	後期研究計画の執筆（3h）	事後	履修生同士の相互レビュー（1h）
	事前	後期研究計画の執筆（3h）				
事後	履修生同士の相互レビュー（1h）					

	る。		
第2講	(第2回) 研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回) 研究計画書の骨子再検討2 (演習) 教育構想研究 (I) の助言を踏まえ、各履修者の研究成果報告書の骨子の状況について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 研究仮説の実践計画1 (演習) (第5回) 研究仮説の実践計画2 (演習) 教育構想研究 (I) の仮説を踏まえ、各履修者に対応する実践に関する計画について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	フィールド実践・実装 (6h)
第4講	(第6回) 教育構想実践書指導1 (演習) (第7回) 教育構想実践書指導2 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	実践結果分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書指導3 (演習) (第9回) 教育構想実践書指導4 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書指導5 (演習) (第11回) 教育構想実践書指導6 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) 教育構想実践書指導7 (演習) (第13回) 教育構想実践書指導8 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第8講	(第14回) 教育構想実践書 発表 (演習) (第15回) 教育構想実践書 発表 (演習) 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポート (教育構想実践書) とする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (30%)</li> <li>・教育構想実践書の内容 (70%)</li> </ul>		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	授業の前後
<b>受講生へのメッセージ*任意項目</b>	<p>本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。</p> <p>授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。</p>
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	妹尾昌俊

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	●
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。	
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。</p>	
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>教職員のウェルビーイング、教職員政策、人材マネジメントに関する研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。</p> <p>○教育構想研究（Ⅰ）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる</p>	
<b>授業計画</b> （授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります）	<b>授業外の学習</b> （60時間）	
第1講	（第1回）イントロダクション（演習） 教育構想研究（Ⅰ）を踏まえ、研究成果を共有す	事前 後期研究計画の執筆（3h）
		事後 履修生同士の相互レビュー（1h）

	る。教育政策や学校の取組に資するように、より説得力を高めるための課題、方法等についても討議する。		
第2講	(第2回) 研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回) 研究計画書の骨子再検討2 (演習) 教育構想研究 (I) の助言を踏まえ、各履修者の研究成果報告書の骨子の状況について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 研究仮説の実践計画1 (演習) (第5回) 研究仮説の実践計画2 (演習) 教育構想研究 (I) の仮説を踏まえ、各履修者に対応する実践に関する計画について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	フィールド実践 (6h)
第4講	(第6回) 教育構想実践書指導1 (演習) (第7回) 教育構想実践書指導2 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	実践結果分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) フィールド実践、リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書指導3 (演習) (第9回) 教育構想実践書指導4 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) フィールド実践、リサーチワーク (5h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書指導5 (演習) (第11回) 教育構想実践書指導6 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) フィールド実践、リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) 教育構想実践書 発表1 (演習) (第13回) 教育構想実践書 発表2 (演習) 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) 発表内容のブラッシュアップ (5h)
第8講	(第14回) 教育構想実践書 発表3 (演習) (第15回) 教育構想実践書 発表4 (演習) 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポート (教育構想実践書) とする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容 (30%)</li> <li>・教育構想実践書の内容 (70%)</li> </ul>		

<b>課題等に対する フィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・ 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
<b>オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)</b>	<p>特定の時間は定めません。事前にメール等で予約してください。</p>
<b>受講生へのメッセー ジ*任意項目</b>	<p>本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。</p> <p>複数回分をまとめて実施する場合がある。通常はオンラインだが、対面での合宿形式なども含めることを検討する。</p>
<b>備考 *任意項目</b>	
<b>授業用 URL *任意項目</b>	
<b>授業用 E-Mail *任意項目</b>	

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	松田 孝

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。 (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。 (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。 (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。 (社会変革への構想能力)	●

履 修 条 件	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。	
授業の概要	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。</p>	
授業のテーマ及び到達目標	<p>教育 Tech と①非認知能力、②プログラミング教育、③学校経営等との関わりをめぐって研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。</p> <p>○教育構想研究（Ⅰ）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる</p>	
授業計画（授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合があります）	授業外の学習（60時間）	

第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 教育構想研究 (I) を踏まえ、研究成果を共有する。	事前	後期研究計画の執筆 (3h)
		事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回) 研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回) 研究計画書の骨子再検討2 (演習) 教育構想研究 (I) の助言を踏まえ、各履修者の研究成果報告書の骨子の状況について検討する。	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回) 研究仮説の実践計画1 (演習) (第5回) 研究仮説の実践計画2 (演習) 教育構想研究 (I) の仮説を踏まえ、各履修者に対応する実践に関する計画について検討する。 教育実践と教育課程、年間指導計画、学校経営	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	フィールド実践・実装 (6h)
第4講	(第6回) 教育構想実践書指導1 (演習) (第7回) 教育構想実践書指導2 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。 教育構想実践書の計画と学校現場 (実態) との乖離とその克服	事前	実践結果分析 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書指導3 (演習) (第9回) 教育構想実践書指導4 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。 教育構想実践書の計画とカリキュラムオーバーロードの検討	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書指導5 (演習) (第11回) 教育構想実践書指導6 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。 教育構想実践書の計画に基づく授業の指導計画の作成	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第12回) 教育構想実践書指導7 (演習) (第13回) 教育構想実践書指導8 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。 教育構想実践書と児童・生徒の資質・能力の検討	事前	前回レポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第8講	(第14回) 教育構想実践書 発表 (演習) (第15回) 教育構想実践書 発表 (演習) 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)

定期試験	各自の発表（発表資料提出）及び、レポート（教育構想実践書）とする。
使用テキスト	別途指示する
参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容（30%）</li> <li>・教育構想実践書の内容（70%）</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー （オンライン曜日・ 時間）	授業の前後
受講生へのメッセー ジ*任意項目	<p>本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。</p> <p>授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。</p>
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究（Ⅱ）
単位数	2 単位
単位区分（必修・選択・自由）	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分（講義・演習・実習）	演習
担当教員名	大和田 茂

#### DP との関連性

DP1	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義することができる。  (課題発見・要因定義能力)	●
DP2-1	教育界における課題に工学／情報科学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	●
DP2-2	教育界における課題に経済／経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。  (改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。  (科学的な検証能力)	●
DP4	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができる。  (社会変革への構想能力)	●

<b>履 修 条 件</b>	教育構想演習（Ⅰ）（Ⅱ）、教育構想研究（Ⅰ）を履修し単位取得していること。原則として研究（Ⅰ）と同じ指導教員となる。
<b>授業の概要</b>	<p>研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。</p> <p>【教育構想研究（Ⅱ）】では、履修者がたてた教育・社会変革のための仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身につける。</p>
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>	<p>技術的な面から研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。</p> <p>○教育構想研究（Ⅰ）で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる</p>

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60時間)	
第1講	(第1回) イントロダクション (演習) 教育構想研究 (I) を踏まえ、研究の中間成果を共有し、後期研究計画を見直す。	事前	発表準備 (3h)
		事後	研究計画書の改訂 (3h)
第2講	(第2回) 研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回) 研究仮説の実践計画1 (演習) 教育構想研究 (I) の助言を踏まえ、各履修者の研究成果報告書の骨子の状況、仮説検証の実践計画について検討する。	事前	
		事後	研究計画書の改訂 (4h) フィールド実践・実装 (4h)
第3講	(第4回) 教育構想実践書指導1 (講義) (第5回) 教育構想実践書指導2 (演習) 教育構想研究 (I) の仮説を踏まえ、各履修者に対応する実践計画について検討する。	事前	
		事後	教育構想実践書執筆 (4h) フィールド実践・実装・リサーチワーク (4h)
第4講	(第6回) 教育構想実践書指導3 (演習) (第7回) 教育構想実践書指導4 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	
		事後	教育構想実践書執筆 (4h) フィールド実践・実装・リサーチワーク (4h)
第5講	(第8回) 教育構想実践書指導5 (演習) (第9回) 教育構想実践書指導6 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	
		事後	教育構想実践書執筆 (4h) フィールド実践・実装・リサーチワーク (4h)
第6講	(第10回) 教育構想実践書 発表練習1 (演習) (第11回) 教育構想実践書指導8 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	
		事後	教育構想実践書執筆・発表準備 (4h) フィールド実践・実装・リサーチワーク (4h)
第7講	(第12回) 教育構想実践書 発表練習2 (演習) (第13回) 教育構想実践書指導10 (演習) 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事前	
		事後	教育構想実践書執筆・発表準備 (8h)
第8講	(第14回) 教育構想実践書 発表 (演習) (第15回) 教育構想実践書 発表 (演習) 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	
		事後	教育構想実践書最終盤作成 (6h)
定期試験	各自の発表 (発表資料提出) 及び、レポート (教育構想実践書) とする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		

受講生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容（30%）</li> <li>・教育構想実践書の内容（70%）</li> </ul>
課題等に対する フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業の中で行う。</li> <li>・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。</li> </ul> <p>そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。</p>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)	授業の前後
受講生へのメッセージ*任意項目	本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	